

株式会社神戸製鋼所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町2丁目10-26
東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12

問い合わせ先
<http://www.kobelco.co.jp/environment/kaiji/report/2011/index.html>



神戸製鋼グループ
環境・社会報告書2011
Sustainability Report 2011



神戸製鋼グループでは、「環境」イメージの浸透と社員への「環境」マインドの醸成を狙いとして、シンボルマークを設定しています。フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECOWAY」という言葉を組み合わせて「環境先進企業グループへの道を一歩ずつ確実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

多彩な事業活動そのものが、 神戸製鋼グループの 環境・社会貢献のステージです。

くらしと社会のすみずみまで広がる、多彩な事業。
その全てが、神戸製鋼グループの環境・社会貢献活動とつながっています。
例えば、最新の技術と現場の知恵を組み合わせ、
環境への負荷をできる限り少なくする生産プロセスを実現する。
エネルギーを効率的に活用しCO₂の排出を抑える、
新たな製品や技術を開発し、提供する。
国内外に広がる一つひとつの拠点が、地域の良き一員として、
地域社会の発展のためにできることを考え、実行する…。
神戸製鋼グループにとって、環境・社会貢献は、特別なことではありません。
毎日の当たり前業務の中に、環境保全や
社会貢献につながる活動が息づいているのです。
多彩な事業活動そのものを通じた、神戸製鋼グループの環境・社会貢献。
その最新の活動をご報告します。

2011年度版の編集方針

本報告書はCSR委員会下部組織の報告書作成部会が、各部門との議論を通じて、ステークホルダーの皆様にとって関心の高い事項や、事業活動としての重要性（マテリアリティ）の観点から、報告内容を選択して企画・編集しました。
本報告書は、「GRIガイドライン第3版」を参考にすると共に、環境報告については「環境報告ガイドライン2007年版」を、また防災については2005年8月1日に公表された防災に関するPR文書（中央防災会議企業評価・業務継続ワーキンググループ）を参考に作成しました。



Contents

あなたのとなり、 神戸製鋼グループの環境・社会貢献活動。	3
社長メッセージ	5
神戸製鋼グループの概要	7
特集	
誌上見学! 灘浜サイエンススクエア	9
CSR活動の基本的な考え方	13
コンプライアンスの強化・徹底	15

環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、 「環境先進企業グループ」を目指します。	
2010年度の活動ハイライト	17
環境マネジメント	19
環境経営基本方針と6つの実施事項	19
環境中長期目標および実績と評価	21
マテリアルバランス	23
環境活動 CLOSE UP	
「生物多様性への貢献」	25
環境活動・パフォーマンス	27
あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底	27
地球温暖化対策	27
資源循環の促進	30
化学物質の適正管理	32
環境負荷の低減	33
環境会計	34
製品・技術・サービスでの環境への貢献	35
製品を通じたCO ₂ 排出量削減	35
素材分野	37
機械・資源・エンジニアリング分野	38
研究開発での環境への貢献	41
環境関連情報の開示	42
社会との共生・協調	43
全員参加による取り組みの展開	44
リスク管理の徹底	45
海外事業所におけるリスク管理活動	46

社会性報告

多様なステークホルダーと、共に生きる、共に栄える。	
2010年度の活動ハイライト	47
社会貢献活動 CLOSE UP	
「ワチパト高炉復旧 技術支援プロジェクト」	49
お客様・お取引先様との関わり	51
社員が働きやすい職場環境	54
株主・投資家の皆様との関わり	57
社会との共生	59
グローバルな社会貢献活動	64
防災への取り組み	65

対象期間 / 対象組織

本報告書は、2011年度版として2010年度（2010年4月1日から2011年3月31日まで）の、神戸製鋼グループの環境および社会性に対する活動実績に基づいて作成しました（一部、対象期間外の内容を含みます）。環境への取り組みや社会貢献に関しての基本姿勢と、これまでの、そして現在、さらに将来の活動についても述べています。

神戸製鋼グループの環境データ	68
読者の皆様からの評価	75
第三者コメント	76

あなたのとなりに、 神戸製鋼グループの環境・社会貢献活動。

工場や街、くらしのすぐそばで。
神戸製鋼グループは、幅広い事業とオンリーワンの技術を駆使して、
環境と社会に貢献する活動を進めています。

CO₂排出量を抑え、地球温暖化防止に貢献します。

- 1 軽くて強い材料で自動車部品を軽量化し、燃費を向上させます。
- 2 高性能の銅管で、エアコンからのCO₂排出量を大きく削減します。
- 3 工場の電力消費を削減する、省エネルギー型の圧縮機・蒸気発電機をお届けします。
- 4 建設工事のCO₂排出量削減に向けて、燃費を20%も改善した油圧ショベルを開発。
- 5 クルマから、CO₂排出量の少ない船へ輸送をシフトします。
- 6 都市ガスにバイオ天然ガスを活用し、CO₂排出量を大幅に減らします。

廃棄物の削減やリサイクルを進めます。

- 5 製鉄所から発生するスラグで、魚のアパートをつくります。
- 6 ボイラから発生する石炭灰を、道路の路盤材に活用します。
- 7 副産物をできる限り再利用し、全ての工場でごみゼロを目指しています。

使われていない資源を、有効に活用します。

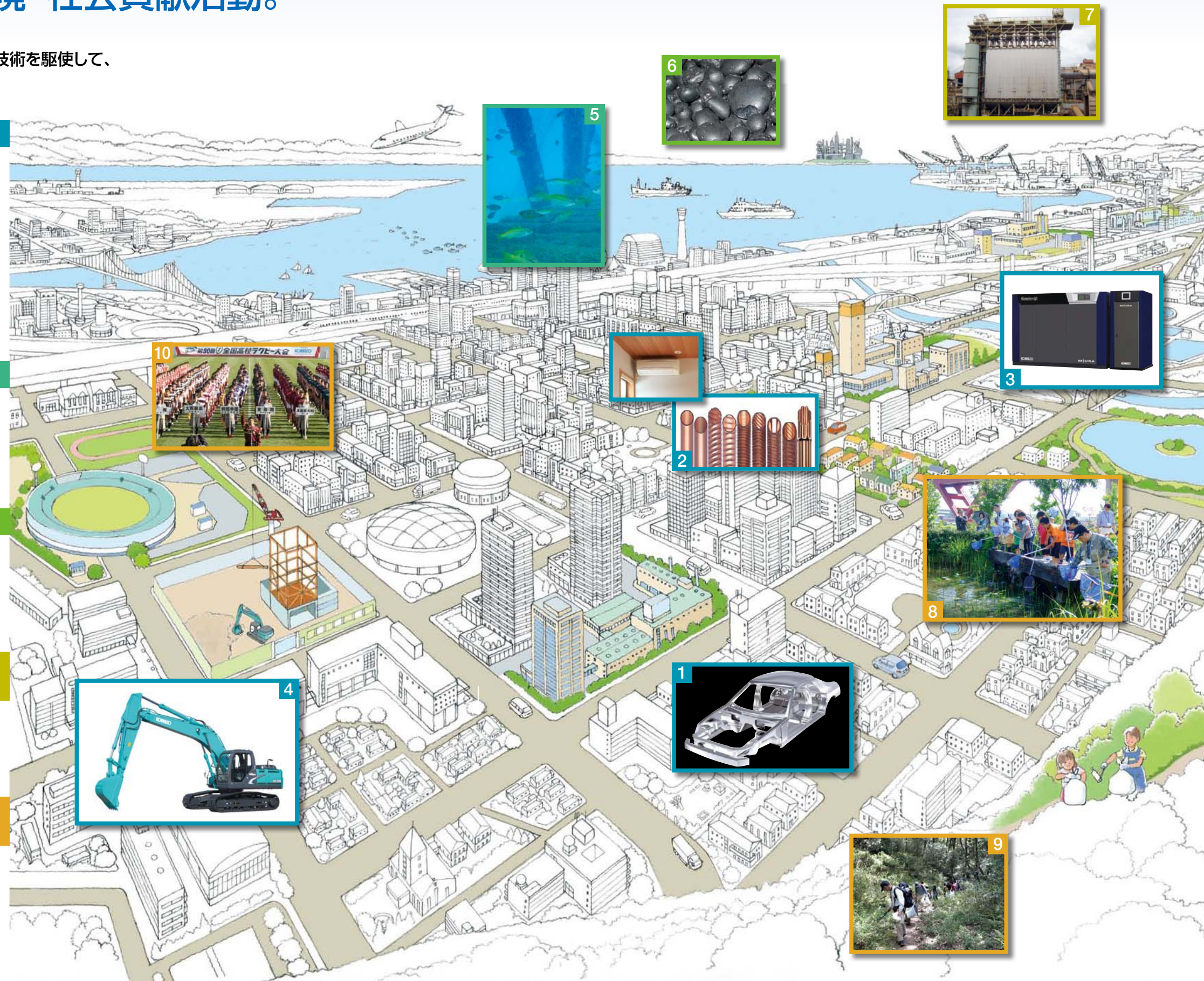
- 6 低品位の鉄鉱石・石炭を利用して製鉄する「ITmk3[®]」が稼働開始。
- 7 工場の余剰蒸気で発電する新発明「スチームスター[®]」。
- 8 低品位の石炭を高品位に変える「UBC[®]」技術を商業化予定。

有害な化学物質や、 環境に負荷を与える物質を減らします。

- 7 空気、水を汚す物質をできる限り排出しません。
- 8 グループの全工場で、安全性の高い化学物質への切り替えを進めています。

くらしや地域を元気にする、 さまざまな活動を推進します。

- 8 発電所のそばに、人と生き物がふれあうビオトープを。
- 9 社員ボランティアによるクリーンハイク。六甲山の自然再生を図ります。
- 10 全国高校ラグビー大会をはじめ、ラグビーを通じて社会とふれあいます。
- 11 環境を大切にすることを育む「自然教室」を、灘浜サイエンススクエアで開講。





神戸製鋼グループは、 3つの“G”を柱に、 環境と社会に貢献する 新しい価値を創造します。

皆様から信頼される「ものづくり」が、
神戸製鋼グループの使命。

私たちは、鉄鋼、溶接、アルミ・銅、産業機械、建設機械、エンジニアリング、環境ビジネス、電力卸供給、不動産など、広範な事業分野において、神戸製鋼グループならではの付加価値を持つ製品・技術・サービスを提供しています。

この中には、環境負荷の低減をはじめ、社会が直面するさまざまな課題解決に役立つ製品・技術が豊富に存在します。皆様からの信頼を得られるよう、環境や社会に貢献する「ものづくり」を進めていくことが、私たちの使命であると考えています。

「社会への貢献」を柱の一つとする、
中長期経営ビジョン
「KOBELCO VISION “G”」。

神戸製鋼グループは2010年4月に、5～10年後をターゲットにした中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」を策定し、その実現に向けて積極的な事業展開を行っています。“G”には「GROUP（グループ）」「GLOBAL（グローバル）」「GROWTH（成長）」の3つの意味が込められています。

「GROUP」は、グループ内の連携を良くし、組織全体の活性化を図って行く姿勢を指します。また、

「GLOBAL」は、日本で評価された優れた製品・技術を、需要拡大が期待される新興国を中心に世界へ広めていくことを指し、その結果としてグループ全体が「GROWTH」していくことを目指します。

「KOBELCO VISION “G”」では、これら3つの“G”をベースに置きながら、同時に「社会への貢献」を主要な取り組みの一つに掲げています。私たちは、世界を舞台に環境や社会に貢献する新しい価値を創造していきます。

グループ経営のあらゆる局面で、
“バリアフリー”を進めたい。

「KOBELCO VISION “G”」の推進にあたり、グループの総合力を発揮するため、組織や事業間の壁を乗り越えて、互いに良い議論を行い、社員一人ひとりが成長していくことが大切であると考えています。私たちは、これを“バリアフリー”と呼んでいます。グループ内で一層の“バリアフリー”を進めていくことが、ステークホルダーの皆様には様々な形で貢献していくことに繋がると考えています。

コンプライアンスこそ、
私たちのCSR活動の出発点です。

神戸製鋼グループは、企業としての社会的責任（CSR）を果たすためのあらゆる活動がコンプライアンスから始まると考えています。私たちは、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化をグループ全体で醸成していく仕組みを、さらに充実させてまいります。

皆様からの「信頼」と「期待」にお応えするべく、今後とも積極的に環境・社会貢献を進めてまいります。本報告書を通じて、神戸製鋼グループの活動にふれていただきたいと思います。

最後になりましたが、東日本大震災で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。私たちは1995年の阪神・淡路大震災において、主要設備を中心に甚大な被害を受けました。それから16年間、皆様からのご支援もあり、企業としての基盤を立て直すことが出来ました。震災を経験した企業として、様々な面でご支援・ご協力をさせて頂こうと思っております。本報告書においてもその一端を紹介しておりますので、ご一読頂ければ幸いです。

株式会社神戸製鋼所
代表取締役社長

佐藤 廣 士

グループ企業理念

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

神戸製鋼グループは、皆様の大きなご支援のもと、「技術と技能の研鑽に努め、製品やサービスの提供を通じて、社会のニーズに応えること」、「一人ひとりを互いに尊重しあいながらもグループの和を意識し、同じゴールに向かって一丸となって努力すること」により、社会の発展や働く人々の幸福を実現すべく活動してきました。また昨今の企業を取り巻く環境の厳しい変化の中では、「チャレンジ精神を持ち、変化に対して迅速に、かつ的確に対応すること」が一層重要になってきていると考えています。

上記の企業理念には、このような思いが込められています。引き続き、この企業理念を全グループ社員が共有し、神戸製鋼グループが社会と共に発展することを目指してまいります。

神戸製鋼グループは、社会を支える 幅広い事業分野で、信頼される技術、製品、 サービスの提供に努めています。

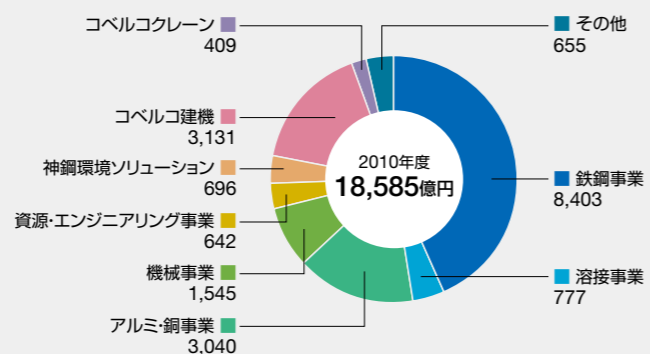


神戸製鋼グループの概要 (2011年3月31日現在)

株式会社神戸製鋼所

会社名	株式会社神戸製鋼所
英文社名	Kobe Steel, Ltd.
統一営業標識	KOBELCO
創立	1905年9月1日
設立	1911年6月28日
社長	佐藤 廣士
資本金	2,333億1,324万8,065円
売上高	連結 1兆8,585億円 単体 1兆901億円
従業員数	連結 34,772人 単体 9,933人 (出向者を除く)
連結子会社および 持分法適用関連会社	207社

グループ事業別売上高 (連結)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額716億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,585億円になります。

鉄鋼事業部門

主要製品・事業	線材・棒鋼、薄板、厚板、鋳鍛鋼、チタン、鉄粉、電力卸供給
売上高	8,403億円
経常利益	237億円
主要生産拠点	加古川製鉄所、神戸製鉄所、高砂製作所
グループ会社	40社

■ グループ会社

- 日本高周波鋼業(株)
- 堺鋼板工業(株)
- (株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス
- 神鋼建材工業(株)
- 神鋼鋼板加工(株)
- 神鋼神戸発電(株)
- 神鋼スラグ製品(株)
- 神鋼総合サービス(株)
- 神鋼特殊鋼管(株)
- 神鋼物流(株)
- 神鋼ボルト(株)
- (株)大阪チタニウムテクノロジーズ
- 神鋼鋼線工業(株)
- 関西熱化学(株)
- KSサミットスチール(株)
- 三和鐵鋼(株)
- (株)セラテクノ
- (株)テザックワイヤロープ
- PRO-TEC Coating Company

溶接事業部門

主要製品	溶接材料、溶接ロボット、ロボットシステム、溶接電源
売上高	777億円
経常利益	46億円
主要生産拠点	茨木工場、西条工場、藤沢事業所
グループ会社	22社

■ グループ会社

- エヌアイエル(株)
- エヌアイ・コウベウエルディング(株)
- KOBEUエルディングワイヤ(株)*
- コベルコロボットサービス(株)
- (株)JKW
- 神鋼アクテック(株)
- 神鋼溶接サービス(株)
- (株)タセト
- 阪神溶接機材(株)
- 神商コウベウエルディング(株)
- Kobe Welding of Korea Co., Ltd.
- 青島神鋼溶接材料有限公司

アルミ・銅事業部門

主要製品	アルミ板、アルミ押出・加工品、アルミ・マグネシウム鋳鍛品、銅板条、銅管
売上高	3,040億円
経常利益	147億円
主要生産拠点	真岡製造所、長府製造所、大安工場
グループ会社	26社

■ グループ会社

- (株)コベルコ マテリアル銅管
- サンアルミニウム工業(株)
- 神鋼アルミ線材(株)
- 神鋼専門総合サービス(株)
- 神鋼大安総合サービス(株)
- 神鋼ノース(株)
- 神鋼ファブテック(株)
- 神鋼メタルプロダクツ(株)
- 神鋼真岡総合サービス(株)
- 神鋼リードミック(株)
- ニコアルミ工業(株)
- 豊通非鉄センター(株)
- Kobe Aluminum Automotive Products, LLC
- Kobe Electronics Material (Thailand) Co., Ltd.
- Kobe Precision Technology Sdn. Bhd.
- Singapore Kobe Pte. Ltd.

機械事業部門

主要製品	エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種(製鉄圧延、非鉄など)プラント、各種内燃機関
売上高	1,545億円
経常利益	145億円
主要生産拠点	高砂製作所、播磨工場
グループ会社	14社

■ グループ会社

- コベルココンプレッサ(株)
- コベルコ産機サービス(株)
- 神鋼エアウォータークライオプラント(株)
- 神鋼検査サービス(株)
- 神鋼造機(株)
- 神鋼テクノ(株)
- 神和木材工業(株)
- 神鋼エアテック(株)
- 神鋼圧縮機製造(上海)有限公司

資源・エンジニアリング事業部門

主要製品	製鉄プラント(還元鉄)、各種(ペレタイジング、石油化学など)プラント、原子力関連プラント、砂防・防災製品、新交通システム
売上高	642億円
経常利益	30億円
グループ会社	20社

■ グループ会社

- (株)インダストリアルサービスインターナショナル
- ATSC(株)
- 神戸熱供給(株)
- トランスニュークリア(株)
- Midrex Technologies, Inc.

神鋼環境ソリューション

主要製品	水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品関連機器
売上高	696億円
経常利益	31億円
主要生産拠点	播磨製作所
グループ会社	6社

■ グループ会社

- (株)神鋼環境ソリューション
- 神鋼環境メンテナンス(株)

コベルコ建機

主要製品	油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ
売上高	3,131億円
経常利益	263億円
主要生産拠点	広島事業所
グループ会社	36社

■ グループ会社

- コベルコ建機(株)
- 東日本コベルコ建機(株)
- 西日本コベルコ建機(株)
- 成都神鋼工程機械(集団)有限公司
- 成都神鋼建設機械有限公司
- 成都神鋼建機融資租賃有限公司
- 杭州神鋼建設機械有限公司
- Kobelco International (S) Co., Pte. Ltd.
- Kobelco Construction Machinery America LLC.
- Thai Kobelco Construction Machinery Ltd.

その他

主要製品・事業	不動産関連(分譲、賃貸など)、特殊合金他新材料(ターゲット材など)、各種材料の分析・解析、高圧ガス容器、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社
売上高	655億円
経常利益	64億円
グループ会社	32社

■ グループ会社

- 神戸ウイングスタジアム(株)
- (株)国際健康開発センタービル
- (株)コベルコカウンティングサービス*
- (株)コベルコ科研
- (株)コベルコバーソネル
- コベルコビジネスサポート(株)
- コベルコフィナンシャルセンター(株)
- ジャービススーパーコンダクタテクノロジー(株)
- 神鋼機器工業(株)
- 神鋼ケアライフ(株)
- (株)神鋼ヒューマン・クリエイト
- 神鋼不動産(株)
- 神鋼リサーチ(株)
- 神鋼商事(株)
- コベルコシステム(株)
- 神鋼リース(株)
- (株)ツインフーズ
- 日本メディカルマテリアル(株)
- Kobe Steel USA Holdings Inc.
- 神鋼投資有限公司

○: 環境データの集計対象グループ会社
*2011年4月1日付で神戸製鋼に吸収合併



特集 NADAHAMA SCIENCE SQUARE
誌上見学! 灘浜サイエンススクエア

遊びながら科学と自然を体感する、地域のコミュニティパーク。



神戸市・灘区。神戸製鋼の神戸製鉄所と、神鋼神戸発電所に隣接するスペースに、その広場があります。未知を知る体験に子供たちの歓声があふれ、ビオトープでは多様な生命の営みと出あえる。遊びながら、科学や自然とふれあい、考える心、科学する目を育む…。そんな地域社会に貢献するコミュニティパークが、神戸製鋼グループが提供する「灘浜サイエンススクエア」です。子供も大人も楽しめる科学の広場に、ようこそ!

「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に認定
来館者数 約38万8千名 (2010年度末までの累計)

「灘浜サイエンススクエア」のご利用ガイド
◆開館時間 9時30分～16時30分 (入館は16時まで)
◆休館日 月曜日 (祝日の場合は翌平日) / 年末年始 / 気象警報発令時
◆入館料 無料
詳しくは右記をご覧ください。 <http://www.kobelco.co.jp/nadahama/science/index.html>



CONCEPT

「灘浜サイエンススクエア」って何だろう?

◆ 地域のために役立ちたい
— そんな思いから生まれた、交流施設です。

神戸港に面した、神戸市灘区灘浜地区。1959年に神戸製鉄所を建設して以来、神戸製鋼はこの街と共に歩んでいます。2002年には、神戸製鉄所敷地内に神鋼神戸発電所が稼働。国内最大規模の電力卸供給事業がスタートしました。灘浜は、神戸製鋼グループの、大切なホームタウンのひとつなのです。
2004年4月、ここにオープンした地域交流施設が、「灘浜サイエンススクエア」。共にすこし、共に大きくなってきたこの街から、次世代へのメッセージを発信していく施設です。



◆ 「製鉄」「発電」「エネルギー」「環境」
— 4つのテーマを結ぶ科学の広場。

「製鉄」「発電」「エネルギー」「環境」をテーマに、遊びながら科学や技術のおもしろさ、不思議さを体感し、好奇心を育む。それが「灘浜サイエンススクエア」のコンセプトです。館の名前は、地域の皆様に親んでいただきたいとの思いから公募し、4つのテーマを結ぶ広場をイメージした「灘浜サイエンススクエア」に決定しました。小学校高学年を中心に幅広い年代の皆様楽しんでいただけます。

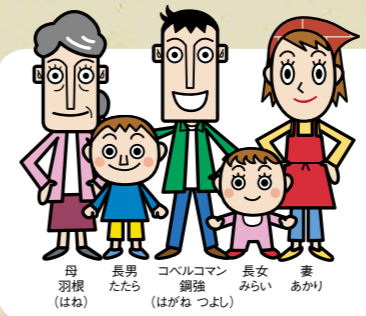
◆ ふれる、感じる、気づく。
— 一人ひとりの来館者が主役です。

「灘浜サイエンススクエア」を訪れた子供たちは、「見る」だけでなく、五感をフルに使って体験します。一人ひとりがさまざまな不思議に出会い、感動し、科学のおもしろさや探求する心に目覚める。体験からはじまる“気づき”のサイクルが、さまざまな展示に活かされています。また、屋外には六甲山系の生態系を再現したビオトープを整備しており、文字通り生きた体験と発見ができます。
来館者が主人公となって、学校では体験できない感動を見つける。子供たちが自らつくりあげる学びが、「灘浜サイエンススクエア」には満ちています。

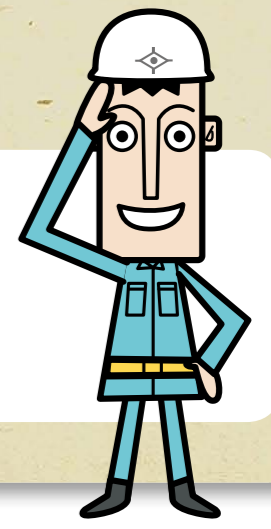


◆ ご安全に! コベルコマンです。

「灘浜サイエンススクエア」のキャラクターを務める「コベルコマン」。本名は鋼強 (はがね つよし) です。展示の中で、神戸弁で鉄と電気のでき方を説明しています。展示には、「コベルコマン」の家族たちも登場します。どこに出ているか、探してみてください。



母 長男 コベルコマン 長女 妻
羽根 たら 鋼強 みらい あかり
(はね) (はがね つよし)



EXHIBITION

科学と出あい、不思議を楽しむ展示空間。



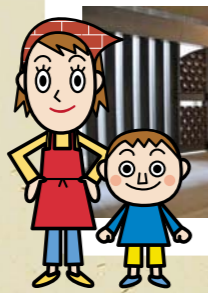
カラダとココロで感じる。科学っておもしろい!

ここからは、開館以来、運営に携わってきた谷口真砂子事務局長に案内してもらいましょう。
 谷口「灘浜サイエンススクエアの中には、約30点の展示があります。いずれも、皆様が楽しみながら製鉄・発電・エネルギー・環境についてふれられるよう、スタッフが知恵を絞ったものです。
 例えば、子供たちは、ハンドルを回して発電しプロペラを高く上げる“発電プロペラ”や、1トンの鉄のかたまりの重さを自分の手で確かめてみる“1トンをもちあげよう”などを体験する中で、科学のおもしろさにワクワクしているようです。」



環境問題と自らの関わりを知る。コンビニを開店中。

コンビニみたいなスペースがありますね?
 谷口「ここは環境コンビニといって、棚に置かれたさまざまな商品についているバーコードをレジで読み取ると、その商品の環境に関する情報などを知ることができます。小さなお子様にも、買い物ごっこをしながらエコロジーへの興味を育てていただくことを願っています。その他、コベルコマンが環境問題について解説する絵本もお勧めです。」
 なるほど、いろいろな伝え方、展示の仕方を工夫しているんですね。



熱風炉の一部でつくったメモリアルウォール。

これは、発電所の建設により解体した神戸製鉄所1号高炉の熱風炉の一部でつくりました。神戸製鉄の歴史を感じていただけるでしょうか。



「鉄」になる、「電気」になる。ドキドキ大迫力のライドシアター。

谷口「伝え方の工夫といえば、こちらはどうぞ。神戸製鉄所の製鉄プロセスや、神鋼神戸発電所の発電プロセスを、原料やミクロの目になってシミュレーションするライドシアターです。大型スクリーンのダイナミックな映像世界とライドマシンの動きで、原料から鉄や電気ができるまでの流れをバーチャルに体験できます。」
 確かに、ドキドキ大迫力の体験でした。鉄や電気になるって、おもしろい!



BIOTOPE

たくさんの生命が輝く、280m²の小さな大自然。



生物多様性保全を学ぶ実践の場。

施設を出ると、海に面したオープンスペースに、豊かな緑に包まれ、せせらぎが流れこむ池があります。「灘浜サイエンススクエア」名物の「ビオトープ」です。
 谷口「ビオトープとは、“生き物のすみ場所”という意味です。約280m²の空間を多様な生物の生息に配慮したビオトープとして整備しています。微生物から魚、昆虫、野鳥まで、いろんな生き物が関わりあって生きています。当館のテーマ“環境”の学習の場としても活用しています。」



希少な生き物が集まる、六甲山系下流域の生命の営みを再現。

珍しい生き物もいるそうですね?
 谷口「六甲山系の下流域の低地の環境を再生することを目的に、一般的な水辺の生き物に加え、カワバタモロコ、イヌタヌキモなどの希少種も生息させることができました。その他、クロメダカ、ドジョウ、ニホンアカガエルなど、さまざまな生き物たちが世代交代を重ねています。
 こうした生育環境を維持するため、地域のNPOにもご協力をいただいています。ビオトープにすむ生き物たちは、地域みんなの宝物ですね。」



子供も、大人も、自然とふれあう。環境への思いが、ここから育ちます。

「灘浜サイエンススクエア」では、地域の子供たちに環境や自然を大切にする心を育ててもらつため、年間20回程度「自然教室」を開催。地元の小学生から中高年の方々まで、年間約1,200名が参加しています。こうした活動が評価され、2008年には第17回「地球環境大賞」を受賞。2010年には「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」*に認定されました。
 谷口「海辺の潮や冬の寒さに耐えて命をつなぐビオトープの生き物たちを見ると、自然は強い!と感じます。自然や科学の不思議と感動に出あえる灘浜サイエンススクエアに、ぜひお越しください。」
 谷口事務局長のあたたかな笑顔で、誌上見学を締めくくりましょう。
 *P25の「環境活動 CLOSE UP」もあわせてご覧ください。



学校と連携して、校外学習の場としての活用を推進します。

学校の2、3学期になると、「灘浜サイエンススクエア」は毎日小学校の校外学習をお受け入れしています。社会科の学習に最適なスポットとなりました。理科や環境教育のためにもご利用いただき、学校教育との連携をさらに深めたいと考えています。



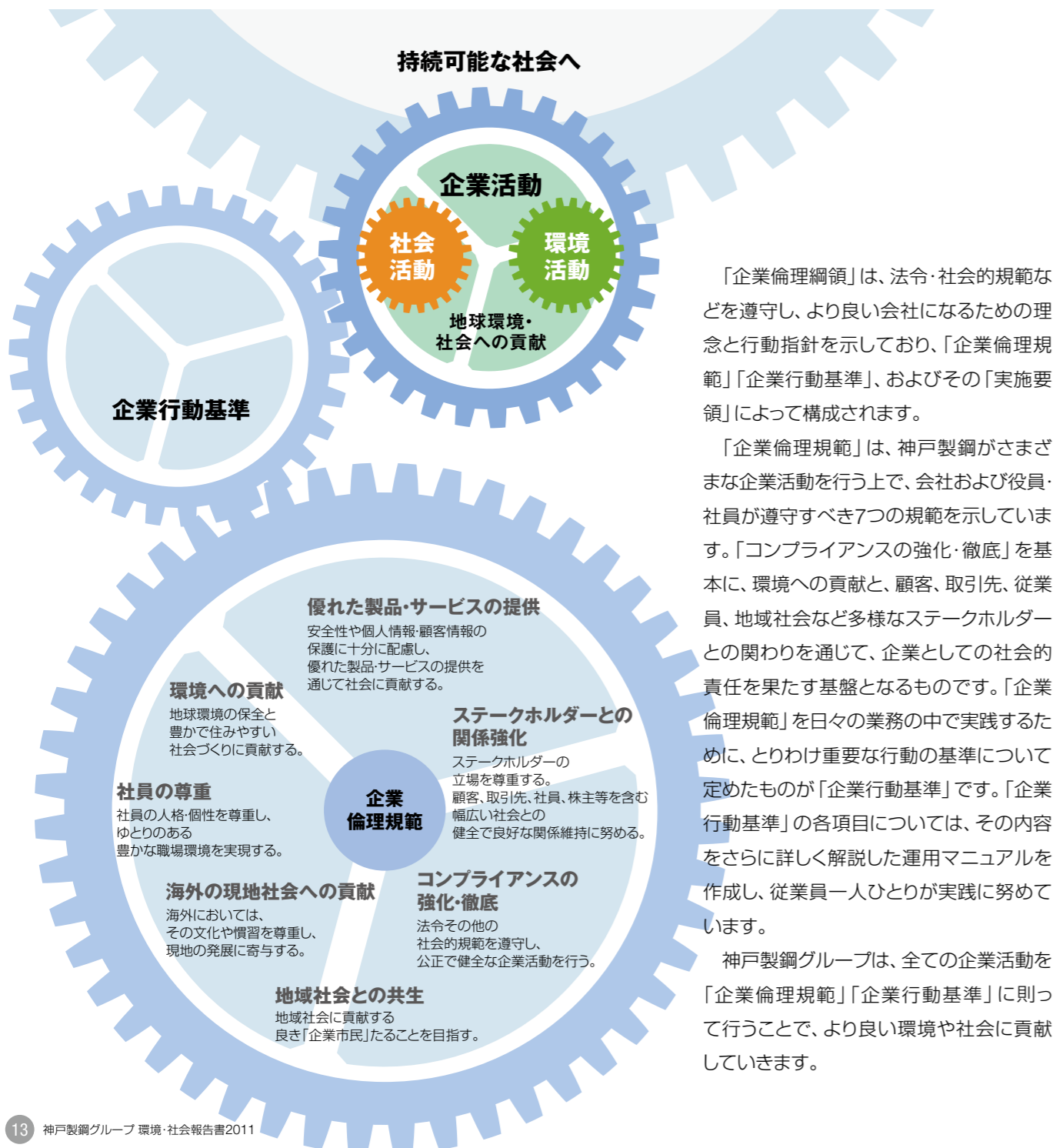
灘浜サイエンススクエア・館長 高山 良雄



企業としての社会的責任を果たす心が、 神戸製鋼グループの全ての活動の原点です。

CSR活動の基本的な考え方

神戸製鋼グループは、企業としての社会的責任（CSR）を果たすことをグループ経営の重要な施策と位置付け、具体的な行動指針として「企業倫理綱領」を制定しています。特に、ものづくりを担うメーカーとして、環境に配慮した生産活動や製品開発を重視し、環境と社会に貢献しながら持続的に発展する企業グループを目指します。



「企業倫理綱領」は、法令・社会的規範などを遵守し、より良い会社になるための理念と行動指針を示しており、「企業倫理規範」「企業行動基準」、およびその「実施要領」によって構成されます。

「企業倫理規範」は、神戸製鋼がさまざまな企業活動を行う上で、会社および役員・社員が遵守すべき7つの規範を示しています。「コンプライアンスの強化・徹底」を基本に、環境への貢献と、顧客、取引先、従業員、地域社会など多様なステークホルダーとの関わりを通じて、企業としての社会的責任を果たす基盤となるものです。「企業倫理規範」を日々の業務の中で実践するために、とりわけ重要な行動の基準について定めたものが「企業行動基準」です。「企業行動基準」の各項目については、その内容をさらに詳しく解説した運用マニュアルを作成し、従業員一人ひとりが実践に努めています。

神戸製鋼グループは、全ての企業活動や「企業倫理規範」「企業行動基準」に則って行うことで、より良い環境や社会に貢献していきます。

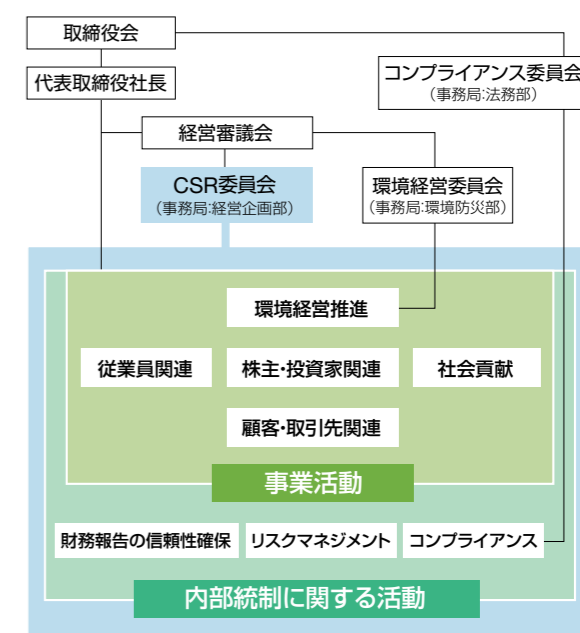
CSR推進体制

神戸製鋼グループのCSRに関する基本方針の決定およびその活動を集約する機関として、2006年より「CSR委員会」を設置しています。

また、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しており、重要事項に関する審議・提言・進捗確認を行っています。

CSR委員会の下部組織である報告書作成部会では、これらのCSRに関する活動を取りまとめ、「環境・社会報告書」として発行しています。

推進体制図



コーポレートガバナンスの強化と充実

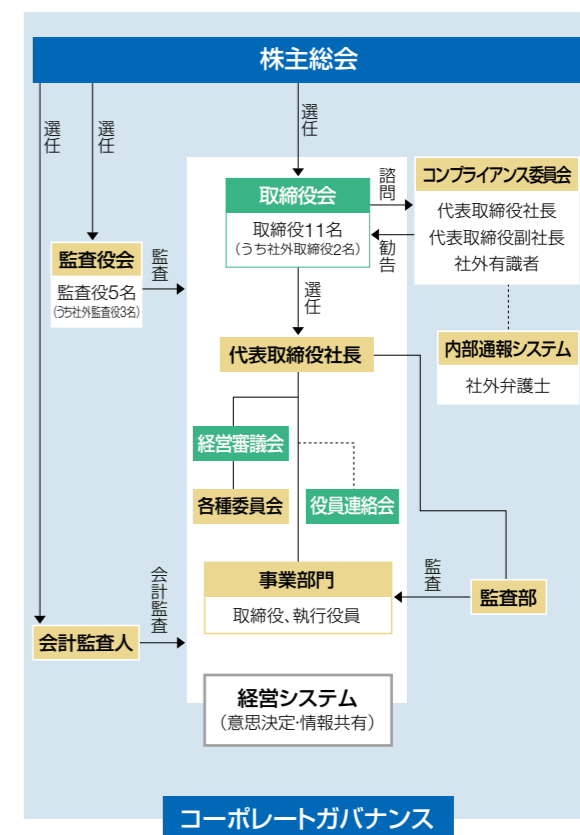
神戸製鋼は執行役員制度を採用していますが、経営の意思決定と日常業務の執行は密接不可分と認識しています。したがって、業務執行の中核は株主および取引先などの関係者に対し法的責任を負う取締役が担うべきであると考え、主要な事業部門は取締役が業務執行を統轄しています。

現行の取締役会は、経営トップ、本社部門の重要な役割を担う者、経営に重要な影響を与える事業部門の長、またはこれに準ずる者、および経営の透明性・公平性を確保し業務執行の監督機能を強化する観点から招聘した社外取締役2名を含む11名で構成しています。執行役員は、取締役会から選任され、取締役から委嘱された業務を執行する重要な役職であると位置付けています。

このような経営体制のもと、神戸製鋼は監査役制度を採用し、社外監査役3名を含む5名の監査役による経営監査機能を一層強化することで、企業統治の実効性を高めています。また、内部監査については、独立した監査組織として監査部を設け、全社的な業務執行に関する監査を行っています。

(注) 取締役人数および監査役人数は、第158回定時株主総会終了後の予定人数です。

コーポレートガバナンス体制



コンプライアンスに対する「感度」が高い 組織文化を持った企業グループを目指します。

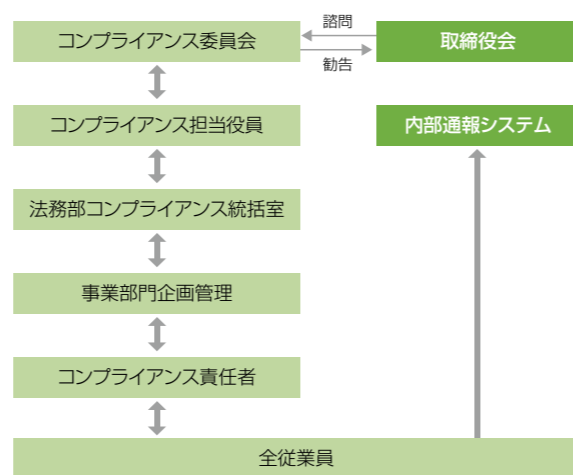
コンプライアンスの強化・徹底

神戸製鋼は、コンプライアンスを企業存立の大前提であると考えます。これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの定着のための諸施策を推進していくことにより、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

■ コンプライアンス体制

神戸製鋼は、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しています。社内委員2名に対し、公正中立な立場の社外委員が5名と過半数を占める同委員会では、推進計画の立案、進捗状況の確認、「内部通報システム」への通報事案に関する審議など行っています。

また、「コンプライアンス担当役員」、専門部署としての「法務部コンプライアンス統括室」を設置し、事業部門の企画管理担当部署や各部署に設置する「コンプライアンス責任者」と連携しながら取り組みを行っています。



コンプライアンス教育

神戸製鋼は、役員およびグループ企業の経営幹部を対象とした「コンプライアンストップセミナー」をはじめ、各階層別研修にコンプライアンスに関する内容を織り込み、社員がキャリアの節目ごとに幅広く研修を受ける

機会を設けています。特にコンプライアンス責任者に対しては、毎年研修を受講することを要請しています。また、法令教育e-ラーニングを毎年実施し、全社員がコンプライアンスへの理解度を確保する機会としています。

コンプライアンス・マニュアルの整備

神戸製鋼は、「企業倫理綱領」の「企業行動基準」に記載された各項目について、より詳しく説明した「社員のための行動手引き」を作成し、全社的なコンプライアンス・マニュアルとして社員に配布しています。このマニュアルは、後述のリスク管理活動で全社が共有する「共通リスク」の項目と連動しており、リスク管理活動の基本マニュアルにもなるものです。

さらに、独占禁止法、下請法、個人情報保護法、安全保障貿易管理などの個別の法令マニュアルも整備

し、社員が業務の中で疑問に思ったことを参照しやすい形で整理しています。

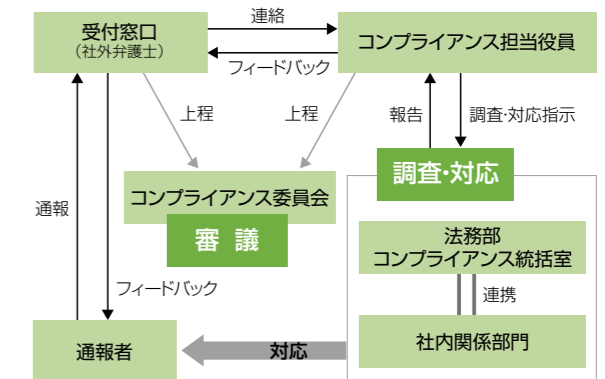
社員のための
行動手引き

各種詳細マニュアル

- 独占禁止法遵守マニュアル
- 下請法遵守マニュアル
- 知的財産情報イントラネット
- 個人情報管理マニュアル
- 企業秘密ガイド&管理マニュアル
- 安全保障貿易管理ホームページ
- 企業対象暴力対策マニュアル
- 公務員との付き合い方マニュアル
- セクシュアルハラスメント防止マニュアル

内部通報システム

法令・倫理などのコンプライアンス違反によるリスクの顕在化・拡大を未然に防止し、また早期に問題を把握し、対策を講じるためのしくみとして、「内部通報システム」を設置しています。これは、社内において法令に違反するような不正行為を発見した場合、中立的な立場にある弁護士会推薦の弁護士(社外弁護士)を受付窓口として通報できるようにしたものです。通報内容はコンプライアンス委員会で審議され、適切な対応につなげるしくみとしています。また、グループ各社にも展開しています。

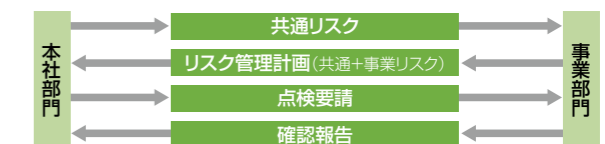


■ リスク管理活動

神戸製鋼グループは、自らの部署のリスクを、自らが点検し、改善につなげていくという「リスク管理活動」に取り組んでいます。

この活動は、本社スタッフ部門が、法令や社会の変化を踏まえた上で発信した全社の「共通リスク」に基づいて、各部署が独自の「事業リスク」も加えて、「リスク管理計画」を策定し、事業の中で実行していくというものです。また、年度末には、一年間の活動結果を経営トップも含めた事業部門、部署の責任者が点検・確認

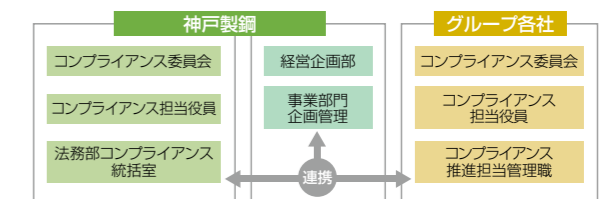
して、次年度以降の取り組みにつなげています。すなわち、各事業部門の中で、コンプライアンスも含めたリスク管理のPDCA(Plan, Do, Check, Action)のサイクルが回るしくみとし、この取り組みを継続することで、それぞれの事業の中に、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化が定着することを目指しています。



■ グループでの取り組み

神戸製鋼グループは、グループ各社において、コンプライアンス委員会などの設置、「企業倫理綱領」の制定、内部通報システムの導入を進めています。各社には「コンプライアンス担当役員」と「コンプライアンス推進担当管理職」を設置し、神戸製鋼と連携しながら各社での取り組みを進めています。また、グループ

会社においても、神戸製鋼と同様に、リスク管理活動に取り組んでいます。



コンプライアンスこそ、私たちの事業活動の根幹です。 全社コンプライアンスの総括 代表取締役副社長 賀屋 知行

神戸製鋼グループは、「新たな価値の創造とグローバルな成長」を目指した中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION "G"」を策定し、現在、その実行に向けて取り組んでいます。その達成には社会からの信頼を得ることが必要不可欠なのは言うまでもありません。そして、事業活動の根幹を成し、企業存立の大前提となるのが、「安全・防災体制の確立」と「コンプライアンス体制の整備」です。

私たちは、グループ全体でのコンプライアンス体制の整備、教育の実施、マニュアル整備などに加え、各部署・各グループ会社が自らのリスクをコンプライアンスリスクも含めて点検し、改善していくリスク管理活動を全グループに展開しています。自らコンプライアンスについて考え、改善する活動を継続することで、コンプライアンスに対する高い感度を持った企業体であることを目指しています。



3つのVISIONに基づく環境経営で、
「環境先進企業グループ」を目指します。

環境報告

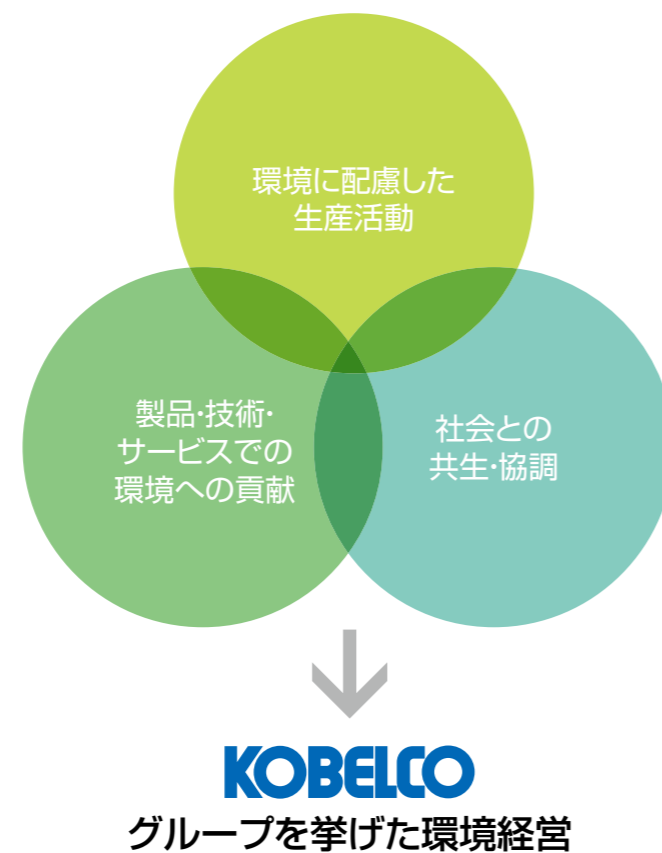
2010年度の活動ハイライト

ECO HIGHLIGHTS



企業活動のあらゆる側面で、環境への負荷を減らすために。神戸製鋼グループは環境経営基本方針として3つのVISIONを掲げ、グループ全従業員が参加する環境経営で「環境先進企業グループ」を目指します。環境に配慮した生産活動にとどまらず、オンリーワンの製品・技術・サービスや、社会との関わりを通じて社会的責任を果たす…。KOBELCOのECOにふれてください。

KOBELCOのECO



製品・技術・サービスでの環境への貢献

未利用資源を活用する 第三世代の製鉄法が稼動

未利用の粉鉱石や一般炭を原料とする第三世代の製鉄法「ITmk3®」の商業炉1号機が、2010年、アメリカ・ミネソタ州で稼動。今後は世界各地でこの技術を展開します。

38
ページ

環境に配慮した生産活動



道路に、魚礁に、 生まれ変わる鉄鋼スラグ

製鉄のプロセスで発生する鉄鋼スラグをリサイクルし、道路用路盤材やセメント材料として再資源化します。海藻や魚を育む魚礁としても、鉄鋼スラグは活用されています。

31
ページ



工場のばい煙対策に 最新設備を導入

生産工程の環境負荷を減らすため、省エネルギー化や排ガス対策などの取り組みを行っています。2010年度は、加古川製鉄所で最新の排煙脱硫脱硝設備を導入しました。

33
ページ

製品・技術・サービスでの環境への貢献



国土交通省・ 新技術情報提供システムに登録

オートアイドルストップ機能で燃料消費量を約20%低減したコベルコ建機(株)の油圧ショベルが、国土交通省・新技術情報提供システムに登録されました。

40
ページ

社会との共生・協調



「生物多様性保全につながる 企業のみどり100選」に認定

神戸製鋼の地域交流施設「灘浜サイエンススクエア」にあるビオトープが、地域の環境教育の場として活用されていることが評価されました。

26
ページ

環境報告

環境マネジメント | 環境経営基本方針と6つの実施事項

グループ環境経営の実践により、さらなる企業価値向上を図ります。

環境経営基本方針と6つの実施事項

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定し、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。本報告書では、環境経営基本方針に基づく6つの実施事項について紹介します。

環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践による更なる企業価値向上』
(グループの環境力向上)

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

- ① 環境に配慮した生産活動
- ② 製品・技術・サービスでの環境への貢献
- ③ 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

1	ものづくりの徹底 あらゆる面で環境に配慮した	地球温暖化対策	27 ▶ 29
		資源循環の促進	30 ▶ 31
		化学物質の適正管理	32
		環境負荷の低減	33
2	製品・技術・サービスでの環境への貢献	35 ▶ 41	
3	環境関連情報の開示	42	
4	社会との共生・協調	43	
5	全員参加による取り組みの展開	44	
6	リスク管理の徹底	45 ▶ 46	

グループ環境経営推進体制

環境経営基本方針に基づく6つの実施事項を検討、提言する機関として「環境経営委員会」を設置し、環境経営を推進しています。

環境経営委員会は年1回開催し、年間の取り組み実績を確認・チェックすると共に、今後推進すべき事項を明確にして経営審議会に報告、提言します。

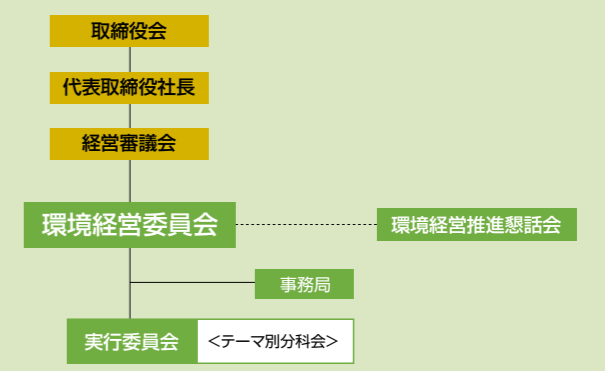
また、特に取り組むべきテーマについてはテーマ別分科会を組織し、迅速かつ的確に対応すべく活動を推進しています。

なお、必要に応じて環境経営推進懇話会を開催し、社外の学識者より適宜アドバイスをいただく体制としています。



▲環境経営委員会 (2010年12月)

グループ環境経営推進体制



神戸製鋼グループは環境経営を着実に推進していきます。

環境経営委員会委員長（専務取締役） **関 勇一**

神戸製鋼グループは、環境経営基本方針の下、環境関連法令の遵守の徹底はもとより、製品・技術・サービスによる環境への貢献、地域社会との共生・協調を図ってまいりました。今後もこうした国内での活動を継続すると共

に、神戸製鋼グループが成長市場へ進出・深化していくにあたりまして、環境に配慮したもののづくりを実践し、製品・技術・サービスで貢献する環境経営を推進していきたいと考えております。

環境報告

環境マネジメント | 環境中長期目標および実績と評価

「6つの実施事項」を確実に実行し、環境に配慮した事業活動を継続的に推進します。

環境中長期目標および実績と評価

神戸製鋼グループは、長期方針に対し、2011年度末を期限とした中期目標を掲げ、取り組みを進めています。

自己評価 ○:計画通りに進捗 △:課題あり ×:計画未達

実施項目	長期方針	中期での目標	2010年度の実績	今後の取り組み	進捗状況	ページ	
1 あらゆる面で環境に配慮したものの提供の徹底	地球温暖化対策	あらゆる事業活動において省エネルギー、CO ₂ 削減を推進し、地球温暖化防止に貢献する。	業界ごとの自主行動計画目標を必達する。	<ul style="list-style-type: none"> 神戸製鋼グループ全体のエネルギー使用量は223PJ。 CO₂排出量は、1990年度に比べ3.6%削減となった(鉄鋼事業部門)。 TOPICS:加古川製鉄所にガスタービン発電設備を導入。今後安定稼働に取り組み、CO₂削減を図っていく。 	各事業部門で検討した対策を実施し、業界目標の達成に貢献する。中期削減目標に関する動向を的確に把握し、国内制度の変化への対応を検討する。	○	27
	資源循環の促進	埋め立て処分量ゼロを目指した活動を継続する。	廃棄物の最終処分量を業界ごとの自主行動計画通りに削減する。特に鉄鋼部門では、鉄鋼スラグの再資源化に注力する。	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼事業部門の鉄鋼スラグ・汚泥・ダストの最終処分量は鉄鋼スラグの再資源化向上などにより削減できた。これにより、業界自主目標である1990年度比75%減も達成した。 	廃棄物の発生抑制、再利用、リサイクル技術の調査を広く行い、既存リサイクル技術の導入を検討し、さらなる最終処分量の削減を目指す。	○	30
	化学物質の適正管理	「神戸製鋼グループ有害化学物質管理方針」に基づき有害物質削減に取り組む。	グループ全体で継続して化学物質を適正管理する。化学物質は可能なものから自主削減に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質審査規制法、PRTR法の改正、REACH規則などに対し、適切に対応した。 	有害化学物質削減対策の検討を行うと共に、次期中期での削減について、アクションプランを作成する。	△	32
	環境負荷の低減	自主管理の徹底を図り、環境負荷低減に継続的に取り組む。	生産活動における環境負荷を除害設備の更新時などの機能強化により低減する。	<ul style="list-style-type: none"> 加古川製鉄所焼結工場に新たな排煙脱硫脱硝設備を導入し、NOxなどの削減を図った。 加古川製鉄所降下ばいじん量(製鉄所影響値)は、5月、7月、8月において目標値を上回った。 	加古川製鉄所での降下ばいじん量の削減に取り組む。	△	33
2	製品・技術・サービスでの環境への貢献	全ての製品開発・技術開発において、環境に配慮し、環境調和型製品や新たなビジネスを創出する。	既存製品などの環境面での機能強化を図る(自動車軽量化への寄与など)。法規制や国の施策などの観点から長期的な視野での資源、エネルギーに関するテーマ抽出に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 神戸製鋼グループの技術・製品・サービスを社会に提供し、CO₂削減に寄与した。 またITmk3[®]やハイパーコールなど未利用資源の活用につながる試験、研究を進めた。 	引き続き製品・技術・サービスにより環境面での貢献を行っていくと共に、研究開発にも注力し、新たな技術、製品を生み出していく。	○	35
3	環境関連情報の開示	環境関連情報を積極的に開示し、利害関係者とのコミュニケーションを図る。	年度報告書やホームページなどの媒体を活用し、ステークホルダーへ適切な情報を開示する。	<ul style="list-style-type: none"> 環境・社会報告書の発行、ホームページ、環境モニターなどにより環境情報を公開した。 各種展示会で当社グループの環境関連製品・技術の紹介を行った。 	引き続き、適切な情報開示を行っていく。	○	42
4	社会との共生・協調	環境の側面から社会との共生・協調を図る。	事業所周辺の美化活動などを継続すると共に、環境活動への支援や環境ボランティアの推奨などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所周辺の美化活動や、コベルコ環境創造基金、コベルコ自然環境保全基金により、社会の取り組みを支援した。 	事業所周辺の美化活動の継続および環境活動への支援や環境教育に取り組む。	○	43
5	全員参加による取り組みの展開	神戸製鋼グループの全従業員が、継続して環境マインドの向上に努める。	エコオフィス活動や環境家計簿などを継続して環境への意識を高める。また、環境教育・学習を通じ全従業員の環境感性の向上を図ると共に、法令遵守を当然とする職場風土を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> 階層別教育にて法令遵守意識、リスクへの気づき能力向上を図った。 環境への意識向上を目的とする環境家計簿への参加奨励キャンペーンを実施した。 	引き続き環境教育による全従業員の意識・知識・気づき能力の向上を図る。また、環境家計簿への参加者増のため、Webによる参加システムを活用する。	○	44
6	リスク管理の徹底	リスク低減に向け、常に組織的、計画的に取り組む。	行政からの指導ゼロ、住民からの苦情ゼロを目指す。海外事業所は、国内に準じた環境経営のあり方を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 環境監査、環境確認調査を通じ、事業所・グループ会社の法令遵守を確認すると共に、リスク排除活動を支援した。 海外においてはタイのグループ会社6事業所の環境調査を実施した。なお同国のKCH社*は2011年1月にISO14001を取得している。 	継続してグループ全体でマネジメントシステムを維持整備すると共に、環境監査、環境確認調査を実施するなど、事業所における法令遵守のためのしくみづくりを確立していく。	△	45

* Kobe CH Wire (Thailand) Co.Ltd. 社
*環境マネジメントシステム認証取得状況については当社ホームページをご覧ください。(http://www.kobelco.co.jp/environment/kaiji/report/2011/index.html)

環境報告

環境マネジメント | マテリアルバランス

生産の各工程を通じて、
資源・エネルギーの利用状況を数値化。
より効率的な利用と、
副産物の再資源化を図っています。

マテリアルバランス

神戸製鋼グループは、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営を展開しています。その一環としてエネルギー効率の向上と副産物の再資源化に継続的に取り組んでいます。

■ 神戸製鋼における資源・エネルギーの利用状況

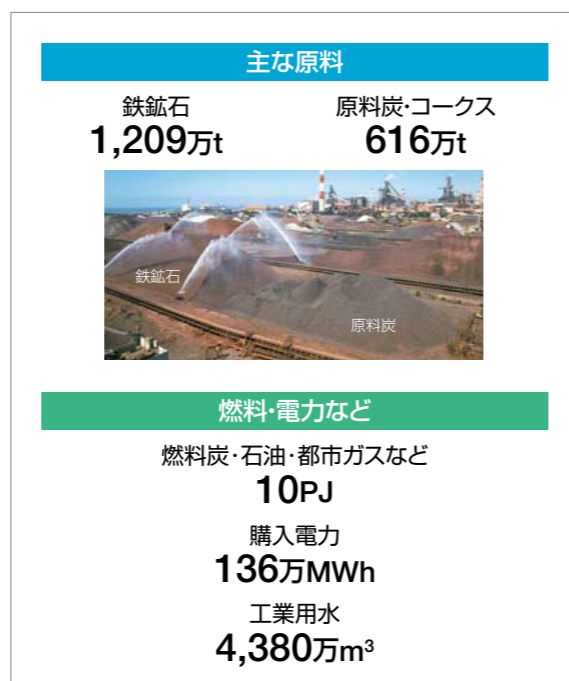
鉄鋼事業部門

神戸製鋼のエネルギー使用総量の95%を占める鉄鋼事業部門は、2010年度に1,209万トンの鉄鉱石と616万トンの原料炭・コークスおよび10PJの石炭、石油、都市ガスなどの燃料および136万MWhの電力を使用しました。生産工程で発生するコークス炉ガス、高炉ガス、転炉ガスなどの副生ガスを鋼材加熱用の燃料や自家発電所の燃料などとして、ほぼ全量を有効に活用しています。さらに、排熱回収による発電を積極的に実施しており、副生ガスによる発電と合わせて、生産工程で使用する電力の50%以上をまかっています。

また、生産工程から発生する鉄鋼スラグ、ダスト、スラッジなどの副産物についても、社内で原料として再利用したり、セメント用資材や路盤材にするなど有効活用を図っており、副産物の98%を再資源化しています。

今後も、資源やエネルギーの効率的な利用およびその技術開発を進めるなど、あらゆる面で環境に配慮したもののづくりを進めていきます。

鉄鋼事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2010年度)

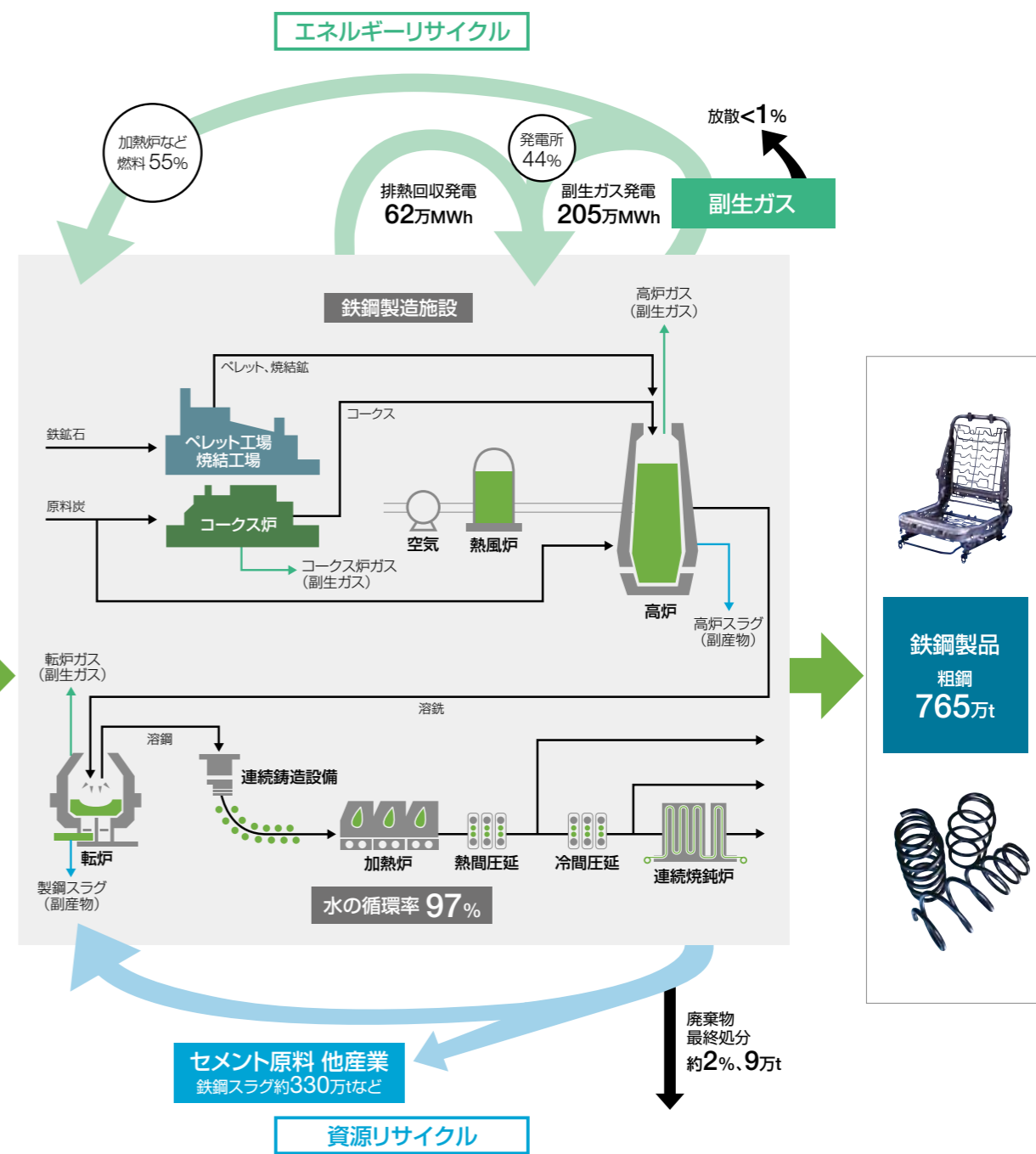


溶接事業部門

溶接事業部門は、鉄製の線材やフープと、溶剤、水ガラスなどを原料として、溶接に使用する溶接棒や溶接ワイヤを生産しています。2010年度は、藤沢、茨木、西条の各工場合計で、13万トンの原料と、エネルギーとして4万MWhの電力や53TJの都市ガスなどの燃料を使用して、13万トンの製品を生産しました。結果として0.3万トンの副産物が発生しましたが、そのうち84%を再資源化しました。

溶接事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2010年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
線材、フープ、溶剤、水ガラスなど	13万t	溶接棒、溶接ワイヤなど	13万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	4万MWh	発生量	0.3万t
都市ガスなど	53TJ	再資源化率	84%



アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門は、アルミ、銅の地金やスクラップなどを原料として、各種アルミ製品および銅製品を生産しています。2010年度は、39万トンの原料と、エネルギーとして48万MWhの電力や3.8PJの都市ガスなどの燃料を使用して、36万トンの製品を生産しました。

溶解・鑄造に伴う鋳さいや集じんダスト、排水スラッジなど、2.6万トンの廃棄物が発生しましたが、95%を再資源化しています。

アルミ・銅事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2010年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
アルミ地金、銅地金など	39万t	アルミ製品、銅製品	36万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	48万MWh	発生量	2.6万t
都市ガスなど	3.8PJ	再資源化率	95%

環境活動

CLOSE UP

生物多様性への貢献

生命の豊かさを守るのも、神戸製鋼グループの仕事です。

生物多様性——地球に息づく豊かな生態系を守ることは、地球温暖化対策と並ぶ環境活動の重要なテーマです。

2010年には「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が名古屋で開催され、行政や産業界も生物多様性の保全を目指すさまざまな活動に着手しています。こうした動きの中、神戸製鋼グループは、環境経営として取り組んできた活動を生物多様性の視点で整理した、独自の指針を策定。

事業活動や地域社会との連携を通じた生物多様性への貢献を推進しています。生命の豊かさを守る、神戸製鋼グループの活動の一部をご紹介します。

「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に認定されました。

灘浜サイエンススクエアのビオトープ

神戸製鋼の地域交流施設「灘浜サイエンススクエア」は、COP10の開催に合わせて（財）都市緑化基金が全国で募集した「生物多様性保全につながる企業のみどり



多様な生き物とふれあう観察会

100選」の一つに認定されました。

灘浜サイエンススクエアでは、施設内にビオトープを設けて生物多様性の保全に努めると共に、NPO法人や専門家と連携を図りながら、地域の子供たちを対象とした生き物の観察会などを定期的に開催しています。海岸の埋立地という厳しい自然環境にあるにも関わらず、このビオトープでは希少種を含む生態環境が再生できつつあり、地域の環境教育の場としても活用されていることなどが評価されました。神戸製鋼は、このビオトープを、大切に守っていく考えです。

※ P9から始まる巻頭特集もあわせてご覧ください。

鉄の副産物が、海藻や魚を育みます。

鉄鋼スラグを使った新型魚礁の開発

神戸製鋼では、鉄鋼製造の副産物である「鉄鋼スラグ」を環境保全修復材料として活用するため、神鋼スラグ製品（株）・神鋼建材工業（株）・（株）コベルコ科研と共同して、鋼製魚礁と組み合わせた「鋼製藻場魚礁」を、家島諸島（兵庫県姫路市沖）海域、神戸空港北側護岸や沖縄県与那原町の周辺に設置し、産官学の協力/連携の下、海藻の育成や漁場環境の改善を目的とした調査研究を開始しています。

鉄鋼スラグに含まれる鉄分やミネラルなどの栄養分により海藻が繁茂するなど、海洋環境修復への効果が期待されます。

現在のところ、海藻の繁茂や魚の回遊が見られ、順調な経過となっています。

兵庫県姫路市沖に設置した魚礁の3ヵ月後（左）と6ヵ月後（右）の様子



鋼製藻場魚礁



人々の安全と、川の生態系を共に守ります。

格子形砂防えん堤の建設

神戸製鋼の格子形砂防えん堤は、全国各地の土石流危険渓流に設置され、土石流を効果的に捕捉して人々の安



五十沢川砂防えん堤（新潟）

全を守っています。近年、環境保全の観点からも、自然と共生しやすい格子形砂防えん堤が脚光を浴びています。

格子形砂防えん堤は河川の水流を阻害しないため、平常時は無害な土砂を下流に流し、海岸線の後退や河床の低下を防いでいます。また、格子形砂防えん堤は魚などの自由な往来を妨げないため、水棲生物の生態系の保全にも効果を発揮しています。神戸製鋼では、格子形えん堤のさらなる普及を目指し、大規模な格子形砂防えん堤の開発を推進しています。

独自の指針に基づき、生物多様性に配慮した活動を推進します。

コベルコ生物多様性指針

神戸製鋼グループは、生物の多様性の保全が重要であることを認識し、ここに指針を定め、生物多様性の保全のための活動を推進する。

1. 事業活動が生物多様性に影響を与えていることを認識し、その影響を低減するため継続的に努力する。
2. 生物多様性に貢献する「製品・技術・サービス」の開発に積極的に取り組む。
3. 生物多様性に関する取り組みを開示し、社会と共有する。
4. 地域社会と連携して生物多様性に関する活動を推進する。
5. すべての従業員が、生物多様性に配慮した行動を積極的に行う。

環境報告

環境活動・パフォーマンス | あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

事業活動のあらゆる面で省エネルギー・技術開発を推進。温室効果ガスの排出抑制を図ります。

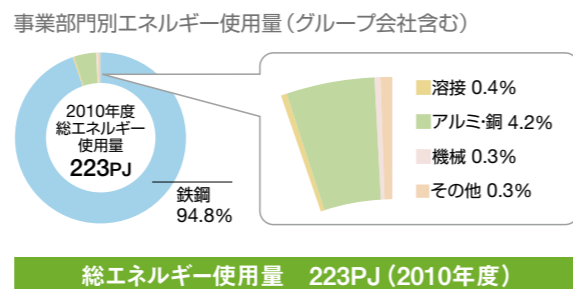
地球温暖化対策

いま、企業は、地球温暖化問題への早急な対応を求められています。神戸製鋼グループは、地球温暖化問題への対応においても、あらゆる事業活動において省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進し、各業界の自主行動計画の目標達成と将来に向けたさらなる省エネルギー・CO₂排出量削減に取り組んでいきます。

生産工程における省エネルギー

神戸製鋼グループは、2010年度、グループ全体で223PJのエネルギーを使用しました。そのうち約95%が鉄鋼関連事業、約4%がアルミ・銅関連事業によるものでした。

各事業部門において、高効率設備導入、排熱回収などの省エネルギー対策や、燃焼管理改善・生産効率向上などの操業改善を実施しています。



鉄鋼事業部門

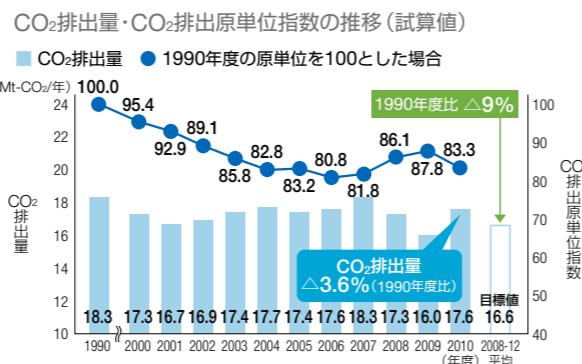
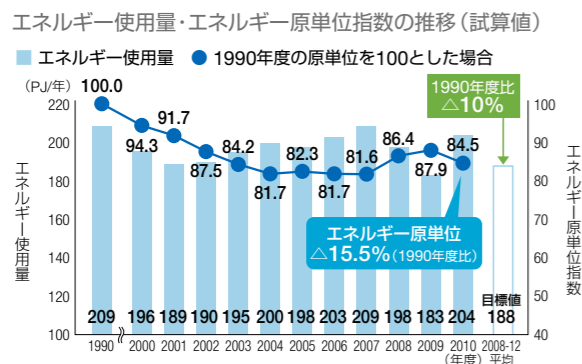
鉄鋼事業部門は、1970年代の2度のオイルショックを契機に製造工程の連続化、排熱の回収、高炉への微粉炭吹き込みなどの省エネルギーに取り組んできました。また、1990年代後半以降は地球温暖化防止に係る鉄鋼業の自主行動計画の目標達成に向けた省エネルギー・CO₂削減に取り組んできました。

その結果、実用段階にある主な省エネルギー設備はほぼ導入が完了しています。そうした中であって、設備のさらなる効率改善や操業改善などによる省エネルギー対策に取り組んでいます。

2010年度は、空気圧縮機高効率化、連続鋳造設備スプレーノズル低圧損化(加古川)、電動機インバータ

化による運用改善(神戸)、加熱炉更新、ボイラ運用見直し(高砂)などの対策を実施しました。さらに、加古川製鉄所において高効率ガスタービン発電設備が運転を開始しました。今後のCO₂削減に大きく寄与するものと考えています。この結果、粗鋼1トンあたりのエネルギー使用原単位は1990年度比で15.5%改善しており、粗鋼生産量は1990年度比で16%増加しましたが、CO₂排出量は3.6%減少する結果となりました。

今後も継続して省エネルギー対策に取り組むと共に、生産変動によるCO₂排出量の変化に対応するため京都メカニズムの活用も検討し、自主行動計画の目標の達成を目指していきます。

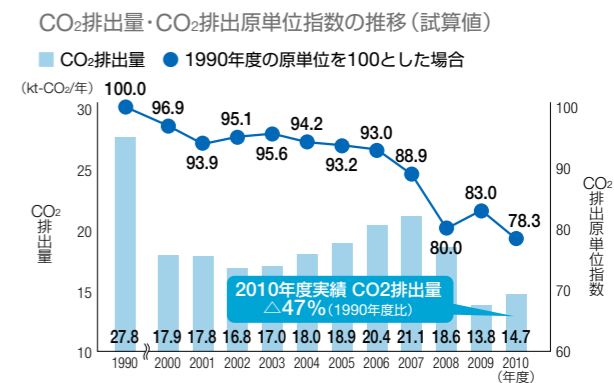


注) コークス製造を含む鉄鋼事業部門合計。総合エネルギー統計発熱量、日本国温室効果ガスインベントリ報告書排出係数による試算値。2010年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2009年度実績を使用。

溶接事業部門

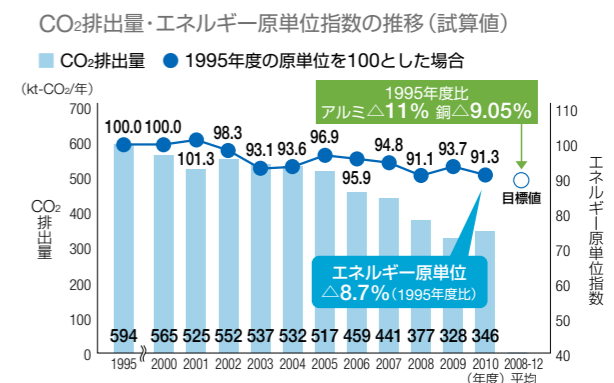
溶接事業部門は、生産統合や省エネルギー、効率改善の効果で、大幅にCO₂排出量を低減しています。

2010年度は、前年度より生産量が増加した結果、CO₂排出量も増加しましたが、電動機インバータ化やエア漏れ低減、稼動パターン適正化などの省エネルギー対策や老朽化更新に合わせた空調機、空気圧縮機の高効率化などの改善を実施し、原単位は大幅に改善しました。



アルミ・銅事業部門

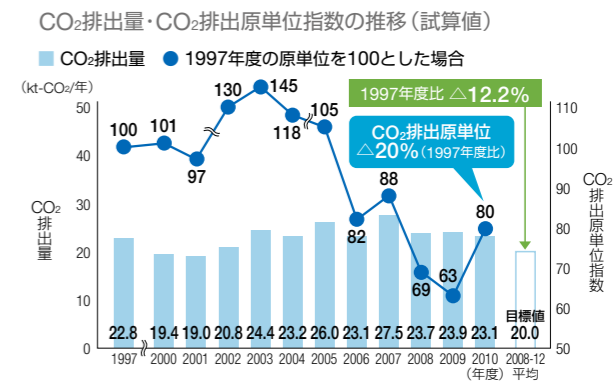
アルミ・銅事業部門は、石油系燃料から天然ガスへの燃料転換を順次実施し、燃料転換に合わせた設備集約、効率化を図ってきました。2010年度は、電動機インバータ化などによる適正運転や蒸気系統のロス低減などの省エネルギー対策と、生産量回復の効果で、エネルギー原単位は前年度より2.6%改善しました。CO₂排出量は、生産集約の効果により基準年度(1995年度)比42%低減の実績となっています。



機械事業部門

機械事業部門は、省エネルギー型圧縮機やヒートポンプ、石油精製向け圧力容器などの需要が拡大する中、省エネルギー対策と生産設備効率化、生産性向上によりエネルギー効率の向上を図ってきました。

2010年度は、空調設備更新、省エネルギー型照明の導入などの対策を実施し、生産額低減の影響もあり、CO₂排出量は前年度よりも3.3%低減しました。生産額あたりのCO₂排出量原単位は前年度よりも増加していますが、基準年度(1997年度)比では20%低減しています。



TOPICS 加古川製鉄所で高効率ガスタービン発電設備が稼動

加古川製鉄所には、製鉄所内で発生した高炉ガスを主燃料とした自家発電設備が設置されています。稼動後30年以上経過した発電設備の更新に合わせ、高効率ガスタービン発電設備を導入する対策を実施していましたが、このたび建設工事が完了し、運転を開始しました。発電効率が改善され、補助燃料削減や購入電力の低減により、年間約10万トンのCO₂排出量を削減できる計画です。



環境報告

環境活動・パフォーマンス | あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

■ 物流分野における省エネルギー

神戸製鋼グループは、国内外での原料物流や事業所構内および事業所からお客様への製品納入にいたるまで、最適で迅速な物流による省エネルギーに取り組んでいます。

各事業部門において、トラック輸送から鉄道、船舶を利用した輸送へのモーダルシフトの拡大や輸送時の積載効率改善、車両大型化による輸送効率改善に

取り組んでいる他、船舶利用率の高い鉄鋼事業部門では、大型専用船導入、船舶運行時の滞船時間、荷役作業時間短縮による効率化や、新日本製鐵(株)、住友金属工業(株)との内航船共同運航による遠隔地向け輸送の相積み、回航時の利用拡大などにより大きな効果をあげています。



▲ JR 無蓋コンテナを利用した鉄道+トラック組み合せ輸送



▲ 加古川～神戸製鉄所鉄鉱石輸送専用船「神鋼丸」

■ グループ会社における省エネルギー

神戸製鋼グループ各社においても生産工程および物流における省エネルギーに取り組んでいます。

取り組み事例

事業所名	取り組み事例
神鋼建材工業(株)	モーターのインバータ制御化、モーダルシフトほか輸送効率化
神鋼神戸発電(株)	空燃比設定見直しによる熱損失低減およびファン動力の低減、給水ポンプ効率回復工事
神鋼特殊鋼管(株)	熱処理炉・熱風乾燥炉などの都市ガスへの燃料転換、遠隔輸送時の積み合せ
関西熱化学(株)	ブロワーモーターのインバータ制御化、ドラフトチャンバー風量自動制御化
三和鐵鋼(株)	省エネルギー型空気圧縮機導入、配車計画・近隣ユーザーとの積み合せによる積載率改善
(株)セラテクノ	工場照明の高効率化、500トンプレス作動ポンプインバータ化、原料受け入れコンテナ化
(株)テザックワイヤロープ	省エネルギー型空気圧縮機導入、洗線槽給水量見直しによる燃料節減、大型車両比率向上
KOBEウェルディングワイヤ(株)*	省エネルギー型トランス導入、炉温変更見直しによる燃料低減、エコタップの利用
神鋼アクテック(株)	エア漏れ防止対策実施、近隣港湾利用率向上、コンテナ利用拡大
サン・アルミニウム工業(株)	圧延機・空気圧縮機のインバータ化、製品輸送・空箱回収のモーダルシフト化
神鋼アルミ線材(株)	熱処理炉燃料の都市ガスへの燃料転換および空燃比調整、納期調整および混載による輸送効率向上
神鋼ノース(株)	乾燥炉操業改善による省電力(50%削減)、インバータ式空調機への更新
神鋼メタルプロダクツ(株)	空気圧縮機インバータ化、圧縮空気系統細分化によるロス低減、太陽電池式LED照明
神和木材工業(株)	省エネルギー型空気圧縮機・照明の導入、出荷時積載効率改善、事務所窓の緑化
コベルコ建機(株)	油圧ポンプインバータ化、省エネルギー型照明への変更、近隣港湾の利用拡大
(株)ツインフーズ	省エネルギー型照明導入、自動開閉シャッター・冷蔵庫前室冷気漏出防止カーテン設置

※2011年4月1日付で神戸製鋼に吸収合併

限りある資源を有効に活用するため、廃棄物の削減やリサイクルを進めています。

資源循環の促進

神戸製鋼グループは、素材や産業機械など多岐にわたる事業展開の中で、限りある資源を有効に活用するために、各事業所内において廃棄物の発生を極力少なくするよう取り組むと共に、製造工程から得られる副産物などについては再利用や再資源化を徹底しています。

■ 廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

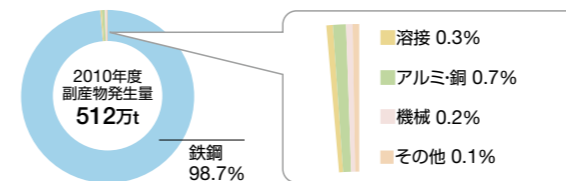
神戸製鋼グループは、2010年度に512万トンの副産物(発生物)が生じ、そのうち98.7%が鉄鋼関連事業によるものでした。製鉄所においては、製鉄工程で副次的に得られる鉄鋼スラグやダストの再資源化を促進してきました。2010年度は、神戸製鋼の全事業所で95.8%、グループ全体では95.3%を再資源化しています。

2010年度は、鉄鋼スラグ*の品質管理強化を図る一方、リサイクルの障害となるフッ素を含む副原料を使用しない操業方法への変更などにより、最終処分量の低減を図ることができました。建設工事などに伴う発生物の一部を埋め立て処分したものの、グループ全体では昨年比3割減となる約21万トンを最終処分しています。

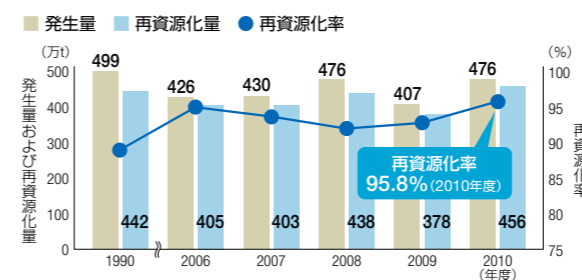
今後も引き続き、再資源化の技術開発や廃棄物の発生抑制などを一層進め、埋め立て処分量を削減していきます。

※鉄鋼スラグ:金属精錬の際に溶融した金属から分離されて回収される副産物

事業部門別発生量(グループ会社含む)



発生量および再資源化量と再資源化率の推移(神戸製鋼)



■ 事業所のゼロエミッションの取り組み

各事業所では、廃棄物の埋め立て処分量の削減に向けたアクションプログラムを作成し、再利用やリサイクルなどに継続的に取り組んでいます。

鉄鋼事業部門

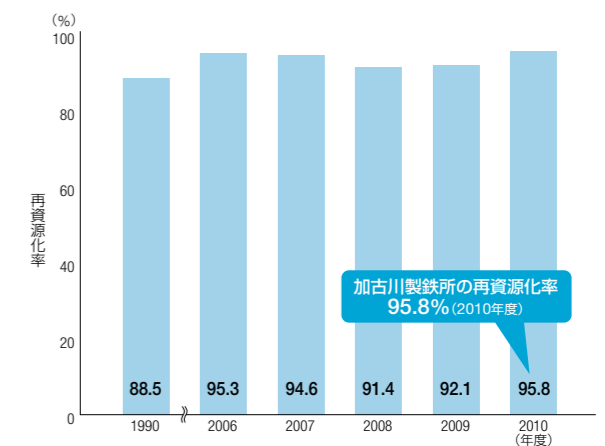
発生物のリサイクル

加古川製鉄所は、1997年度より、事業所からの廃棄物の最終処分量をなくすゼロエミッション活動を実施しています。

具体的には、廃油、スラッジ*などの有効利用を図ると共に、ダストはセメント原料に利用しています。さらに、リサイクルが困難であった高亜鉛ダストのリサイクル設備を導入し、製鉄所のゼロエミッション化達成に向けて努力を続けています。また、エコステーションではガラス瓶やアルミ缶などの分別収集を行っています。

※スラッジ:工場排水処理に伴って回収される泥状の副産物

加古川製鉄所の再資源化率推移



国内外の基準に合わせた管理と代替化を推進し、有害化学物質の削減に努めています。

化学物質の適正管理

神戸製鋼グループは、化学物質の管理の徹底、有害化学物質使用量の削減、安全性の高い物質への切り替えなどに取り組んでいます。

■ 化学物質管理の徹底

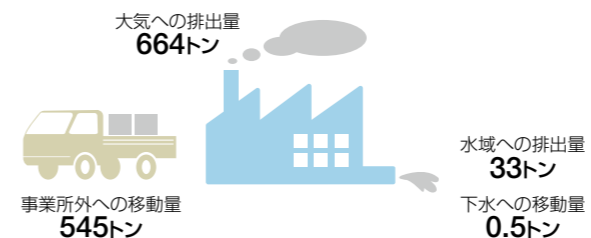
神戸製鋼グループは「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」を定め、化学物質管理の徹底を図っています。例えば、全事業所・グループ会社で運用している「指定化学物質に係る管理シート」により、化学物質ごとに使用方法、管理方法を明確にして、PRTR法^{*}に関する移動・排出量の集計に活用すると共に、使用量の削減、排出量の抑制に向けた活動に取り組んでいます。

PRTR法に基づく2010年度届出値の集計では、神戸製鋼グループの取り扱い物質は50種類、排出量合計は約697トン、移動量合計は約545トンでした。

神戸製鋼グループの届出予定物質一覧は、ホームページに掲載しています。

^{*}PRTR法：Pollutant Release and Transfer Register「特定化学物質の環境への排出量等および管理の改善の促進に関する法律」
^{*}排出量は大気・水域への排出量の合計
^{*}移動量は事業所外・下水への移動量の合計

神戸製鋼グループでの排出量／移動量



■ 化学物質の排出削減活動

事業所名	事業所所在地	取り組み事例
播磨工場	兵庫県加古郡	乾式塗装ブースを湿式塗装ブースに変更し、塗料からの揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出量を削減
神鋼溶接サービス（株）	神奈川県藤沢市	集じん機と排ガススクラバによりPRTR物質の大気への排出量を削減
サン・アルミニウム工業（株）	千葉県千葉市	揮発性有機化合物（VOC）の処理装置を導入し、VOCの大気への排出量を削減
コベルコ建機（株）大垣事業所	岐阜県大垣市	有機溶剤使用量の削減のための「塗装品質改善プロジェクト活動」を継続実施中

■ 化学物質規制への対応

化学物質規制については、規制強化の動きが日本国内はもとより世界的に進められています。日本では、化審法^{*}、PRTR法が改正され、2010年度から新たに対応が必要となっています。

また、台湾や中国でも、化学物質の新たな規制が施行されており、神戸製鋼グループは、関連法令に適切に対応するため、関連部署と情報共有や意見交換などを行っています。

^{*}化審法：化学物質の審査および製造などの規制に関する法律

■ 廃PCB電気機器の管理

PCB（ポリ塩化ビフェニル）が含まれる使用済みのトランス、コンデンサなどについては、「PCB廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、専用の保管場所などにおいて適正に管理すると共に、届出を行っています。

神戸製鋼は、2008年度から処理委託を開始し、2010年度も、各事業所（加古川製鉄所、神戸製鉄所、高砂製作所）で、処理委託を継続実施しています。

環境報告

環境活動・パフォーマンス | あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

鉄鋼スラグのリサイクル

加古川製鉄所と神戸製鉄所から1年間に高炉スラグが約240万トン、製鋼スラグが約120万トン、副次的に生成されます。高炉スラグ、製鋼スラグのどちらも、セメント用資材、道路用路盤材などに再資源化しています。特に、高炉スラグ微粉末を用いた高炉セメントは、普通のセメントに比べアルカリ骨材反応の抑制効果が高く、またセメント製造時の省エネルギーが図れ、CO₂排出量の抑制効果もあるため、市場から高い評価を得ています。さらに、高炉水砕スラグによるコンクリート用細骨材は、天然砂の代替として自然保護に役立っています。

一方、製鋼スラグは、含有する遊離石灰により膨張性を有するため、蒸気による促進エージング処理により膨張を安定化させた後、路盤材に使用します。蒸気エー

ジング設備はコンクリート製のピットに、製鋼スラグを挿入し、ピット下部より蒸気を吹き込む構造となっています。この設備により、生成する製鋼スラグのほぼ全量を処理することが可能です。



▲蒸気エージング設備

アルミ・銅事業部門

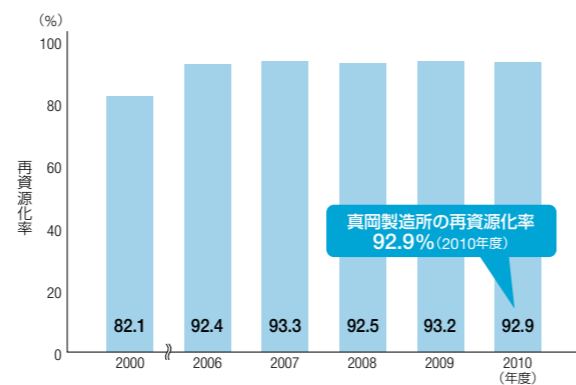
真岡製造所は、スクラップ専用溶解炉により原料溶解時の歩留りを向上させると共に、アルミニウムの溶解時の不純物（アルミニウムドロス）の発生を抑えています。どうしても発生するアルミニウムドロスについては、アーク炉でアルミ分を高効率で回収し、残灰についても、セメント原料などに再資源化しています。また、事業所横断型のプロジェクト活動を展開し、従来埋め立て処分としていた汚泥についても再資源化を図りました。その結果、2010年度の再資源化率は、92.9%でした。

一方、長府製造所では、アルミニウムドロスをリサイクルすると共に、取り扱いが困難であった銅スラッジの再資源化に取り組み、2010年度も前年度に引き続き99.4%以上の再資源化率を維持しています。ま

た、梱包仕様見直しによる無駄削減にも取り組んでいます。

大安工場では、鋳物砂の再粉碎装置を導入し、工場内での再生砂の使用量増に取り組んでいます。

真岡製造所の再資源化率推移



溶接事業部門

溶接事業部門は、廃潤滑剤の再利用化を進めている他、廃油の再生重油化・スラッジの路盤材化、廃パレット（木くず）の合板原料化など、有価物への転用拡大を継続し、廃棄物削減・リサイクル率向上に努めています。

機械事業部門

播磨工場は、塗料カスなどのリサイクル方法の検討を進め、副産物を全て再資源化することを目指すと共に、一部製品の梱包に関して、部品の通箱化推進、緩衝材の再利用などの取り組みを進めています。

環境報告

環境活動・パフォーマンス | あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

あらゆる面で環境に配慮した生産活動を徹底し、大気や水への環境負荷物質の低減に努めています。

環境負荷の低減(大気・水質)

神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」を環境経営方針の一つとして位置付け、継続的な生産工程の改善、設備更新や効率の良い最新設備の導入、環境負荷物質の除害設備の導入などあらゆる面で環境に配慮したものづくりを徹底し、大気、水域などへの環境負荷の低減に努めてきました。引き続き、グループ会社も含めて、さらなる低減に取り組んでいきます。

(主な事業所の環境データについては、P68～P74に記載しています)

■ 大気汚染対策

ばい煙の排出状況

生産工程などで発生するSOx(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や低硫黄燃料の使用、都市ガスへの燃料転換などにより発生を抑制すると共に、脱硫などの排ガス対策を行ってきました。一方、NOx(窒素酸化物)については、低NOx燃焼技術の導入

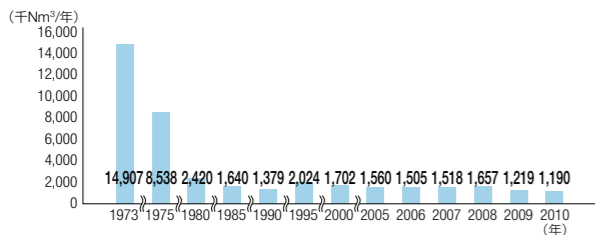
や省エネルギー対策により排出量の低減を推進してきました。

加古川製鉄所においては焼結工場に最新の排煙脱硫脱硝設備を導入しました。

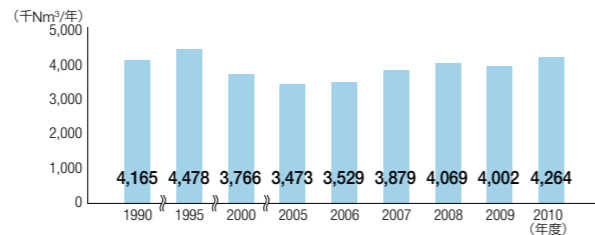


▲焼結工場の排煙脱硫脱硝設備

SOx排出量の推移(神戸製鋼)



NOx排出量の推移(神戸製鋼)



加古川製鉄所における粉じん対策について

2006年以降、加古川製鉄所では周辺地域の降下ばいじん量を低減するためにさまざまな対策を実施してきました。また、2008年度から製鉄所近隣3カ所の降下ばいじんに係る製鉄所影響値を3.0トン/km²/月以下とする自主管理目標値を定め、運用しています。

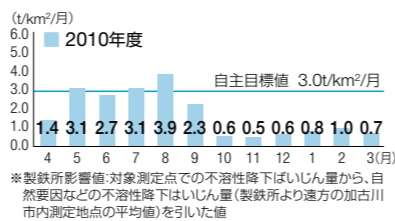
2009年度は年間を通して目標値を達成しましたが、2010年度は5月、7月、8月に目標値未達成となりました。目標値未達成を受け、清掃・散水の強化などを行うと共に、パトロールやデータの解析、そして、これまでの対策の効果を検証しました。

その結果、5月はコークス工場において、局部的に粉体の堆積が見受けられ、これが降下ばいじん増加の主要因と断定し、速やかに清掃・排除しました。7月、8月の

目標値超過の主たる原因は設備や操業の異常でなく、2010年夏季の気象条件(南風頻度)が想定を上回ったことでした。

今後とも、同様の気象条件となった場合、目標値未達成となる可能性が高いことから、抜本的な設備対策として、集じん機の増強、設備からの発じん防止、散水能力増強など7項目(関西熱化学(株)の対策件数含む)の粉じん対策の追加実施を計画しました。対策の実施にあたっては関係機関のご協力、ご指導をいただきながら確実に対策を進めています。

製鉄所影響値の推移図(加古川神鋼ビル)



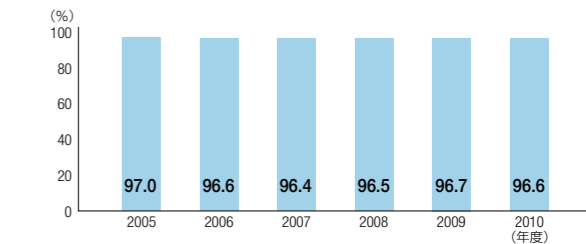
■ 水質汚濁対策

神戸製鋼グループは、生産工程の改善や再生水の利用によって水使用量を削減しています。また、生産工程からの排水はその特性に適した処理システムで浄化し、公共水域への水質汚濁物質の負荷量を低減しています。

製鉄所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂ろ過などにより浄化した後、再び所内で使用する「水のリサイクルシステム」を整えており、加古川

製鉄所、神戸製鉄所における水のリサイクル率は約96.6%に達しています。

水のリサイクル率(加古川製鉄所)



環境会計

神戸製鋼グループは、環境保全活動に関わる費用と効果を把握し、より効率的な環境経営の推進に努めています。

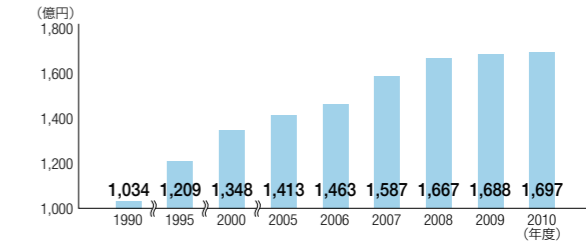
■ 環境関連投資

環境負荷低減のために環境対策設備の新設や維持管理に継続して投資を行い、さまざまな面から環境対策を進めてきました。

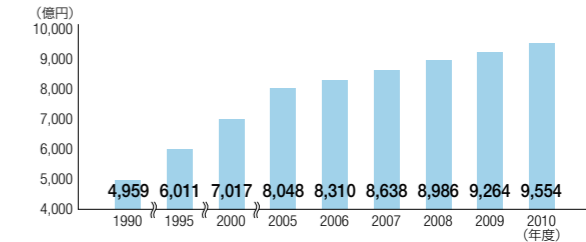
2010年度の設備投資は約26億円、経費は約340億円でした。経費の内訳は大気汚染防止に約37%、水質汚濁防止に約14%、資源循環に約27%を費やしました。

また、研究開発に全経費の約14%にあたる約49億円を投じました。

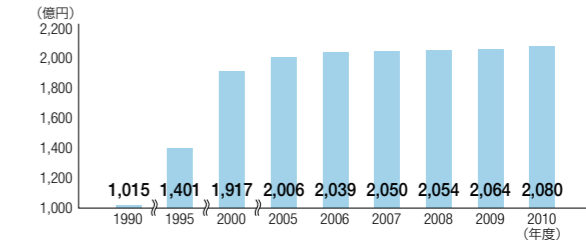
環境対策累計投資額の推移(神戸製鋼)



環境対策累計維持管理費の推移(神戸製鋼)



省エネルギー対策累計投資額の推移(神戸製鋼)



※上記3つのグラフは、1970年度からの累計です。

設備投資および経費(神戸製鋼)の内訳 (億円)

項目		設備投資額	経費
事業エリア内	公害防止	7.3	127.4
	水質汚濁防止	2.4	48.0
	資源循環	1.0	91.0
	地球環境保全	15.7	—
管理活動	EMS登録・更新など	—	0.1
	環境負荷の監視測定	—	3.6
	環境対策組織の人員費	—	16.2
研究・開発	エコプロダクツ・製造プロセスの環境負荷低減開発	—	48.9
社会活動	環境団体支援、広告など	—	0.4
その他	汚染負荷量賦課金	—	4.4
合計		26.4	340.0

※地球環境保全の経費は、操業に含まれるため投資額のみを記載しています。

■ 環境保全効果

環境保全の効果は、地球温暖化対策(P27～P29)、資源循環の促進(P30～P31)などの各ページに記載しています。

環境報告

環境活動・パフォーマンス | 製品・技術・サービスでの環境への貢献

幅広い分野で蓄積した技術とノウハウで、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供します。

製品・技術・サービスでの環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミなどの素材分野や機械、資源・エンジニアリング分野で、これまでに蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで、環境に貢献しています。

製品を通じたCO₂排出量削減

神戸製鋼グループは、素材分野と機械、資源・エンジニアリング分野を合わせ持つ複合経営の強みを活かし、オンリーワン技術や製品を通じたCO₂排出量削減に取り組んでいます。

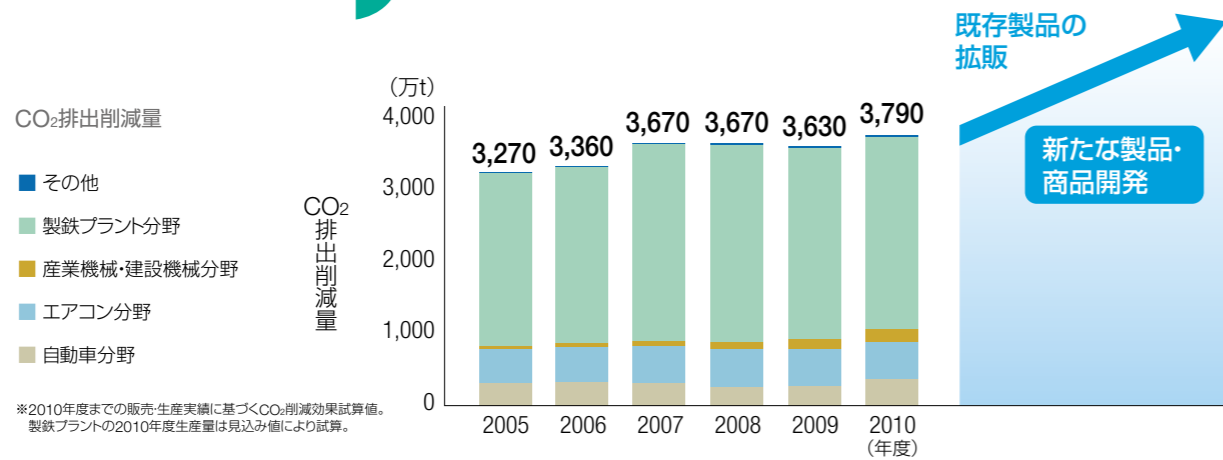
工場だけでなく自動車でもオフィスでも家庭で…

神戸製鋼グループの製品は、社会のいたるところでCO₂排出量削減に貢献しています。



2010年度における神戸製鋼グループ製品によるCO₂排出量削減効果(海外分含む)

約3,790万トン



*2010年度までの販売生産実績に基づくCO₂削減効果試算値。製鉄プラントの2010年度生産量は見込み値により試算。

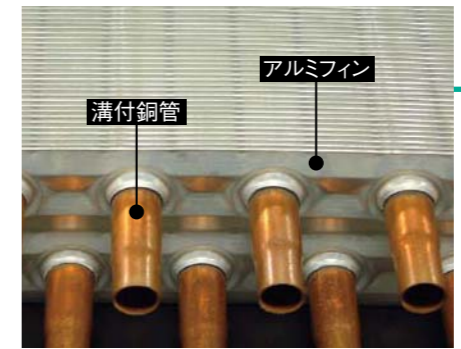


自動車分野

鉄鋼・アルミ製品での自動車軽量化によるCO₂排出量削減効果

約370万トン

(社)日本鉄鋼連盟、(社)日本アルミニウム協会の試算に基づく2010年度の試算値



エアコン分野

エアコン向け高性能溝付銅管を使用した高性能熱交換器によるCO₂排出量削減効果

約510万トン

日本伸銅協会の試算に基づく2010年度の試算値

産業機械・建設機械分野

ヒートポンプ、省エネルギー型空気圧縮機、高効率空気分離装置、省エネルギー型建設機械などによるCO₂排出量削減効果

約180万トン

製品耐用年数を考慮した2010年度の試算値



製鉄プラント分野



稼動中のMIDREX®、FASTMET®、ITmk3®プラントの生産見込みによる2010年度のCO₂排出量削減効果試算

約2,700万トン

その他(リサイクル、素材など)

約30万トン

環境報告

環境活動・パフォーマンス | 製品・技術・サービスでの環境への貢献

素材分野

神戸製鋼グループは、素材総合メーカーとして長年培ってきた先端技術と製造、加工、商品開発などのバランスの取れた総合力を活かした鉄鋼製品や溶接材料、アルミ部材などの「オンリーワン製品」を提供することで、より環境に配慮した製品づくりに貢献しています。

中間熱処理の省略に貢献したスチールコード用高伸線性線材 (SD線材)

スチールコードは自動車用タイヤの補強線などに用いられる極細線で、直径が5.5mmの高炭素鋼線材を直径約0.2mmまで伸線加工して製造されます。また、近年は太陽電池に用いられるシリコンウェハーを切断する際に使用する極細線 (ソーワイヤ) としてもさらに細径の鋼材が用いられ、市場が急拡大しています。

通常、このような鋼線を製造する際は、伸線加工によって劣化した延性を回復させるため、途中で中間熱処理を施しながら伸線していきますが、神戸製鋼が開

発した高伸線性線材 (Superior Drawability線材) は、高度な製造技術により圧延材の伸線性を従来よりも著しく向上させることで、お客様での中間熱処理の省略に貢献しました。環境負荷の低減のみならず、伸線ダイスの寿命向上効果なども認められており、お客様に好評を得ています。



スチールコード製造時のエネルギーを削減可能

環境に配慮した構造物用溶接材料

神戸製鋼は、いち早く溶接ヒュームの影響を軽減した被覆アーク溶接棒の商品化や、造船業などで使用が拡大していたフラックス入りワイヤの溶接ヒューム、スパッタの発生量を低減した新フラックス入りワイヤ、そしてソリッドワイヤにおいても、銅めっきなしワイヤの商品化を行いました。ワイヤ製造時における銅めっき処理を廃止することによって環境への負荷を軽減すると共に、溶接ヒューム低害化を図っています。

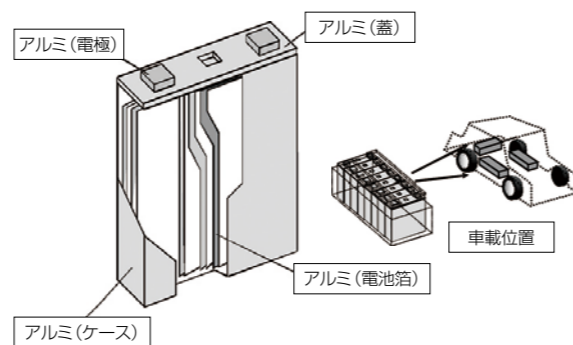


▲神戸製鋼グループの各種溶接材料

環境への負荷を軽減した溶接材料

次世代車 (EV車) へ搭載されるリチウムイオン電池の軽量化に貢献するアルミ製品

神戸製鋼は、地球環境対応のための次世代自動車であるハイブリッド車や電気自動車の軽量化に貢献しています。軽量化効果の高いアルミ合金製パネル材はもちろんのこと、寿命の長いリチウムイオン電池の電池ケースや電池箔の開発を進めています。これら電池部材のアルミ化により、次世代車の軽量化が可能となります。



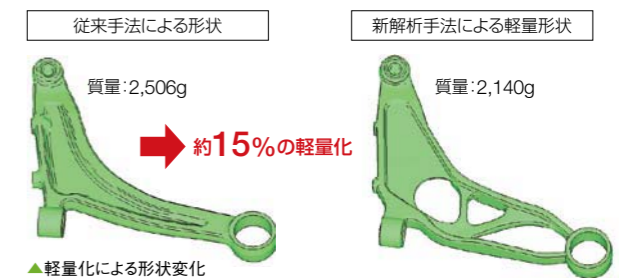
▲リチウムイオン電池の構造

自動車用サスペンションアームの設計に新解析手法を取り入れ軽量化を実現

アルミ鍛造品は鉄に比べて35~40%の軽量化できることから近年注目されている製品です。特に、足回り部品の軽量化は自動車の燃費向上はもとより、操縦安定性にも貢献することから、最も軽量化技術が必要とされるものです。

神戸製鋼は、アルミ鍛造足回り部品をさらに軽量化するため、新しい解析技術を開発し、これまでの部品に比べ約15%もの軽量化が可能となりました。

また、中国市場を中心にアルミ鍛造部品の受注拡大を進めています。



機械、資源・エンジニアリング分野

神戸製鋼グループは、産業機械分野での豊富な実績と、顧客ニーズに応える技術力、エンジニアリング力、ノウハウなどを活かして、省エネルギー性能を向上させたヒートポンプシステムや建設機械、さらには未利用資源を有効に活用する新しい製鉄技術などを提供することにより、環境に貢献しています。また、水処理、廃棄物処理、リサイクル分野で豊富な実績を有し、各種環境装置を提供しています。

未利用資源を活用する第三世代の製鉄法

第三世代の製鉄法として神戸製鋼が1996年に技術開発したのが「ITmk3® (アイティーマークスリー)」です。高炉では使いにくかった粉鉱石や一般炭を原料に、わずか10分で高炉銑鉄と同等のアイアンナゲット (高品位粒状鉄) を生産することができます。

高炉による製鉄法に必要なコークスや焼結鉱などの原料事前処理設備が不要で、NOxやSOxなどの環境負荷を低減できることに加え、新興国や山元における高炉での鉄源製造と比較して約20%のCO₂排出量削減が可能です。

2010年1月にはアメリカ・ミネソタ州で「ITmk3®」の商業炉1号機が稼働し、電気炉での高級鋼製造のた

めのアイアンナゲットの供給を開始しました。2011年後半にはプラントの生産能力である年産50万トンレベルでの操業を達成できる見込みです。

また、インド、ベトナム、北米など、世界各地でこの新しい技術を展開していきます。



▲ITmk3® 商業炉

▲アイアンナゲット

未利用資源の利用 CO₂を約20%削減

工場内の低温度熱源水の利用が可能な高効率蒸気供給システム

神戸製鋼と東京電力(株)、中部電力(株)、関西電力(株)の4社は、高効率蒸気供給システムを共同開発しました。

工場などで蒸気を利用する殺菌・濃縮・乾燥・蒸留工程において使用する120°Cを超える高温蒸気は、従来、ボイラでしか供給できませんでした。このたび、低温度熱源水を利用して、世界で初めて、120°Cを超える蒸気供給を可能とする高効率なヒートポンプシステム

を製品化したものです。従来のガスボイラに比べ約6割の省エネルギーと約7割のCO₂排出量削減を実現しました。



▲高効率蒸気供給システム

従来のガスボイラに比べ約6割の省エネルギーと約7割のCO₂排出量削減

環境報告

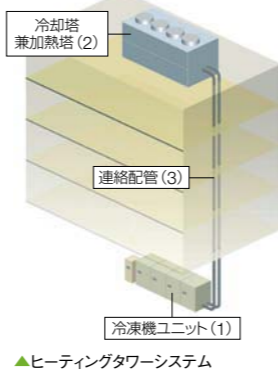
環境活動・パフォーマンス | 製品・技術・サービスでの環境への貢献

水冷式ヒートポンプ・チラーで暖房と冷房ができる超高効率ヒーティングタワーシステム

神戸製鋼の超高効率四方弁内蔵水冷チラーを用いたヒーティングタワーシステムが、東京スカイツリー®地区の地域冷暖房主要設備に採用されました。冬場に機能低下しないシステムや、冷水と温水の切り替えが容易なことが特に評価されました。

このシステムは地下機械室に設置された冷凍機ユニット(1)と、屋上に設置された冷却塔兼加熱塔(2)と、これらを結ぶ2本の連絡配管(3)で構成されています。冷凍機ユニットはさらにスクリュ圧縮機、水熱交換器、凝縮器、膨張弁、冷媒切換弁などで成り立って

います。事務所ビルでの試算では、ガス吸収式空調システムと比較してランニングコストを4割削減でき、使用するエネルギーも少なく済むため、CO₂排出量は5割削減できます。



▲ヒーティングタワーシステム

ガス吸収式空調システムと比較
ランニングコスト4割削減 CO₂排出量5割削減

工場排熱や地熱などの未利用エネルギーを活用する「小型バイナリー発電」を開発

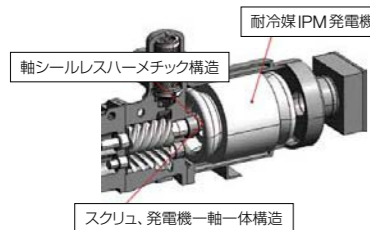
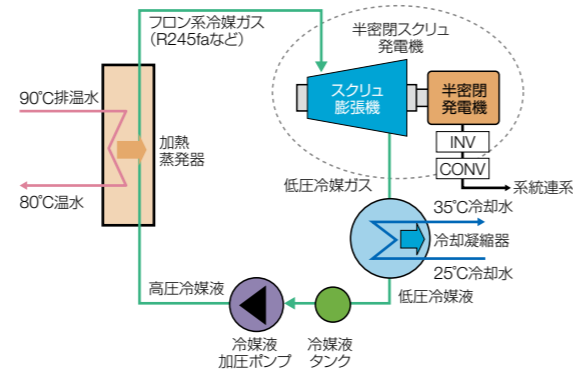
神戸製鋼は2011年度の製品化を目指し、「小型バイナリー発電システム」の開発を進めています。

バイナリー発電は、工場排熱や地熱などの未利用エネルギーを使い、熱交換器を通じて沸点の低い液体を加熱・蒸発させ、その蒸気でタービンを回して発電するというものです。神戸製鋼では、80~90°C程度の排熱や熱水で、神戸製鋼の強みであるスクリュを採用した発電能力100kW級のバイナリー発電システムの開発を行っ

ています。スクリュ方式にしたのは、比較的少ない温水でも効率よく発電するためです。

中小規模の食品・化学工場や温泉施設向けに、2015年度には売上約20億円を目指します。

▼発電のしくみ



▲小型バイナリー発電本体構造

未利用エネルギーの活用
排熱や熱水のエネルギーを電力に

神鋼機器工業(株)

内面に施された鏡面加工でアンモニアガスの純度を保持する「高純度アンモニア容器」

パソコンやテレビなどの液晶バックライトで採用が進むLEDなどを製造する際に欠かせないのが高純度アンモニアです。近年、半導体製造プラントが中国にその拠点を移しつつある中で、同国向けに高純度アンモニアを安全に充填、移送し、安定した状態で供給するための大型容器のニーズが浮上してきました。

神鋼機器工業(株)は、鋼製容器の内面に研磨材を入れて回転させることで、容器の内側に研磨材が衝突を繰り返しながら表面を切削除去する「パレル研磨技術」を確立することにより、高純度アンモニア容器を

つくり上げることができました。現在、中国向けの高純度アンモニア容器の出荷を開始しています。



▲高純度アンモニア容器

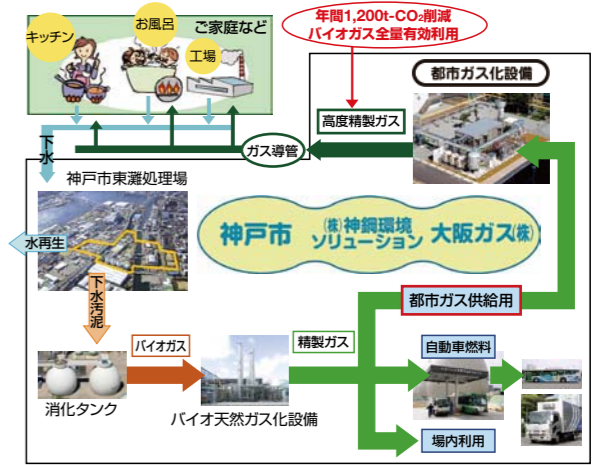
LEDの製造に貢献する高純度アンモニア容器

(株)神鋼環境ソリューション

日本初! 下水道バイオガスの都市ガス導管注入がスタート

(株)神鋼環境ソリューションは、下水汚泥から発生するバイオガスを家庭用(都市)ガスと同等の品質に精製するための都市ガス化設備を完成させ、神戸市、大阪ガス(株)と共同で、都市ガス導管への注入事業を開始しました。当初は年間80万m³=約2,000世帯相当のバイオガスを供給する見込みです。

バイオガスとは、下水汚泥や食品残渣などのバイオマスをメタン発酵する際に発生する可燃性ガスで、カーボンニュートラルなエネルギーであることから、化石燃料の使用量削減に向けて、その利用が大きく期待されています。本事業開始により、同処理場ではバイオガスの100%有効利用が実現します。



「下水道バイオガス」を家庭などで利用

コベルコ建機(株)

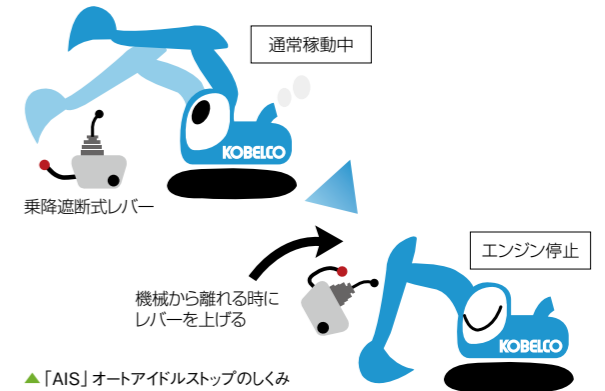
コベルコの油圧ショベルの優れた技術が国土交通省に認められました

コベルコ建機(株)の「AIS(オートアイドルストップ)機能付油圧ショベル」が2011年2月に国土交通省・新技術情報提供システム(NETIS*)に登録されました。

「AIS」機能は、乗降遮断式レバーが上がると一定時間後にエンジンを自動停止させる機能で、この機能により機械から離れる際のエンジンの停止忘れがなくなり、燃料消費量およびCO₂排出量を約20%低減でき

ます。2010年の「iNDr(冷却システム)搭載極低騒音型油圧ショベル」に続くNETIS登録となり、今回の登録により、コベルコの全ての油圧ショベルがNETIS登録となりました*。

*NETISとは、建設分野において民間などから新技術情報を収集し、優れた新技術のより一層の活用促進を図るためのシステムです。
*ミニショベル、BOMAG製品、マグネット仕様機械など一部を除く。



▲「AIS」オートアイドルストップのしくみ

オートアイドルストップ機能で
燃料消費量を約20%低減
(従来機比)



TOPICS

コベルコ建機(株) ハイブリッド油圧ショベル「SK80H(ハイブリッド)」が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞

現行機に比べて40%ものCO₂削減(燃費低減)を実現した8トン級ハイブリッド油圧ショベル「SK80H(ハイブリッド)」で、2010年度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)」を受賞しました。ハイブリッド技術は、他機種への展開も積極的に行われており、製品を通じた低炭素社会の実現に向けて大きく貢献します。



表彰式の様子

環境経営に関わる情報やデータを、多彩なメディアで公開。皆様のご意見を、日々の環境活動に活かしていきます。

環境関連情報の開示

神戸製鋼グループは、環境経営に関わる活動をステークホルダーの皆様へ正しくお伝えするために、環境・社会報告書などを活用し、環境情報や環境データを積極的に公開しています。事業所においては、地域の皆様との対話を定期的を実施するなど、環境コミュニケーションにも取り組んでいます。

■ 環境・社会報告書の発行

環境報告書の第1号を1999年に発行して以来、毎年環境への取り組みを紹介しています。2006年からは社会性の取り組み内容と共に「環境・社会報告書」として発行しています。今後も神戸製鋼グループの環境経営に関わる活動の成果を広くお伝えできるように努めていきます。

■ 展示会への参加

神戸製鋼グループは、展示会への出展などを通じて環境に貢献する製品・技術・サービスを紹介しています。2010年度は、「メッセナゴヤ2010」をはじめ、インドで開催され約500社が出展した建設機械見本市「bC India-BAUMA CONEXPO SHOW」にも出展しました。

▶ bC India-BAUMA CONEXPO SHOWの様子

■ 公開モニターによる環境情報の開示

加古川製鉄所および神戸製鉄所では、製鉄所のばい煙排出量などの環境情報を各地に設置したモニターを通じてリアルタイムで公開しています。

加古川製鉄所環境情報公開モニター設置場所	加古川市役所、播磨町役場、別府および浜の宮の地元町内会の公民館
神戸製鉄所環境情報公開モニター設置場所	灘浜サイエンススクエア、灘浜ガーデンパルク

TOPICS
「神戸製鋼グループ 環境・社会報告書2010」が(株)東洋経済新報社主催の第14回環境報告書賞・優良賞を受賞

CO₂削減への技術的貢献に関する特集や、カンパニー（現事業部門）ごとの情報開示が評価されました。今後も読み手に伝わりやすい適切な情報開示を継続してまいります。



受賞の様子

■ 地域社会とのコミュニケーション

環境保全の取り組みをご理解いただくために、加古川製鉄所、神戸製鉄所において地域の皆様への現地説明会などを実施しました。2010年5月30日に加古川製鉄所で実施した現地説明会では、17名の方々に現地で対策の進捗状況を説明し、対策設備の設置状況などを確認いただきました。また、環境に関するお問い合わせ窓口として、加古川製鉄所と神戸製鉄所に環境フリーダイヤルを開設しています。2008年度は68件、2009年度は60件、2010年度は45件のお問い合わせをいただきました。今後も皆様の一つひとつのご意見に耳を傾けていきます。

環境報告

環境活動・パフォーマンス | 製品・技術・サービスでの環境への貢献 / 環境関連情報の開示

オンリーワンの研究開発で、環境に配慮した素材や機械の製品化を加速しています。

神戸製鋼グループは、オンリーワン製品の拡販と創出の一環として環境に配慮した素材や機械の製品化を積極的に進めており、技術開発の側面で素材系および機械、資源・エンジニアリング系それぞれの事業分野を支えています。ここでは、環境に配慮した素材や機械の製品化を支える技術開発について紹介します。

研究開発での環境への貢献

神戸製鋼は機械・プラント分野で培ったガスハンドリング技術、製鉄所での副生ガス精製・利用技術を活かし、CO₂排出量の大幅な抑制が期待できる水素社会実現のための技術開発を進めています。

電気化学反応による純水素燃料電池での発電は、低負荷でも効率が低下しないため分散型での利用に適しています。発電・エネルギー供給用水素の場合、工場での連続・安定した水素利用と異なり、需要負荷に応じた負荷変動対応や夜間停止・朝起動の起動停止対応など柔軟な供給対応をすることが重要になります。



▲3Nm³/h規模ベンチスケール装置

技術開発本部では、コンパクトで毎日の起動・停止特性および負荷変動特性に優れた新しい水素の精製・貯蔵プロセス(COA-MIBプロセス:図1)を筑波大学と開発しました。100NL/hの小型装置ですですに750時間以上劣化なく運転を実証し、DSS(Daily Start and Stop)の実運用ベースでも総合効率88%以上という高い水素回収率で純水素供給を行うことができることを実証しました。(図2)

3Nm³/hのベンチスケール装置でも85%の実運用水素回収率が得られており、実用化に向けてさらに実証研究を進めています。

このプロセスは、大規模な水素ネットワークを構築せずに純水素を柔軟に製造・貯蔵しながら燃料電池に供給できることから、水素社会構築に貢献することが期待されています。

純水素燃料電池を蓄電池のように用いることで、不安定な太陽電池や風力発電など自然エネルギーの大量導入により電力系統全体が不安定になるという問題を解消することができます。新しいエネルギーネットワークの可能性として実現を推進していきます。(図3)

※この技術開発は環境省「地球温暖化対策技術開発事業」の委託研究の一部として実施しています。

図1: COA-MIBプロセス概念図

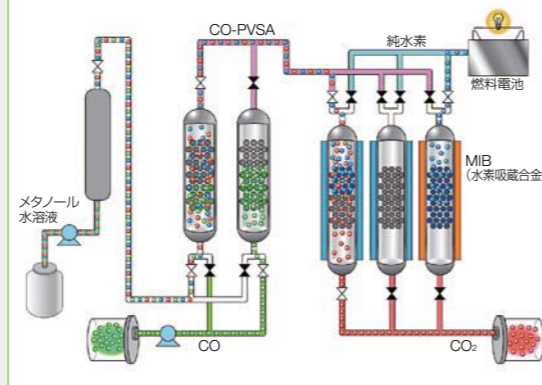


図2: 小型装置によるDSS(Daily Start and Stop)の実運用ベースで水素回収率(1サイクル=1.5時間)

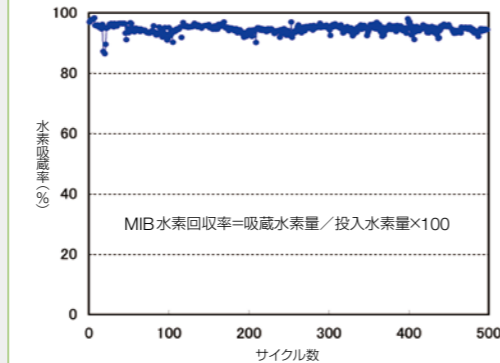
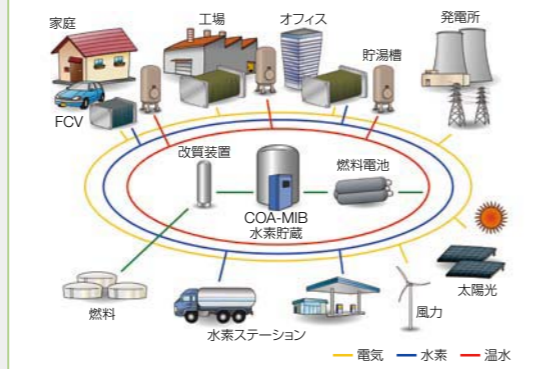


図3: エネルギーネットワークにおけるCOA-MIBシステムの位置付け



環境報告

環境活動・パフォーマンス | 社会との共生・協調 / 全員参加による取り組みの展開

地域社会と連携し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

社会との共生・協調

神戸製鋼グループは、環境の側面からも社会との共生・協調を目指しています。事業所周辺の美化活動や環境活動への支援などを継続して行っています。

※生物多様性への取り組みについてはP25にクローズアップして記載しました。

■ 地域社会への貢献

工場や事業所では、従業員による清掃活動などの環境ボランティア活動などを行っています。その活動の一部を下記にご紹介します。今後とも地域に根ざした活動を継続していきます。

主な取り組み事例

事業所名	活動内容
藤沢事業所	・ 事業所敷地外周辺の環境美化活動を2か月に1回実施 ・ 年1回行われる藤沢市工場等環境緑化推進協議会主催の緑化保全推進活動に参加
真岡製造所	真岡市が主催している「もわか環境パートナーシップ」の除草ボランティア活動に参加
神戸製鉄所	「鉄と環境」をテーマに神戸市内の小学生に出張授業を実施
神鋼メタルプロダクツ (株)	毎月、月初の第一稼働日を「環境の日」とし、始業時30分間事務所のスタッフ全員で事業所周辺の国道に面する歩道などの美化活動を実施

■ 環境活動への支援

神戸製鋼は2001年に「公益信託コベルコ自然環境保全基金」「コベルコ環境創造基金」を設立し、環境保全活動などに取り組んでいる方々を支援してきました。これらの基金は、神戸製鋼グループの枠を超えて、幅広く市民レベルの環境保全活動などの取り組みに対し支援を行ったものです。

2010年度に「公益信託コベルコ自然環境保全基金」が助成した主な自然環境保全活動例

助成先	活動内容
よこおみち森もりの会	里山の保全整備
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会	ウスイロヒョウモンモドキが息する草原環境の改善、普及啓発用パンフレットの作成
一般社団法人日本気象予報士会関西支部	子供たちを対象とした気象に関する教育などイベントの開催

PICK UP 藤沢事業所が神奈川県から功労者表彰を受賞

工場外周辺道路の清掃や、藤沢市工場等環境緑化推進協議会主催の緑化保全推進活動などへの積極的な参加などを含め、長年にわたる環境保全活動が総合的に評価され、藤沢事業所は平成22年度「神奈川県環境保全(大気・水・土壌関係) 功労者表彰」を受賞しました。



受賞の様子

TOPICS 神戸市から篤志者表彰を受賞

神戸製鋼が「コベルコ環境創造基金」により、10年にわたって神戸市のさまざまな環境施策を支援してきたことが評価され、このたび篤志者表彰を受賞しました。

2011年5月18日の受賞式では、矢田市長から佐藤社長に感謝状が授与されました。

神戸製鋼は今後もさまざまな形で、地域社会への支援を行っていきます。



左: 矢田市長、右: 佐藤社長

神戸製鋼グループの環境経営は、従業員一人ひとりが主役です。

全員参加による取り組みの展開

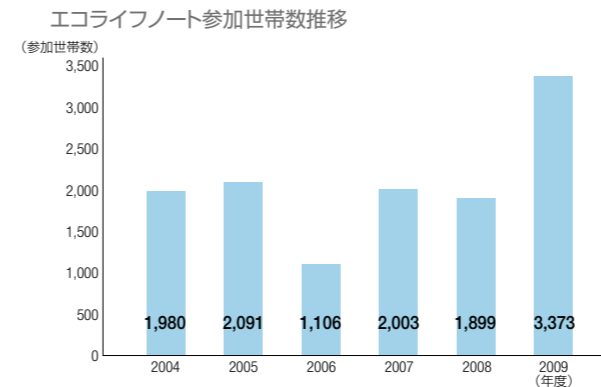
神戸製鋼グループの全従業員が、環境に関する意識を高め、常に環境に配慮した行動が行えるよう、環境教育・学習を継続して実施すると共に、環境家計簿や環境表彰制度、エコオフィス活動などの取り組みを推進しています。

■ 環境家計簿

「コベルコ エコライフ ノート」

神戸製鋼グループは、1998年から環境家計簿「コベルコ エコライフ ノート」を実施しています。これは、各家庭でのCO₂排出量を把握することで、従業員自らが省エネルギーなどの必要性を認識しライフスタイルの変革に取り組むものです。

2010年4月からはこれまでの記入用紙による参加に加え、インターネットからの参加も可能とするなど、利便性向上に努めており、2009年度の参加世帯数は、2008年度から1,474世帯増加し、3,373世帯となりました。



■ 環境意識の向上

環境教育・学習

神戸製鋼は、2006年度から環境教育・学習を階層別(事業所の職制ごと)の教育として織り込み、継続的に実施しています。また、イントラネットを利用したe-ラーニングを定期的に行い、従業員の環境意識向上と環境法令の周知徹底を図っています。

グループの環境表彰制度

毎年開催している「神戸製鋼グループ環境会議」において、環境に関する従業員一人ひとりの意識改革と不断の取り組みを支援し、その功績をたたえ、普及を促進するために、優れた活動に対する表彰を行っています。グループ全体で環境への取り組み強化を図ると共に、環境意識の向上に努めています。



▲ 社内表彰の様子 (神戸製鋼グループ環境会議)

環境関連資格取得の推進

環境管理の取り組み強化や環境への意識の向上を図るべく、各種公害防止管理者やエネルギー管理士などの資格取得を推進しています。

環境関連有資格者数(神戸製鋼)

資格	有資格者数	資格	有資格者数
公害防止管理者(大気)	193	公害防止管理者(ダイオキシン類関係)	44
公害防止管理者(水質)	147	公害防止主任管理者	7
公害防止管理者(騒音・振動)	188	エネルギー管理士	154
公害防止管理者(粉じん)	46	環境計量士	6

■ オフィスの省エネルギー活動

神戸製鋼グループは、事務所の空調の設定温度を調節する取り組みや、省エネルギー型の照明器具・パソコンへの切り替えなどに取り組んでいます。

2011年度は東日本大震災の影響を考慮し、サマーエコスタイル運動(クールビズ)の期間を5月1日から10月末まで拡大するなど、特に節電を意識した取り組みに注力していきます。

環境報告

環境活動・パフォーマンス | リスク管理の徹底／海外事業所におけるリスク管理活動

環境リスクを正しく把握し、低減を図ると共に、適切な管理・監査を実施しています。

リスク管理の徹底

神戸製鋼グループは、事業活動に伴う環境リスクを抜けなく把握し、リスク低減活動を実施すると共に、日常の管理手順を定め適切な管理を実施しています。また、環境監査などの活動を通じて、法令遵守の徹底や環境管理の強化に継続して取り組んでいます。

■ 環境管理・監査

神戸製鋼の事業所については、ISO14001などの環境マネジメントシステム(EMS)を導入し、事業所内で内部監査を実施すると共に、外部の認証機関による審査を受けています。また、社内規程に基づき、全社環境統括部門(本社)による書面および現地監査も毎年実施しています。2010年度は全12事業所の書面および現地監査を実施しました。

グループ会社についても、全社に対し書面による調査を毎年実施しています。また、環境リスクの大きい事業所にはEMSを導入し、自主的な管理活動を実施しています。なお、本社による現地調査も実施しており、2010年度は12社12事業所の現地調査を実施しました。

神戸製鋼の事業所の現地監査、およびグループ会社の現地調査については、社外のコンサルタントにも参画いただき、客観的かつ正確な監査、調査に努めています。



▲加古川製鉄所の環境監査状況



▲コベルコ建機(株)の環境確認調査状況

2010年度の行政による指示・指導

神戸製鋼およびグループ会社において、環境法令について重大な違反は認められませんでした。関係行政から指示や指導を受けました。

行政による指示・指導件数

	大気	水質	その他
神戸製鋼	2	3	0
グループ会社	1	3	0
合計	3	6	0

行政による指示・指導の事例

- 大気汚染防止法などの届出規程に関する不備が判明し、適切に是正処置を行った。
- 行政立入時の排水サンプリングの分析結果において、管理値範囲を外れていた。対策として設備改善や従業員への再教育を実施した。

世界各地に広がる事業所で、環境管理体制の整備を進めています。

海外事業所におけるリスク管理活動

神戸製鋼グループは、グループの環境経営基本方針に則り、世界各地のグループ事業所でも環境管理の徹底を図ります。

■ タイのグループ会社で現地環境調査

神戸製鋼グループは、国内の事業所・グループ会社と同様に海外グループ会社においても、将来的には日本国内に準じ、環境管理体制を整備していくこととしています。この活動の一環として海外グループ会社の現地環境調査を実施しています。

2010年度はタイにおいて生産拠点となっているグループ会社6事業所について現地調査を行い、環境管理における改善点を抽出しました。その結果をもとに各事業所では必要な是正措置を完了しています。2011年度も引き続き、海外事業所の現地調査を継続して実施します。



▲タイでの調査対象グループ会社



▲現地調査の様子

■ 世界各地での取り組み

環境教育

従業員の環境意識の向上と環境法令や環境保全技術の周知を図るための環境教育を、海外グループ会社においても実施しています。



▲環境教育(青島神鋼溶接材料有限公司)

PRO-TEC Coating Company (アメリカ)	・全員に環境教育を実施 ・環境法令、薬品・油漏洩防止、危険廃棄物管理、緊急時の対応など
神鋼特殊鋼線(平湖)有限公司(中国)	・月1回の環境学習会を実施
青島神鋼溶接材料有限公司(中国)	・全員に環境教育を実施 ・環境法令、廃棄物管理

環境リスク低減活動について

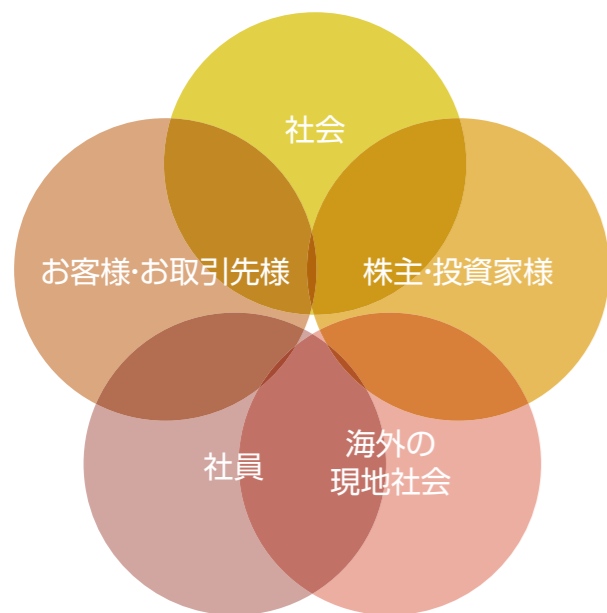
環境リスク低減に向け、海外のグループ会社でも積極的に取り組んでいます。Kobe&Shinsho Tube Specialities(マレーシア)では臭気対策のため、洗浄機の密閉化を実施しました。また、Kobe Welding of Korea(韓国)では、成型・伸線機にカバーやゴム製緩衝材を取り付けることで、騒音や振動を低減しています。

TOPICS
環境マネジメントシステムの構築

Kobe CH Wire (Thailand) Co., Ltd. (タイ)は、2011年1月に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。同社はタイにて自動車用ボルト、ナット向けの冷間圧造ワイヤーを製造しています。



Kobe CH Wire (Thailand) Co., Ltd. 概観



ご意見・ご指摘 ↓ ↑ 活動のステップアップ

KOBELCO
神戸製鋼グループ

多様なステークホルダーと、共に生きる、共に栄える。

ステークホルダーの皆様と、「信頼」という絆を結びたい。神戸製鋼グループは、そんな基本姿勢のもとで、企業としての社会的責任を果たします。さまざまなご意見・ご指摘に応え、日々の活動をステップアップすることで、皆様と共に生き、共に栄える企業であり続けたいと思います。多様なステークホルダーとの関わりを通じて社会に貢献する、神戸製鋼グループの活動をご紹介します。

社会性報告 HIGHLIGHTS ON SOCIETY

2010年度の活動ハイライト

株主・投資家様

株主の皆様を対象とする工場見学会を実施

株主の皆様へ神戸製鋼グループへの理解を深めていただく工場見学会を、2007年度より開催。鉄鋼、アルミ・銅、機械など、さまざまな製造拠点をご覧いただいています。

58
ページ



社会



東日本大震災の被災地を支援するチャリティー交流会

2011年3月19日、神戸製鋼ラグビー部は、恒例のファン感謝イベントの内容を変更し、「チャリティー交流会」で募金活動を実施。防寒着約100着分を被災地に送りました。

お客様・お取引先様



「第3回ひょうごものづくり技術大賞」を受賞

お取引先と共同開発した超高層建築向け高強度円形鋼管が、優れた耐震安全性と良好な溶接施工性を評価され、《第3回ひょうごものづくり技術大賞》兵庫工業会会長賞を受賞しました。

社員



男性社員も利用できる「育児のための特別休暇」

神戸製鋼は、男性社員も利用できる満3歳までの子供の「育児のための特別休暇」を新設。社員の仕事と育児の両立を応援しています。

55
ページ

大地震に備えるコベルコ1.17ウォーク

2011年1月、地震による交通機関の不通を想定した「コベルコ1.17ウォーク」を開催。約170名が参加しました。大切な取り組みとして継続していきます。



海外の現地社会



マレーシアで、毎年恒例の福祉施設への訪問・寄贈活動

マレーシアの現地法人Kobe Precision Technology社では、老人ホームや子供たちの施設への訪問・寄贈活動を毎年実施しています。2010年も、社員15名が訪れ、支援金やプレゼントを贈りました。

社会貢献活動

CLOSE UP

ワチパト高炉復旧 技術支援プロジェクト

地球の反対側で起きた大地震からの復旧のために、 神戸製鋼グループに何ができたのか？

2010年2月27日、南米・チリに Mw8.8の大地震が発生。
チリ唯一の高炉一貫鉄鋼メーカーであるCSH社のワチパト製鉄所は大きなダメージを受けました。
CSH社の親会社にあたり、当社向けの鉄鉱石サプライヤーでもあるCAP社は、
1995年の阪神淡路大震災で被災した神戸製鋼に、高炉復旧のための技術支援を要請。
神戸製鋼グループだから語ることもできる、人と技術のドラマをご報告します。

稼動を停止した高炉から、高温の内容物を排出する

阪神淡路大震災への支援に報いたい…。 立ち上がった鉄の男たち。

鉄の原料となる鉄鉱石を溶かし、鉄を生成する。高炉は、複雑な技術が結集した製鉄所の中核設備です。チリ唯一の高炉をいち早く復旧するため、CAP社は、阪神淡路大震災で高炉復旧を果たした神戸製鋼に技術支援を求めたのです。

阪神淡路大震災の際、神戸製鋼グループは国内外からさまざまな支援を受けました。その恩に報いるため、高炉復旧の技術を提供したい…。その思いから、当時の神戸製鉄所で高炉復旧にあたった、3名の技術者の派遣が決定しました。



神戸製鉄所の高炉から排出したサラマンダー（凝固鉄鉄）の前で握手する、派遣された3名の技術者。左から北芳男（当時・鉄鋼事業部門建設技術部）、松井良行（当時・鉄鋼事業部門技術総括部）、竹内正明（当時・神鋼エンジニアリング&メンテナンス機械技術部）。

日本とチリを結び、 24時間体制のフォーメーション。

「今度は恩返しする番だ」選ばれた技術者の一人、高炉担当の松井良行はそう思ったといいます。CAP社と資本提携している三菱商事（株）から提供された現地の写真には、阪神淡路大震災当時の神戸製鉄所と、よく似た状況が写っていました。派遣される技術者として、さらに設備担当の竹内正明、建設担当の北芳男が選ばれ、神戸製鉄所製鉄部長の北野新治が日本でプロジェクトを統括しました。

現地からの情報は三菱商事（株）を経由して刻々而入ってきます。3名の技術者がチリに出発する前に、緻密に対応策が練られました。さらに、現地でのミーティングの内容は、その日のうちに神戸製鋼に伝えられ、24時間リアルタイムで対応をサポートする体制を構築。地球の反対側への技術支援プロジェクトが始まったのです。



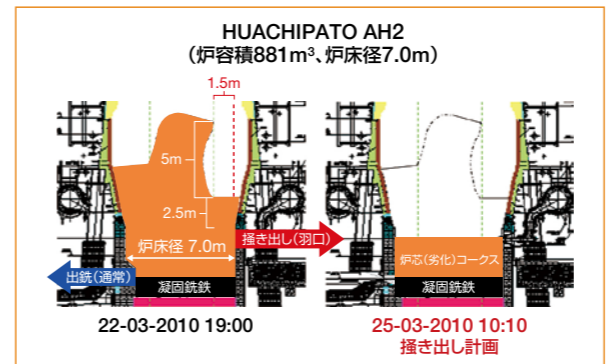
地震により倒壊したワチパト高炉の炉頂

Second Best— 操業再開の最短距離を探せ。

ワチパト製鉄所では、高炉から原料槽に被害が集中していました。特に高炉は、冷えて固まった鉄鉄（サラマンダー）の掻き出しが必要であり、これらを復旧するためのアドバイスが派遣された技術者たちのミッションでした。

「心がけたのは、“Second Best”。最初から完璧を目指さず、まず高炉を動かすことでした」竹内正明はそう語ります。最短時間で製鉄所の操業を再開するためには、操業や安全に必要なものを優先し、後は時間をかけて補修していく。そんな思い切りが、阪神淡路大震災の高炉復旧作業から学んだことでした。

ワチパトの高炉は、溶解した溶鉄を排出する出鉄口が一つしかなく、精密な復旧作業が必要でした。そこで、炉内に詰まったサラマンダーを取り出すために、新たな通り道をつくり、熱風の送風により炉芯のコークスを燃やすことでサラマンダーを溶かして炉外へ排出する方法がとられました。松井が緻密な操業設計の計算式を用意する一方、竹内と北は破壊された高炉設備の復旧アドバイスに取り組み、現地のスタッフに絵を描きながら説明しました。3か月で復旧という目標に向け、技術者たちのプライドをかけた任務が続いたのです。



羽口と出鉄口を結ぶ道をつくる、サラマンダー（凝固鉄鉄）の掻き出し計画。

300枚の写真が育んだ、 操業再開への「共通感覚」。

「最も大切だったのは、現地の技術者との共通感覚でした」3名の技術者は言葉を揃えます。操業再開に向け

復旧支援プロジェクトリーダーから

環境および社会のために、神戸製鋼グループならではの「技術」を提供したい。 神戸製鋼 神戸製鉄所・製鉄部長（当時）北野 新治

阪神淡路大震災で、神戸製鉄所は大きな被害を受けました。中でも高炉の被害は深刻で、復旧への道は困難を極めました。この経験から生まれた技術が、国内外を問わず役立つなら、こんなうれしいことはありません。東日本大震災に際し、謹んでお見舞い申し上げます。神戸製鋼グループは、環境および社会のためにできる限りのご支援をしたいと思います。



た自信を得るためには、技術的な方法論だけにとどまらず、スタッフ全員で復旧に向けたプロセスを共有し、その段取りに納得できることが必要だったのです。

共通感覚を育むために、現地の技術者たちに、あらかじめ用意した阪神淡路大震災の復旧作業に関わる300枚の写真を見してもらいました。経験と行動を視覚化することで、時間と距離を超えた共通感覚ができあがり、高炉再稼動までの道筋を示したのです。



用意した300枚の写真の1枚（神戸3高炉の復旧作業）

得たものは、 技術者たちのグローバルな連帯だった。

技術派遣を通じて、技術者たちは何を得たのでしょうか。「経験を共にする、技術者同士の連帯感」（松井）、「阪神淡路大震災からの復旧という、過去の資産を有効に活用できた経験」（竹内）、「鉄で結ばれた企業の絆」（北）。技術者と企業のグローバルな連帯が、いちばんの収穫でした。また、出発する前に対応策を予想し、日本と連絡を取りながら決定したことが成功の要因です。海外への技術支援のモデルケースとして、このプロジェクト経験は活かされていきます。

2010年6月9日、チリ大地震発生から103日目、ワチパト製鉄所は操業を再開。その日、伝えられた感謝のメッセージは、神戸製鋼グループ全体の財産です。

"We appreciate very much your excellent technical assistance and the energy and encourage that you gave us. Your support was very useful for this extremely difficult situation."



ワチパト製鉄所の実務担当者との打ち合わせの様子

社会性報告

お客様・お取引先様との関わり

「ものづくり力」の強化と徹底した品質管理で、「信頼」と「満足」を創造します。

お客様・お取引先様との関わり

神戸製鋼グループの企業理念の一つ「信頼される技術、製品、サービスを提供します」を実践するため、営業・マーケティング～開発・設計～調達～製造・生産までをカバーするトータルな活動において、「ものづくり力」のさらなる強化を図っていきます。「ものづくり力」とは、永続的に信頼される技術、製品、サービスを提供する力であり、成長のための「エンジン」となるものです。さらに、国内外のお客様・お取引先様に信頼され、満足される製品・サービスを提供するために、品質マネジメントシステム「ISO9000シリーズ」の認証に基づく品質管理を進め、お客様・お取引先様のご要望にも迅速に対応します。

※ ISO9000シリーズの認定取得状況については当社ホームページをご覧ください。(http://www.kobelco.co.jp/environment/kaiji/report/2011/index.html)

■ ものづくり推進部の活動

ものづくり推進部は、2010年4月の設立以来、神戸製鋼グループのものづくり力強化に向けて、『横申展開』、『シナジー発揮』をキーワードに、各種活動に取り組まれました。

『横申展開』では、交流会などを通じて他の事業所・グループ会社の優れた取り組みを紹介し、良いところを取り入れてもらう活動を進めました。また、個別に

事業所・グループ会社を訪問して相談事を聞き、参考となる取り組みをしている他の部門や専門技術者を紹介するなどの支援を行いました。

『シナジー発揮』については、ものづくりに係る情報の共有や知識の提供のため、グループ限定のWebサイトを構築し、グループ内での優れた取り組み事例の紹介やものづくりの基礎知識の教材を提供しています。

鉄鋼事業部門

【基本方針】 鉄鋼事業部門は、コンプライアンス感度の高い組織づくりに向け、グループ会社を含め品質保証体制を強化する取り組みを推進しています。また、信頼と安定のある品質を支えるための品質管理機能強化にも取り組んでいます。

グローバルな品質保証体制

ISO9001品質マネジメントシステムを基本とし、各産業分野や各国/地域の要求にお応えするため、ISO/TS16949(自動車分野)、ASME Section III(原子力<米国>)、圧力機器指令<EU>などに対応できる体制を整えています。

お客様の声に迅速にお応えするシステムを運用

ホームページおよび技術サービス部門を通じて、各種鉄鋼製品に関するお客様のご要望・ご質問に迅速にお答えする体制を構築しています。技術サービス部門では、国内4拠点、海外5拠点に担当者を配置しており、お客様のグローバルなご要望に対応します。

TOPICS

《第3回ひょうごものづくり技術大賞》を受賞

国内最大級のプレス能力を有する佐々木製鋼工業(株)と共同で開発し、東京スカイツリー®にも採用された高強度円形鋼管(KSAT® 630)が、優れた耐震安全性と良好な溶接施工性を評価され、兵庫県、兵庫工業会主催の《第3回ひょうごものづくり技術大賞》において、兵庫工業会会長賞を受賞しました。



受賞式の様子

溶接事業部門

【基本方針】 溶接事業部門は、お客様の声を聞き、部門間のコミュニケーションを図り、技術を磨き、日々健康で安全な職場をつくり、お客様の安心と満足を追求する「安全なものづくり」を進めています。

神溶会溶接サポーター認定制度

2004年から神溶会*の会員の皆様に、当社製品と溶接に関する深い知識と技術を身につけていただくため「溶接サポーター認定制度」を実施。2010年度には全国で約2,000名の方が溶接サポーター資格を取得しました。

※ 商社・代理店からなる当社製品の流通組織

QC国際交流会を定期開催

2010年10月、第14回QCサークル国際交流会をKOBELCO WELDING WIRE (株)*で開催しました。国内5拠点、海外6か国から約200名が参加し、国内外で11の事例を発表するなど、グローバルな品質向上に努めています。

※ 2011年4月1日付で神戸製鋼に吸収合併

アルミ・銅事業部門

【基本方針】 ~事業ユニットごとにQMS(品質マネジメントシステム)を構築~

事業ユニットごと(アルミ板、アルミ押出、アルミ鋳鍛、銅板、銅管)に品質保証体制を確立し、製品特性に応じてQMS活動を強化しています。また、お客様と一体となった製品開発および品質改善活動を行うことで、顧客満足度向上を進めています。

各分野でグローバルな品質システムの認証取得

自動車、航空機、船舶の各分野で、グローバルに通用する品質システムの認証を取得。ISO/TS16949、ISO9001、JISQ9100、NADCAP*、ポーイング、GE、各種船舶協会の認証に基づき、国際的に評価される品質管理活動を続けています。

※ NADCAP: National Aerospace and Defense Contractors Accreditation Program(国際特殊工程認証プログラム)の略称で、米国PRI(Performance Review Institute)で開発された認定プログラム。航空宇宙関連産業の特殊工程認定に関する唯一の世界標準となっています。

「世界同一品質」を目指す

(株)コベルコ マテリアル銅管は、海外に展開されている国内需要家への対応強化のため、海外事業所との情報共有化に力を入れています。この取り組みは年を重ねるごとに厚みを増してきました。2010年度は、銅管の探傷技術支援および海外事業所の社員の国内研修を実施しており、「世界同一品質」を目指しグループの総力を挙げて取り組んでいます。

機械事業部門

【基本方針】 「品質・コスト・納期」の最適化を図るため、全部門横断的にQCD活動に取り組んでいます。最優先のQ(品質)では、素材を中心に中国調達品の品質リスク管理活動、環境・エネルギー面に着目した海外法規対応、国内法規も含めたコンプライアンス強化を実施しており、従来の価格・納期に加え、品質と客先信頼を競争力の源泉にすべく活動を展開しています。

グローバルな品質向上への取り組み

汎用圧縮機工場(播磨・高砂)は、中国に設立した汎用圧縮機製造会社である神鋼圧縮機製造(上海)有限公司との間で毎月「工場品質会議」を主催し、エアコンプレッサのマザー工場として品質向上に努めています。

失敗情報の共有化による再発防止への取り組み

機器工場では過去の失敗事例を共有化し、類似不適合の撲滅に取り組んでいます。失敗情報委員会を毎月開催すると共に、工場独自に導入したe-ラーニングシステムにより広く情報・知識の共有化を図っています。

社会性報告

お客様・お取引先様との関わり／社員が働きやすい職場環境

資源・エンジニアリング事業部門

【基本方針】 お客様から信頼され、安心していただける製品とサービスを継続して提供することにより、社会に貢献します。そのために従業員全員が、

1. 品質不良をなくし、お客様にご満足いただくため、責任感と使命感をもって、各人の役割を遂行します。
2. お客様のニーズを的確に把握し、設計・製造・工事・操業の各段階の計画に反映・実行します。
3. 品質マネジメントシステムを適切に運用し、継続的に改善します。

グループ会社

コベルコ建機(株)

「メイド・バイ・コベルコ」を合言葉に高いレベルでの品質の均質化を推進

コベルコ建機(株)は、国内外工場(広島、大垣、中国2工場、タイ1工場)、および現地法人(シンガポール、インドなど)との合同品質会議を年1回開催し、「どこで作っても、どこで買っても同じ高い品質—Made by KOBELCO」を合言葉に、グローバルでの品質の向上に努めています。

コベルコクレーン(株)

インターネットでお客様のご意見を反映

コベルコクレーン(株)のカスタマーサポート部は、お客様の意見をサービスに反映させるため、日々の訪問活動に加えインターネットを有効に活用しています。ホームページ上に新車、中古車、部品、技術情報などのジャンル別の問い合わせ窓口を設け、お客様の意見をきめ細やかに収集しています。また、指定サービス工場を経由して送られてくるお問い合わせをシステム「ス

(株)コベルコ科研

「顧客満足度調査」を全社的に活用

ISO9001に基づく品質マネジメント活動の一環として、営業本部主体で「顧客満足度調査」を実施しています。統計処理、トレンド管理した結果をもとに年2回、全社的に開催するマネジメントレビューで対策などを審議。その結果は、毎月実施される「品質会議」にかけられ、各部署においても討議しています。

各事業部や事業所でも同様の活動を行っています。

ベースファインダ”に蓄積し、類似のお問い合わせに対する回答のスピードアップを図ると共に、ボトルネック工程の見える化を図り、工程の整流化に努めています。

また、国内においてITコントローラを搭載したクレーンを標準装備し、お客様の機械の使われ方、負荷量、稼働率を定量的に把握し、次期製品開発に反映しています。

築し、輸出業務を適正に遂行しています。

また、EU(欧州連合)で2007年6月から施行されているREACH規則(化学品の登録、評価、認可および制限に関する規則)についても周知徹底を図り、適切に対応しています。

さらに、e-ラーニングなど社員教育を実施して、知識レベルの向上を図る他、国際情勢の動きに対して常に鋭敏な感覚を養う努力を続けています。

※キャッチオール規制:輸出する製品・技術が、核兵器等の開発・製造など又は通常兵器の開発・製造などに用いられるおそれがある場合に輸出が規される制度。

多様な人材がのびのびと活躍できる「働きやすく、働きがいのあるKOBELCO」の実現を目指していきます。

社員が働きやすい職場環境

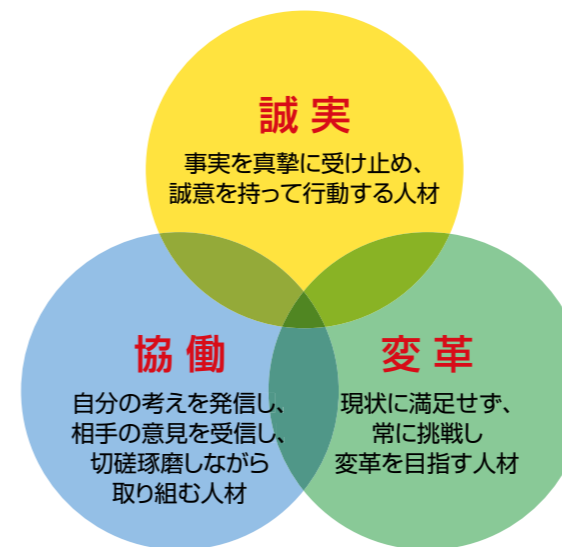
神戸製鋼は、社員の人格・個性を尊重し、活力溢れた魅力ある職場環境を実現していくために、各種人事諸制度の活用を図っています。また、「社員一人ひとりを活かし、和を尊ぶ」という神戸製鋼グループの企業理念を実現するために、グループ各社とさまざまな形で連携を強めていきます。

■ 人材育成

方針

神戸製鋼は、社員が仕事への誇りと働きがいを持つことを人材育成の目標としています。そのためには、社員一人ひとりが、具体的目標を持ち、日々成長していくことが重要です。社員自らのたゆみなき研鑽による成長を会社は全面的に支援します。

また、社員一人ひとりが多種多様な価値観を共有し、誇りと意欲を持って日々の仕事をやり遂げることを目指して、「神戸製鋼のあるべき人材像」を以下のとおり定め、人材育成の取り組みを進めていきます。



3つのあるべき人材像を念頭において、事業基盤の強化・変革を担うことのできる人材、グローバルな事業展開にも対応可能な人材を計画的に育成していくことを目指しています。具体的には、階層別教育の増強による若手・中堅層の研修強化や、OJT教育への支援強化、グローバルな人材の採用や育成についての取り組みをスタートしています。

また、社員のキャリア形成については、自己申告制度を通じて、上司と部下の間で業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を設けています。これをもとに、本人の希望と事業上の必要性を勘案しつつ、育成的見地からのジョブ・ローテーションを実施しています。また、自律的なキャリア形成を促進するために人材公募制度を実施しています。

神戸製鋼グループのあるべき人材像

『私たちは、グローバルに展開するKOBELCOの信頼に貢献する人材でありたいと日々努力します。』

社会性報告

社員が働きやすい職場環境

■ 多様性の尊重

仕事と生活の両立支援

魅力ある働く環境づくりに向けて、仕事と生活の両立を図るための環境の整備に積極的に取り組んでいます。

- 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行
- 年次有給休暇の取得率向上や生産性向上等、総実労働時間縮減に向けた取り組みの展開
- 育児・介護に関する法定を上回る支援の拡大

<近年の主な取り組み>

- ・ 育児休業期間の延長(子が満3才に達するまで) <2008年度より>
- ・ 育児のための就業時間等配慮期間の拡大(子が小学校を卒業するまで) <2008年度より>
- ・ 介護休業期間の延長(最大3年間まで) <2008年度より>
- ・ 子の看護・家族の介護休暇の有給化 <2010年度より>

<2011年度導入に向けた取り組み>

- ・ 育児・介護のための在宅勤務日制度の導入(2010年度)
- ・ 高齢者介護支援の社外サービスの提携契約(2010年度)

神戸製鋼では、夫婦だけで育児をしている世帯が全体の約25%あり、子育て世代の社員の生活に育児が占める割合は大きくなっています。

神戸製鋼では女性社員のみならず男性社員も子育てに積極的に参画できる環境整備(各種制度の新設や制度運用の定着活動)に取り組んでいます。

女性の活躍推進への取り組み

近年、女性従業員の採用数が大幅に増加する中、神戸製鋼は女性が自らの能力を十分に発揮できる環境づくりを推進しています。その一環として、総合職の女性社員を対象にメンター制を導入しました。

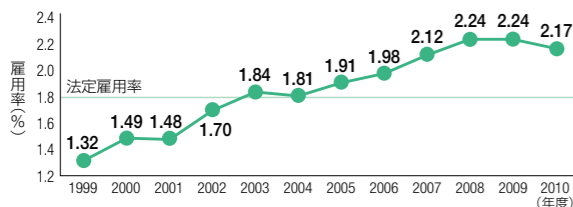
メンター制は、職場の上司以外の経験豊富な部長職がメンター(助言者)となり、キャリア形成や能力開発について心理的な側面から支援するもの。「自分の目指す方向性がはっきりした」と利用者的好评です。

障害者雇用への取り組み

神戸製鋼グループは、雇用管理セミナーを定期的に開催するなど、障害者雇用を積極的に推進しています。

神戸製鋼の2010年度の障害者雇用率は2.17%と法定雇用率(1.8%)を上回っており、雇用率アップに向けた取り組みを継続していきます。

障害者雇用率推移(神戸製鋼)



VOICE 利用者の声

特別休暇を上手に使って、できる限り育児に協力しています。

高砂製作所 高砂機械センター加工部 物流計装室 **大城 剛志**



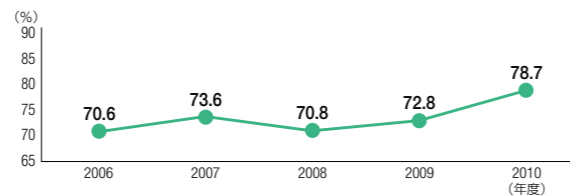
「育児のための特別休暇」を、出産や子供の予防接種などに合わせて利用しています。妻は24時間休まず育児に関わっているため、相当なストレスを感じているようです。職場の仲間のことも気にかけて、今後もこの制度を活用してできる限り育児に協力していきたいです。

高齢者雇用への取り組み

神戸製鋼は、「熟練社員再雇用制度」を導入しています。ベテラン層が停年退職した後も、その技術・技能を引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や職場活力の維持・向上を図っています。

また、グループ各社でも同様の取り組みを進めています。

停年退職者に占める再雇用者の割合推移(神戸製鋼)



人権尊重の取り組み

神戸製鋼グループは、人権を尊重し、あらゆる差別のない健全な職場環境を確保するために、各階層別教育における人権研修の実施などの人権啓発活動を行っています。また、公正な採用選考を行うための採用担当者に対する研修も実施しています。

ハラスメント防止の取り組み

「企業倫理綱領」の「企業行動基準」において、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントのような不当な「いじめ」「嫌がらせ」を容認しない姿勢を明確にしています。

また、ハラスメントに関する相談窓口の設置や「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」の作成・周知な

どを通じて、問題を防止し、迅速に解決するための体制を整備すると共に、社内・グループ内での人権研修においてハラスメントを取り上げ、啓発活動を継続的に実施しています。



▶セクシュアルハラスメント防止マニュアル

■ 安全衛生管理

方針

「安全衛生は事業経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」という理念のもと、安全で安心して働くことのできる、活気溢れた職場の実現に向け、さまざまな安全衛生活動を行っています。

安全衛生管理計画で目指す姿

- 法令・社内ルールを正しく理解し、それを確実に遵守できる組織・体質をつくり上げる。
- 生産・品質・人・組織・環境などに応じた“変化”を見逃すことなく速やかに対応する。
- 自らはもとより、職場の仲間の安全を守り、健康を気遣う風土をつくる。

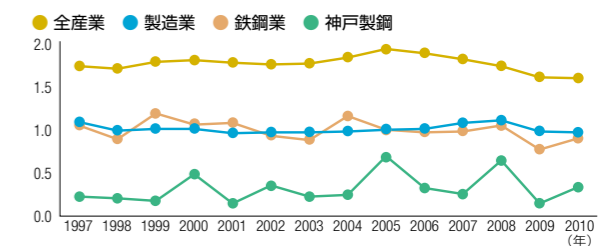
安全管理

神戸製鋼は、1979年から中長期的な視点で労働災害を減らす取り組みをはじめ、以降ほぼ3か年の安全衛生管理計画を策定しながら活動を行い、今日に至っています。その結果、労働災害は大きく減少し、度数率も低位で推移していました。しかし、残念ながらここ数年は停滞または悪化傾向となっています。

神戸製鋼では、この結果を重く受け止め、従業員の生命と健康を守ることが企業の社会的責任を果たす上で特に重要であるという認識のもと、2011年度も引き続き次の項目について重点的に安全管理に取り組むことにしています。

1. 関係法令、安全ルールの遵守、安全衛生管理活動の“徹底・定着”へのしくみづくり
2. リスク変化を見逃さず、安全を担保し「現場力」を活性化する活動の強化
3. 各階層別安全衛生教育の体系化と充実(“自ら考え、安全に行動できる”人づくり)
4. 神鋼グループ一体となった安全衛生活動の推進

休業災害度数率推移



衛生管理

衛生面では、健康に配慮した職場環境をつくり上げることが目標とし、『こころ』と『からだ』の両面の管理体制を充実し、“予防”への活動展開を一層強化して取り組むことにしています。

『こころ』の面では、産業カウンセラーや専門医師による「なんでも相談室」の拡充や、全ての従業員に対するメンタルヘルス教育などを進めています。

『からだ』の面では、定期健康診断の受診徹底とそのフォローを着実に行うことにより、生活習慣病の予防に努めると共に、職場環境の変化へも確実に対応して、職業性疾患の防止に努めています。

また、インフルエンザの問題に対しても、安全・安心を確保するための予防対策の徹底や新型インフルエンザ対策に取り組んでいます。

社会性報告

株主・投資家の皆様との関わり

経営の透明性を高め、 ステークホルダーの皆様との 健全で良好な関係づくりに努めます。

株主・投資家の皆様との関わり

神戸製鋼グループは、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。その中で、株主の皆様への利益還元はもちろんのこと、株主・投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとのコミュニケーション、経営の透明性の向上を重要課題と認識し、適正かつ迅速な情報開示と、幅広い情報公開を進めていきます。

■ 株主還元

神戸製鋼は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。

成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮することとし、配分につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向などを勘案して決定していきます。

内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資などに充てることを通じて、収益力の向上に

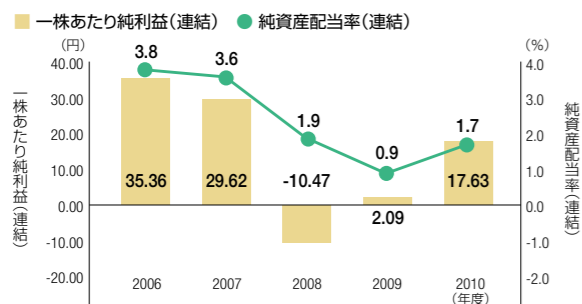
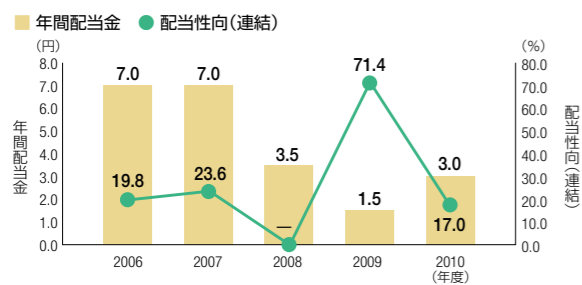
努めると共に、財務体質の改善・強化を進めていきます。

また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安としています。

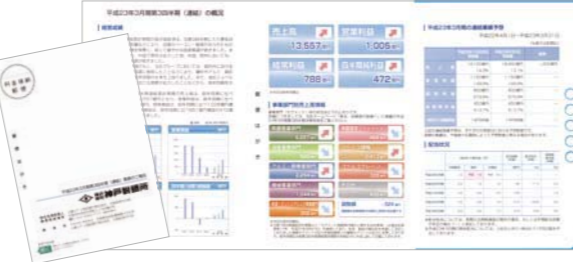
剰余金の配分につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めています。

これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としています。それ以外を基準日とする配当を行う場合には、別途取締役会にて基準日を設定した上で行います。

配当金の推移

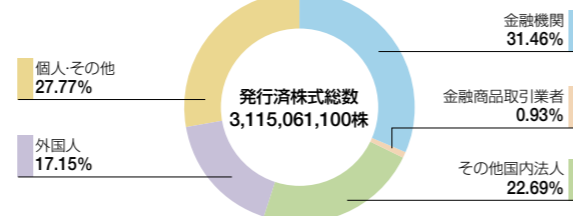


▼四半期「業績のご報告」ハガキ



■ 株主の状況

所有者別株式分布
(2011年3月31日現在)



■ 情報開示

株主や投資家の皆様にも長期的かつ安定的に信頼・支援いただくために、説明責任の遂行が極めて重要であると考え、企業情報や財務情報の適時・適切な開示に努めています。

情報開示に関しては、法定開示基準の遵守、証券取引所の定める適時開示に関する規則に則った開示はもちろんのこと、適時開示に関する規則に該当しない場合でも、投資判断に関わると考えられる開示可能な情報については積極的に、迅速かつ継続的に発信することにより、神戸製鋼グループの経営状況や事業活動

状況を十分にご理解いただき、適正な企業価値評価を得ることを目指しています。

▼株主の皆様へ



■ 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主とのコミュニケーション

株主総会を、株主の皆様と直接コミュニケーションする場としてとらえ、できるだけ多くの方にご出席いただくために、招集通知の早期発送や株主総会開催にあたって、集中日を回避するなどの工夫をすると共に、インターネット(携帯電話を含む)を通じての議決権行使が可能な環境を整えています。

また、株主の皆様にも神戸製鋼グループに対する理解を深めていただく機会として、2007年度より株主の皆様を対象とした工場見学会を開催しています。これまでに、鉄鋼関連事業の加古川製鉄所、神戸製鉄所、アルミ・銅関連事業の真岡製造所、鋳鍛鋼製品や産業機械の製造拠点である高砂製作所をご覧いただきました。今後も、さまざまな事業所をご覧いただけるよう、工場見学会を実施していく予定です。



▲工場見学会の様子(真岡製造所)



▲工場見学会の様子(神戸製鉄所)

機関投資家とのコミュニケーション

国内の機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、神戸製鋼の経営方針や経営成績および財務状況をご理解いただく機会として、年4回の決算説明会を開催しています。

また、国内外の機関投資家や証券アナリストの皆様との個別面談を行い、継続的なコミュニケーションに努めています。

個人投資家とのコミュニケーション

個人投資家の皆様には、神戸製鋼Webサイト(<http://www.kobelco.co.jp>)を通じて、半年に1度株主の皆様へ送付する「株主の皆様へ」などの発行物の他、アニュアルレポートや有価証券報告書、この環境・社会報告書など、幅広い情報を提供しています。

また、この他にも8月、2月に株主の皆様あてに発行する四半期「業績のご報告」ハガキに加えて、個人投資家の皆様に対する会社説明会を開催するなど、少しでも多くの方に神戸製鋼グループへのご理解を深めていただけるよう努めています。



▲2010年4月1日、より見やすくリニューアルした神戸製鋼Webサイト

神戸製鋼グループは、今後も情報開示およびコミュニケーションの質的向上に努め、株主・投資家の皆様から末永く信頼を得られるよう、IR活動を推進していきます。

社会性報告

社会との共生

一つひとつの事業所の地域貢献活動を通じて、 神戸製鋼グループは社会と手をつなぎます。

社会との共生

神戸製鋼グループは、それぞれの事業所が、地域社会に貢献する多彩な活動を推進しています。社会と共生する神戸製鋼グループの活動は、それぞれの地域の、一つひとつの事業所から始まるのです。こうした神戸製鋼グループの社会貢献活動を、次世代の育成支援、地域振興・地域交流、スポーツ振興、地元・神戸の自然保護、災害復興支援の5つの視点からご報告します。地域と、社会と共に生きる、神戸製鋼グループにふれてください。また、地域社会と連携した環境保全活動について、P43でご紹介しています。あわせてご覧ください。

次世代の育成支援

未来を担う子供たちの成長をお手伝いするため、コベルコ地域社会貢献基金による支援の実施や小学校への出張授業などを行っています。

コベルコ地域社会貢献基金

未来を担う“子供たち”を対象に、9市1町にて支援を実施

神戸製鋼は、2006年度に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立し、運営を継続しています。2010年度は、未来を担う“子供たち”を対象に、事業所・研究所

が立地する神戸市、加古川市、高砂市、播磨町、藤沢市、茨木市、東広島市、真岡市、いなべ市、下関市の9市1町において支援を行いました。



▲「花でつなぐプロジェクト」を支援(播磨町)



▲子育てサークルへの支援(加古川市)



▲寄贈された鉄棒で遊ぶ子供たち(下関市)



▲施設に中古ピアノを寄贈(神戸市)

2010年度コベルコ地域社会貢献基金支援実績

事業所名	支援先	支援内容	事業所名	支援先	支援内容
兵庫県神戸市	児童養護施設(2件)	中古ピアノ、遊具など購入費への支援	兵庫県加古郡播磨町	障害児の社会交流を支援する団体(1件)	花苗、土、肥料、プランターなどの購入費への支援
	障害児施設(1件)	液晶テレビ購入費への支援	神奈川県藤沢市	子ども会連絡協議会(1件)	子ども会備品購入費への支援
	青少年育成協議会(1件)	青少年フェスティバル開催費への支援	大阪府茨木市	青少年野外活動センター(1件)	ビデオプロジェクター購入費への支援
	合唱部保護者会(1件)	小学生の合唱部による地域でのコンサートへの支援	広島県東広島市	保育所(5件)	幼児用身長計など購入費への支援
	スポーツを通じて地域活性化を支援する団体(1件)	小学生のフットボール大会への支援	栃木県真岡市	小学校(18件)	英語教育教材購入費への支援
兵庫県加古川市	子育てサークル(5件)	備品の購入ほか活動費への支援	三重県いなべ市	子育て支援センター(6件)	テント、遊具など購入費への支援
	子供が参加する環境保全ボランティア団体(1件)	清掃用具の購入ほか活動費への支援	山口県下関市	子育て支援センター(1件)	遊具購入費への支援
兵庫県高砂市	学童保育所の管理運営団体(1件)	児童館(3件)		遊具購入費への支援	

出張授業・ものづくり教室

神戸製鉄所(兵庫県)

「鉄と環境について」をテーマに授業を実施

神戸市立池田小学校は、5年生社会科で「製鉄所と日本の製鉄業」について神戸製鉄所を例に学んでいました。その授業の一環として、従業員から話を聞くことで学習を深めたいとの依頼を受け、「鉄と環境について」をテーマに授業を行いました。



▲池田小学校で行われた出張授業

関西熱化学(株)(兵庫県)

ステンドグラスをつくろう～「ものづくり教室」を開催

子供たちにもものづくりの素晴らしさを体感してほしいという思いから、事業所のある尼崎市と加古川市の小学校(尼崎市立明城小学校、加古川市立別府西小学校)に従業員が出向き、ものづくり教室を開催しています。昨年度は、ステンドグラスのランプをつくりました。



▲世界に一つのステンドグラスをつくる子供たち

地域振興・地域交流

多くの支社・支店、事業所、グループ会社が、自社の施設を開放したイベントの開催や、地域の行事への参加、清掃活動などを行っています。

フェスティバルの開催

長府製造所(山口県)

約4,000名が参加した「長府フェスタ2010」を開催

「長府フェスタ2010」は、地域との交流を深める目的で2000年より実施。地域の秋の行事として定着しています。2010年度は、従業員や地域の皆様約4,000名が参加し、各種のショーや大抽選会を楽しみました。



▲玉入れを楽しむ参加者たち



▲豪華賞品が当たる大抽選会

コベルコ建機(株)(千葉県)

“KOBELCO Green Festa 2010”で職場体験イベント

子供たちに、会社と仕事について知ってほしいという思いから、販売会社の東日本コベルコ建機(株)と共同で職場体験イベントを企画。その場で印刷された「職場体験終了証」を手にした子供たちは、満足そうな笑顔をしていました。



▲多くの子供たちが参加した職場体験イベント



▲建設用のショベルに触ってみる

地域交流

高砂製作所(兵庫県)

高砂浜風駅伝競走大会に参加

2011年2月12日、第1回高砂浜風駅伝競走大会が開催されました。これは、地域の活性化と地域スポーツ振興のため高砂市・商工会議所・地元企業が中心となって企画した、高砂工



▲224チームが一斉にスタート

業公園の周回コースによる駅伝大会です。

高砂市内に在住または勤務しているの方々によるこの大会は、予想以上の参加があり(224チーム、約1,500名)、大変盛り上がりました。神戸製鋼グループからも34チーム、286名が参加しました。

社会性報告

社会との共生

神鋼ケアライフ(株)(兵庫県)

ホームの納涼会・文化祭を実施

ドマーニ神戸など地域に密着した3つのホームで、毎年、入居者やそのご家族、周辺地域の皆様が参加する納涼会や文化祭などを実施しています。納涼会では盆踊りや露店などを開放し、文化祭では、地域の子供たちに歌やダンスを披露してもらったり、入居者がお茶会を開いたり、良い交流の機会となっています。



▲地域の恒例行事となったケアライフの納涼会



▲子供たちの歌声が響くクリスマス会

認知症高齢者を見守るバラ公園ネットワーク

神戸市東灘区の在宅介護ステーション(「岡本あんしんすこやかセンター」)は、岡本バラ公園周辺の交番、医院、店舗などと協力して、地域の認知症高齢者を見守るネットワークをつくっています。体験を基にした情報交換や勉強会を重ね、認知症高齢者の方々が安心して生活できる地域づくりに取り組んでいます。



▲バラ公園ネットワークの皆さん

近隣清掃活動

真岡製造所(栃木県)

真岡環境パートナーシップ会議に参画

真岡環境パートナーシップ会議は、真岡市環境基本計画の一環として、市民・企業・行政が一体となり市の環境保全を推進しています。真岡製造所ではこの活動に参画し、大久保川周辺の清掃・除草などの環境保全



▲清掃活動を終えて記念写真を撮る

に、管理職も含め約90名の幅広い社員が参加しています。

神戸製鉄所(兵庫県)

都賀川を守る会で年5回の清掃活動

神戸市灘区内を流れる都賀川の遊歩道および川の美化活動に賛同し、年5回の清掃に参加しています。



▲河原を歩きながらの清掃活動

継続した参加に加え、お年寄りの入れない場所も清掃するなど、地元の方々からも好評をいただいています。

神戸総合技術研究所(兵庫県)

事業所周辺の美化活動を毎月実施

会社の周辺道路にゴミが散在していることから、地域貢献活動の一環として美化活動を実施しています。毎月1回、総務室やグループ会社であるジャパンスー



▲毎月行われる清掃活動

パーコンダクタテクノロジー(株)の有志メンバーが集まって、会社周辺の道路や近隣の公園内の清掃を行っています。

KOBE ウェルディングワイヤ(株)* (京都府)

月1回会社周辺のゴミ拾い、除草を実施

地域のために、長く続けていくことはないと、毎月1回、会社周辺のゴミ拾い、除草などの清掃活動



▲地域の方々にも喜ばれる公道の清掃活動

をはじめました。参加者は、公道に平気でゴミを捨てる人が多いことに驚き、自らが街をきれいにならなければならないという気持ちを強めています。

*2011年4月1日付で神戸製鋼に吸収合併

スポーツ振興

「全国高校ラグビー大会」への特別協賛をはじめ、スポーツなどを通じた社会への貢献活動に積極的に参画しています。

ラグビーを通じた社会貢献

全国高校ラグビー大会に特別協賛

「第90回全国高校ラグビー大会」が、2010年12月27日から2011年1月8日、花園ラグビー場で開催されました。神戸製鋼グループは、夏の全国高校合同チームラグビー大会「KOBELCOカップ」と合わせて、6年にわたってこの大会に特別協賛しています。

2011年1月8日には、決勝戦に先立ち「第3回U18合同チーム東西対抗戦」も開催され、2010年夏のKOBELCOカップから選抜された選手たちが出場しました。高校生ラグビーたちにとって、憧れの花園でプレーする、夢をかなえた一日となりました。



▲90回目の記念大会として、例年より4校多い55校の代表が頂点を目指しました

スポーツNPO法人SCIXを支援

「スポーツによる地域社会貢献」を目的に2000年に設立されたNPO法人SCIX(理事長:平尾誠二氏)が、2010年9月20日、設立10周年記念イベントとして「スポーツシンポジウム2010」を開催しました。当日は、講演会やパネルディスカッションが行われ、500名を超える観客が集まりました。

また、2016年リオデジャネイロ夏季五輪での男女7人制ラグビーの正式採用を受け、女子プレーヤーの環境整備と、女子ラグビーの普及・育成のためSCIXラグビークラブに「女子ラグビー部」を設立することを決定しました。

神戸製鋼は、これらの活動を支援しています。



▲サッカー日本代表前監督・岡田武史氏らと交えたパネルディスカッション



▲オリンピックを目指す女子ラグビー

NPO法人「日本せきすい基金」に募金を寄贈

ラグビー部は、2009年9月のトップリーグ開幕戦から2010年2月開催の日本選手権までの試合会場で、「日本せきすい基金」への募金活動を行ってきました。これに「コベルコラグビーフェスティバル2010」における収益金の一部を加えた募金(388,612円)を、2010年8月30日、NPO法人「日本せきすい基金」に寄贈しました。ラグビー部は、9年前から同基金への寄贈を行っており、今後も募金活動を続けていきます。



▲平島主将が出席して行われた贈呈式

社会性報告

社会との共生 / グローバルな社会貢献活動

地元・神戸の自然保護

六甲山の森や生態系の保護をはじめ、地元・神戸の自然保護活動に社員がボランティアで参加しています。

コベルシステム(株) (兵庫県)

「森の世話人」活動と「六甲山クリーンハイク」

国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所の推進する「森の世話人」活動に賛同し、森林整備の活動を行っています。金鳥山南側の森林を指定していただき、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のご指導のもと、この森を「Kocoro ちゃんの森」と名づけて社員ボランティアにより整備しています。

また、2006年から実施してきた「六甲山クリーンハイク」を、「森の世話人」活動と合わせて年に3~4回実施しています。



▲六甲山の自然を守るクリーンハイク

社員が育てたヤマアジサイを山に戻す「植樹会」

コベルシステム(株)では、2007年に設立20周年を記念して「有馬温泉癒しの森」にて植樹を実施し、その後も毎年、同所で植樹会を実施しています。2010年は第4回目の植樹会を11月に実施し、20名の社員が自宅などで挿し木により育てたヤマアジサイを「有馬温泉癒しの森」に植樹しました。



▲社員の家族も参加する植樹会

災害復興支援

東日本大震災や海外で起きた災害復興に対し、さまざまな支援を行っています。

東日本大震災への復興支援活動

神戸製鋼グループは、東日本大震災の被災者の皆様の救援と被災地の復興にお役に立てるために、義援金2億円と建設機械などの救援物資1億円相当を提供いたしました。

当社グループは、1995年の阪神淡路大震災で被害を受けた企業として、当時全国からあたたかいご支援をいただきました。今回の東日本大震災において、一日も早く被災地が復旧復興し、被災された皆様が元の生活に戻れることを願っています。

被災地を支援する「Kobelco Steelers チャリティー交流会」を開催

2011年3月19日、東日本大震災の発生を受け、恒例の「ファン感謝イベント」の内容を一部変更し、「Kobelco Steelers チャリティー交流会」が開催されました。当日は、選手たちによる被災地支援の募金活動を実施しました。



▲選手たちが持ち寄った防寒着も被災地にお送りしました

なお、この日集まった義援金239,233円と参加費の一部で

海外の災害復興への支援活動

神戸製鋼グループは、2010年1月に発生したハイチ大地震の被災者の皆様を支援するため、義援金300万円を贈呈しました。義援金は、「ハイチ地震兵庫義援金募集委員会」を通じて、被災地の復興に役立てられます。

また、2010年2月に発生したチリ大地震の際、被災した高炉復旧のため技術者を派遣し、阪神淡路大震災での経験に基づく技術支援を実施しました。

※詳しくは、P49の「社会貢献活動 CLOSE UP」をご覧ください。

防寒着を購入し、選手たちが寄付したものと合わせた約100着分を、JOCを通じて被災地にお送りしました。



▲平尾誠二 GM 兼 総監督の挨拶の後、被災地に向けて全員で黙祷



▲知り合いの方が被災した選手も。募金活動に力が入ります

現地の企業として、地元の発展のために何ができるかを考え、実行します。

グローバルな社会貢献活動

神戸製鋼グループは、世界各地の事業所においても、その一つひとつが現地の文化や慣習を尊重し、その国の企業として現地に密着した貢献活動を行っています。

PRO-TEC Coating Company

地域の教育支援プログラムに社員が参画

アメリカの現地法人 PRO-TEC Coating Company は、地元の小学校低学年の生徒の学習を支援するプログラムに10年以上にわたり協力しています。

このプログラムには11名の社員が参加。地元のリープシック小学校などで毎年8月から翌年の5月まで、週に1時間、個別に読書を行い、生徒たちの読解力向上の

お手伝いをしています。

また、現地パトナム郡の教育センターの活動支援として、工場見学へ案内して学校生活における授業の大切さ、リーダーシップや仲間の大切さについてのプレゼンテーションを行っています。

Midrex Technologies, Inc.

警察官が母体となった地元フットボールチームをスポンサード

アメリカの現地法人 Midrex 社は、ノースカロライナ州シャーロット市のフットボールチーム「コブラズ」のスポンサーになり、チームの運営企画やチケット販売などで協力しています。

「コブラズ」は、地元の警察官が母体となったフットボールチームです。Midrex 社は、「コブラズ」の支援を通じて、地元の安全と活性化に貢献しています。



▲Midrex 社の社長（一番左）と、「コブラズ」の選手たち

Kobe Precision Technology Sdn. Bhd.

福祉施設への訪問・寄贈活動

マレーシアの現地法人 Kobe Precision Technology Sdn. Bhd. は、事故などで親をなくした子供たちの施設に、冷蔵庫やスポーツウェアなどの物資や、支援金の寄付を行っています。また旧正月にあたる2月には、昨年に引き続き社員15名が現地の老人ホームを訪れ、220名のお年寄りにお菓子の詰め合わせや支援金を寄贈しました。



▲一人ひとりにプレゼントを手渡します



▲子供たちの施設への訪問・寄贈活動

社会性報告

防災への取り組み

自然災害への備えと、事故の未然防止を目指す。 全社的な組織・体制で、 防災力をさらに強化していきます。

防災への取り組み

神戸製鋼グループは、グループを挙げて設備対策や自然災害への備えに努めてきました。グループ防災会議の開催や災害時における防災体制の整備、防災訓練など継続的に実施し、事故の未然の防止や災害時の被害の最小化に積極的に取り組んでいます。今後とも社員一人ひとりの防災意識を高め、グループ全体で防災活動を進めていきます。

■ 2010年度 全社防災管理方針

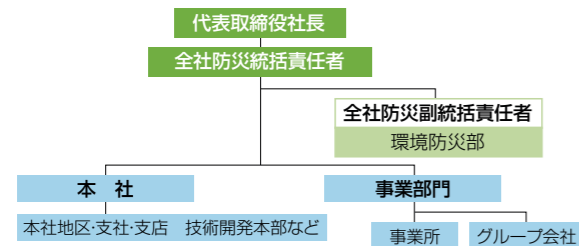
基本方針：『法令の遵守 設備事故撲滅 自然災害への備え強化』

防災関係法令の遵守は、事業活動の大前提であると認識すると共に、設備事故の撲滅を目指し、自然災害への備え強化を図ることで、人命の尊重、企業活動の継続、地域の安心を実現する。

全社防災管理体制

神戸製鋼グループは、社長以下、全社防災統括責任者のもと、防災管理活動を推進しています。

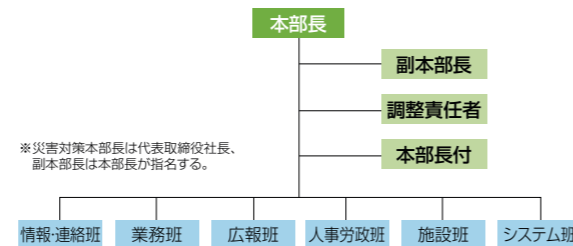
全社防災管理体制



災害時の対応体制

大規模な地震などの緊急時には、災害総合対策本部を設置し、救援や復旧などにあたります。

災害時の総合対策本部組織図



神戸製鋼グループ防災会議

神戸製鋼グループは、毎年、防災情報の共有化、災害防止の取り組み強化を目的に、「神戸製鋼グループ防災会議」を開催しています。2010年度は、グループ会社58社を含め、119名が参加し、最新の法改正内容の確認や事業所の取り組み事例報告の他、(株)



▲神戸製鋼グループ防災会議 (2010年11月)

インターリスク総研・高橋様による特別講演会が行われ、地道な防災活動の重要性を再確認しました。

現地防災確認調査

防災関係法令遵守の確認や、設備事故につながるリスクの低減を目的に、事業所の現地防災確認調査を実施しています。2010年度の調査では重大な法違反は



▲現地防災確認調査 (大安工場)

ありませんでした。今後は、本活動をグループ会社へも展開し、グループ全体の防災管理体制の強化を図っていきます。

■ 事業所の防災対策

事故の未然防止に努めてきましたが、2010年度も火災の発生などをなくすことはできませんでした。

それぞれについて原因究明を行い、対策を講じています。

今後とも再発防止に取り組み、事故事例の情報共有を図り、類似事故の防止活動の水平展開などグループ全体での事故撲滅に努めていきます。

2010年度の主な事故

日時・場所	内容
2010年10月 高砂製作所	鍛造中の大型プレス機から油が漏れ、高温の鍛造材に着火した。
2010年12月 神戸製鉄所	銑鉄の成分調整を行う溶銑予備処理炉の脱硫剤が貯蔵槽から噴出し、水分との反応による発熱でケーブルなどを焼損させた。
2011年3月 加古川製鉄所	電気炉から溶けた金属を排出中に樋からあふれ、周辺機器を焼損させた。

2010年度の各事業所の事故発生件数

事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数
神戸製鉄所	1	茨木工場	0	長府製造所	0	神戸総合技術研究所	0
加古川製鉄所	6	西条工場	0	大安工場	0	高砂製作所	3
藤沢事業所	0	真岡製造所	0	播磨工場	0		

■ 事業所における防災活動

神戸製鋼グループは、各事業所において、定期的な防災訓練を実施しています。例えば、高砂製作所では、2011年1月17日に防災訓練を実施しており、その中で体験型の教育訓練として、テント内に人体に無害な煙を発生させ、煙の恐ろしさを体験するコーナーを設置し、110名が参加しました。参加者からは、火災などの未然防止の重要性を再認識したとの声が聞かれました。



▲煙体験コーナー (高砂製作所)

■ コベルコ1.17ウォーク開催

2011年1月15日、地震などの発生による交通機関の不通を想定し、通勤時の安全確認を目的とした第5回「コベルコ1.17ウォーク」を神戸本社地区で開催し、約170名が参加しました。

これは阪神淡路大震災の教訓を忘れず「徒歩での出退勤」に備えて行っているものです。東日本大震災の経験においても、非常に大切な取り組みであると考えており、今後も継続して実施していきます。



▲コベルコ1.17ウォーク ゴール地点 (2011年1月)

東日本大震災を踏まえ、防災力強化に向けて全社的な活動を推進していきます。

全社防災統括責任者(執行役員) 藤井 晃二

東日本大震災に被災された皆様に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。神戸製鋼グループは、自然災害への備えとしてソフト面、ハード面の地震対策を実施してきました。

その結果、今回の地震では、幸いにも従業員に被害はなく、安否・被害状況の確認、被災事業所の操業再開など、比較的スムーズな対応ができたと考えております。今回の経験をさらに活かして、災害への一層の備えを進めていきます。



社会性報告

防災への取り組み

東日本大震災での対応について

神戸製鋼では、これまで地震をはじめとする自然災害への備えとして、各種対策を講じてきました。

その結果、今回の地震では、真岡製造所が被災（震度6を記録）しましたが、3月25日には操業を再開するなど早期の復旧を果たすことができました。

今回の経験を踏まえて、自然災害への備えをより一層強化していきます。

地震への備えと東日本大震災での対応の評価などについて

実施項目	地震への備え	震災時の対応	評価	今後の取り組み
建物の耐震対策	耐震対策指針を「震度6の地震でも機能を損なうようなダメージを受けない」と定め、工場建屋・事務所・社宅などの重要施設の耐震診断、耐震補強を実施。	震度6を記録した真岡製造所においては、事務所や社宅など、内装の剥がれや軽微なヒビなどは見られたが、倒壊した建物はなく、従業員などに被害はなかった。	◎	中央防災会議など国や地方自治体の防災計画の見直しに従い、必要な対策を講じていく。
コンピュータの地震対策	コンピュータ建屋の耐震対策やコンピュータ本体の保護対策、システムのバックアップ（二重化）などを推進。	真岡製造所では、免震床を導入していたため、コンピュータ本体やデータに被害はなかった。	○	コンピュータの地震対策やシステムのバックアップを神戸製鋼グループで推進する。
緊急時の通信手段	社内事業所・本社・支社に、衛星電話や防災無線、災害時優先電話の導入を推進。	真岡製造所と東京本社間の通信手段として、衛星電話が非常に有効に働いた。	○	通信機器の技術開発に応じ、最新の通信手段を検討、導入を推進する。
緊急地震速報の導入	人的被害軽減などを目的に、社内事業所・本社・支社・支店に緊急地震速報を導入。	予測精度に課題は残るものの、各従業員は緊急地震速報発報時には、揺れへの備えができた。	△	緊急地震速報の効果的な運用を検討する。
対策本部	大規模地震などの自然災害や不測の事態など、緊急時には、東京本社（東京本社が被災し、使用不能の場合、神戸本社）に全社災害総合対策本部を設置し、救援や復旧などに当たることをマニュアル化。	東京本社に、安否状況の確認や被災事業所を支援する本部を設置し、支援物資の手配・輸送など、早期の操業再開をサポートした。	○	よりスムーズに対応できるようにマニュアルの見直しや教育・訓練を継続して行う。

神戸製鋼グループによる東日本大震災への復興支援活動は、社会との共生（P63）に記載しています。

神戸製鋼グループの環境データ

PRTR法に係る主な化学物質の移動、排出状況については当社ホームページをご覧ください。
<http://www.kobelco.co.jp/environment/kaiji/report/2011/index.html>

神戸製鋼グループの環境データ

神戸製鋼の全事業所および主なグループ会社の事業所における大気・水質に関するデータをご報告します。排ガスについては、代表的な施設からのNOx、ばいじんおよびダイオキシン類をいずれも規制値と共に記載しました。排水についてはCOD（一部BOD）、SS、油分およびダイオキシン類をいずれも規制値と共に記載しました。

社内事業所		グループ会社	
大気データ			
規制値：大気汚染防止法、府県条例、協定値、ダイオキシン類対策特別措置法			
単位：NOxはppm、ばいじんはmg/Nm ³ 、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm ³			
水質データ			
規制値：水質汚濁防止法、府県条例、協定値、ダイオキシン類対策特別措置法			
単位：mg/l、ダイオキシン類は、pg-TEQ/l			
ND：分析定量限界値以下（検出されない）			

鉄鋼事業部門

加古川製鉄所

■所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町1
 TEL:079-436-1111 / FAX:079-436-1400
 ■主要製品：厚板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板、線材



所長
尾上 善則

所員全員の環境意識向上や積極的な環境設備投資の実施などにより、継続的に環境負荷低減を図り、着実に成果が得られてきております。引き続き環境保全に全力で取り組んでいくと共に今後、省エネルギー活動についてもさらに強化してまいります。

大気				水質 ¹⁾ 鉱油類				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	190	74	COD	10	3.9		
	ボイラ	250	124		SS	25	14	
	加熱炉	100	62			油分	1 ¹⁾	<1
ばいじん	ボイラ	70	6	ダイオキシン類	10	0.00062		
	加熱炉	100	18					
ダイオキシン類	産業廃棄物焼却炉	5	0.23	水質データに含まれる会社：関西熱化学株式会社 加古川工場				
	焼結	1	0.000031					

※加古川製鉄所の環境データについては、最新のデータをホームページで確認できます（毎月更新）。
<http://www.kobelco.co.jp/environment/information/index.html>

鉄鋼事業部門

神戸製鉄所

■所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜町2
 TEL:078-882-8030 / FAX:078-882-8290
 ■主要製品：線材、棒鋼



所長
河瀬 昌博

神戸に生まれ育った都市型製鉄所として、環境の保全に努めると共に、地域の皆様とのコミュニケーションを図っています。また、「現場力」と「技術力」を向上させて、世界No.1の特殊鋼製鉄所を目指しています。

大気				水質 ¹⁾ 鉱油類				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	250	141	COD	15	4.1		
	ボイラ	130	47		SS	30	12	
	加熱炉	100	51			油分	1 ¹⁾	<1
ばいじん	ボイラ	200	57	ダイオキシン類	10	0.00066		
	加熱炉	50	1					
ダイオキシン類	加熱炉	150	6					
	焼却炉	10	0.71					

※神戸製鉄所の環境データについては、最新のデータをホームページで確認できます（毎月更新）。
<http://www.kobelco.co.jp/environment/information/index.html>

高砂製作所

■所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2-3-1
 TEL:079-445-7111 / FAX:079-445-7231
 ■主要製品：鋳造鋼製品、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー原子力機器



副所長
犬野 雄作

省エネルギーの推進や産業廃棄物の削減など、ISO14001を通じた環境負荷の継続的改善を図っています。一方、関連規程の見直し、教育訓練などにより、法的要求事項の遵守を徹底していきます。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	130	63	COD	15	5.4		
	鉄粉還元炉	150	46		SS	26	15	
	加熱炉	170	140			油分	1.5	<0.5
ばいじん	ボイラ	50	1.1	ダイオキシン類	—	—		
	鉄粉還元炉	100	2.6					
ダイオキシン類	加熱炉	250	2.1	水質データに含まれる会社：株式会社コベルコ材料 ターゲット事業本部				
	製鋼用電気炉(鉄粉)	5	0.000018					

鉄鋼事業部門

神鋼建材工業株式会社 本社(工場)

■所在地 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地
 TEL:06-6418-2621 / FAX:06-6418-6701
 ■主要製品：ガードフェンス、高欄、グレーチング、アンチスリップ鋼板、アルミ道路資材



製造本部長
松田 博

2010年度はモーダルシフトを本格的にスタートさせ、軌道に乗せることができたため、輸送における社会的環境負荷低減に寄与できました。また、環境配慮型製品としてエコキューオンの生産ラインが確立したため、今後拡販することで社会貢献に努めてまいります。

大気				水質 ¹⁾ 鉱油類				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	150	36	COD	30	21		
	ボイラ	150	35		SS	300	8.7	
	乾燥炉	230	34			油分	5	2.6
ばいじん	ボイラ	100	1	ダイオキシン類	—	—		
	乾燥炉	100	1					
ダイオキシン類	乾燥炉	50	1					
	該当なし	—	—					

神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

■所在地 〒660-0091 兵庫県尼崎市市中浜町10番地1
 TEL:06-6411-1071 / FAX:06-6411-9644
 ■主要製品：PC鋼材、PC鋼材加工品、めっき鋼線、ばね用鋼線



事業所長
橋本 力男

2007年に「エコアクション21」を認証登録後、全員参加で活動を展開しています（CO₂削減、廃棄物削減、総排水量削減）。また、各個人レベルでのエコ意識強化の一環として、インターネット入力の導入を契機に、神戸製鋼グループのエコライフノートに積極参加し、グループ内参加者数1位を目指し啓発を図っています。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	150	37	COD	20	3.7		
	加熱炉	130	14		SS	30	10.0	
	ボイラ	50	0			油分	5	0
ばいじん	加熱炉	100	16	ダイオキシン類	—	—		
	該当なし	—	—					

鉄鋼事業部門

神鋼鋼線工業株式会社 尾上事業所

■所在地 〒675-0027 兵庫県加古川市尾上町今福128番地
TEL:079-424-2681 / FAX:079-424-2686
■主要製品 一般ワイヤーロープ、特殊ワイヤーロープ、ロープ加工品、その他線材二次製品



事業所長
前田 真一

「エコアクション21」の認証を取得以降、省エネルギー・省資源を柱として環境改善活動に取り組んでいます。2010年度は歩留り向上活動の継続に加え、さらなる品質向上活動に取り組んでまいりました。今後も継続的な改善を進め、さらなる環境負荷低減に努めてまいります。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

神鋼特殊鋼管株式会社 長府北工場

■所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町13-1
TEL:0832-46-3781 / FAX:0832-45-1092
■主要製品 継目無ステンレス鋼管、精密細管、特殊管、チタン管



常務取締役
和田 啓一

当社は持続可能な発展を目的として、開発・生産・廃棄の各段階での環境負荷低減活動に取り組む、2010年度は燃料転換などによりCO₂削減・省エネルギーで大きな成果を得ました。今後も継続的な改善活動に取り組む所存です。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

鉄鋼事業部門

日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

■所在地 〒934-8502 富山県射水市八幡町3丁目10番15号
TEL:0766-84-3181 / FAX:0766-84-3468
■主要製品 特殊鋼線鋼材 (ダイス鋼・プラスチック金型用鋼・その他精密鍛造材)、特殊鋼圧延鋼材



製造所長
永尾 卓己

豊かな自然に恵まれた富山湾に面する製造所として、工場排水に係る環境リスクに最大注力しています。2011年度は昨年度に続く「環境レポート」の発行に加えて自治会の見学会など、地域の皆様とのコミュニケーションに努めてまいります。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

関西熱化学株式会社 加古川工場

■所在地 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町7番地
TEL:079-436-1500 / FAX:079-435-1626
■主要製品 コークス、コークス炉ガス、化成品



工場長
石川 邦夫

当加古川工場では、大気汚染・水質汚濁などの防止はもとより、使用済レンガの再利用などによる廃棄物削減や省エネルギー活動に全従業員が一丸となって取り組み、環境負荷低減に努力しています。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

鉄鋼事業部門

神鋼バルト株式会社 本社(工場)

■所在地 〒272-0002 千葉県市川市二保新町17番地
TEL:047-328-6551 / FAX:047-328-6558
■主要製品 高力バルト(トルコン、ハイテン)



生産部部長
吉野 信一郎

神鋼バルトは東日本大震災で少なからず被害を受け、復旧に全力を挙げて取り組んでいる最中です。液状化によって噴出した泥から粉じんが舞い飛び、上水もまだストップしたままという状態ではありますが、2011年度も環境改善活動を積極的に進めていきたいと想います。電力不足から弊社が得意とする風力発電用バルトの出荷量が増加することを期待しております。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

株式会社セラテクノ 明石工場

■所在地 〒673-0037 兵庫県明石市貴崎5丁目11番70号
TEL:078-923-8678 / FAX:078-923-8397
■主要製品 耐火レンガ、各種不定型耐火物



工場長
角村 尚紀

省電力や節水など各職場で目標を定めて省エネルギー活動を実施しています。また、リサイクルの推進による廃棄物の削減や有害物質の低減にも取り組んでいます。地域社会の生活環境保全を最重要課題の一つと位置付け、継続的改善に努めています。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

鉄鋼事業部門

神鋼神戸発電株式会社 神鋼神戸発電所

■所在地 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区瀨戸東町2番地
TEL:078-882-8036 / FAX:078-882-8037
■主要製品 電力供給事業



本部長
橋本 公男

エネルギーの安定供給を通じて、皆様から信頼される発電所を目指しています。美しい神戸の街に立地する都市型石炭火力発電所として、環境保全と資源の有効利用は最重要課題であり、従業員一丸となって取り組んでいます。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

溶接事業部門

藤沢事業所

■所在地 〒251-8551 神奈川県藤沢市宮前100-1
TEL:0466-20-3111 / FAX:0466-20-3115
■主要製品 フラックス入り溶接ワイヤ、溶接ロボットシステム



所長
松下 行伸

2010年10月にグループ会社(神鋼タセト(株))を藤沢事業所に統合しました。所内は神戸製鋼2事業部門とグループ会社6社が集う複合事業所です。事業所全体の環境管理は事業所製造室が取りまとめ、最終的に処理品目の発生量削減、省エネルギー、化学物質適正管理などを実施しています。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

鉄鋼事業部門

株式会社セラテクノ 備前工場

■所在地 〒705-0033 岡山県備前市穂浪2835番地の7
TEL:0869-67-0011 / FAX:0869-67-1346
■主要製品 耐火レンガ、各種不定形耐火物



工場長
中野 豊

2008年4月に「エコアクション21」を認証取得し、省エネルギー活動並びに産業廃棄物・有害物質の低減活動に工場一丸となって取り組んでいます。環境マネジメントシステムの継続的改善により、地域社会と共存できる工場であり続けたいと想います。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所

■所在地 〒597-8501 大阪府貝塚市二色中町11番1
TEL:072-432-9251 / FAX:072-432-2339
■主要製品 鋼索、鋼線、鋼絞線



製造所長
村上 弘樹

当製造所には海水浴場が隣接しており、工場排水には最大の注意を払って管理しています。「エコアクション21」の活動も本格化し、スクリュコンプレッサなどの省エネルギー設備の導入も進んでいます。今後も環境活動を活性化させ、地域に貢献できる製造所を目指します。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

溶接事業部門

茨木工場

■所在地 〒567-0879 大阪府茨木市東野野町2-19
TEL:072-621-2111 / FAX:072-621-2015
■主要製品 被覆アーク溶接棒、フラックス入りワイヤ、配合溶剤



工場長
榎田 幸雄

廃棄物の発生量削減・分別化、粉じん対策などに取り組んでいます。2010年度は廃棄物の再資源化の拡大によるリサイクル率向上を図り、作業環境改善に関し、局所排気装置の一部導入を進めました。工場周辺の美化活動も継続的に実施しています。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

西条工場

■所在地 〒739-0024 広島県東広島市西条町御園字6400-1
TEL:082-423-3311 / FAX:082-420-0038
■主要製品 被覆アーク溶接棒、高機能材



工場長
西山 繁樹

2005年に取得した「エコアクション21」のもと、日々、環境活動に取り組んでいます。2011年度は環境方針に「化学物質の適正管理」および「環境に配慮したものづくり」の推進を新たに加え、環境活動を推進していきます。

Table with 2 main sections: 大気 (Air) and 水質 (Water Quality). Each section contains a table with columns for item, equipment, regulatory limit, and actual maximum value.

溶接事業部門

福知山工場

■所在地 〒620-0853 京都府福知山市長田野町3-36
 TEL:0773-27-2131 / FAX:0773-27-6358
 ■主要製品:ソリッドワイヤ



工場長 山本 明

生産過程から排出される屑線削減や製品包装資材の再利用化など、廃棄物発生量の削減に努めると共に、想定される環境リスクに対して種々の対策を施し、環境負荷低減にも力を注いでいます。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	加熱炉	160	101	COD	300	1.7		
	加熱炉	160	69		SS	300	1.0	
	ボイラ	135	24			油分	3	0.6
ばいじん	加熱炉	20	<1	ダイオキシン類			—	—
	加熱炉	20	<9		ダイオキシン類		—	—
	ボイラ	10	<1					
ダイオキシン類				該当なし				

*2011年4月1日より、KOBELCOウェルディングワイヤ株式会社は神戸製鋼 福知山工場に組織改正しました。

神鋼アクテック株式会社 日高工場

■所在地 〒669-5302 兵庫県豊岡市日高町岩中682
 TEL:0796-42-1212 / FAX:0796-42-1218
 ■主要製品:高機能脱臭フィルター・厨房排気用脱臭フィルター



工場長 戸田 文和

「エコアクション21」を取得して2年が経過しましたが、全員参加で取り組んできたことにより、社員の環境に対する意識も変わりつつあります。今後は従来の活動に加えて化学物質削減、グリーン調達にも取り組んでまいります。

大気				水質 ^{1) 鉱油類}			
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)	
NOx	該当なし	—	—	COD	—	—	
ばいじん	該当なし	—	—	SS	—	—	
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	5 ¹⁾	<0.5	
ダイオキシン類				該当なし			

溶接事業部門

阪神溶接機材株式会社 岡山工場

■所在地 〒709-2105 岡山県岡山市御津伊田1028-12
 TEL:0867-24-4181 / FAX:0867-24-4340
 ■主要製品:自動溶接用溶剤



社長 岡村 重喜

弊社は、「エコアクション21」の取得事業者で、環境トラブルの防止に向けた環境設備の点検整備・劣化更新に積極的に取り組んでいます。また、省エネルギー活動および「ゴミゼロ」などの省資源活動を全員参加で推進しています。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	溶融炉	28	9	COD	30	12		
	乾燥炉	30	23		SS	30	16	
	焼成炉	35	16			油分	—	—
ばいじん	溶融炉	12	0	ダイオキシン類			—	—
	乾燥炉	15	9					
	焼成炉	15	10					
ダイオキシン類				該当なし				

アルミ・銅事業部門

真岡製造所

■所在地 〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15(第2工業団地)
 TEL:0285-82-4111 / FAX:0285-84-0231
 ■主要製品:アルミ板・棒



所長 佐藤 孝彦

東日本大震災により、2011年度は例年とは異なるスタートとなりました。今後変化するエネルギー政策の中においても、環境との共生・調和を基本理念とした生産活動を行い、信頼される製品・技術・サービスの提供に努めてまいります。

大気				水質 ^{1) 鉱油類}				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	180	57	BOD	20	13.7		
	溶解炉	180	95		SS	40	12.8	
	廃棄物焼却炉	300	40			油分	5 ¹⁾	1.2
ばいじん	ボイラ	300	6	ダイオキシン類			—	—
	溶解炉	300	<5					
	廃棄物焼却炉	250	28					
ダイオキシン類	ボイラ	10	0	ダイオキシン類				
溶解炉	5	0.0073	—					

アルミ・銅事業部門

長府製造所

■所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町14-1
 TEL:083-246-1211 / FAX:083-246-1271
 ■主要製品:アルミ押出材、アルミ加工品、伸銅板・条



所長 藤井 拓己

長府製造所は、全所を挙げて省エネルギーや省資源・廃棄物削減活動に継続的かつ積極的に取り組んでいます。そして、今後も、従業員一丸となって地域や社外の方々との協働・共生を目指します。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	150	16	COD	30	5.7		
	溶解炉	180	55		SS	50	4	
	溶解炉	180	49			油分	2.5	<1
ばいじん	ボイラ	100	<5	ダイオキシン類			10	0.0012
	溶解炉	300	29					
	溶解炉	300	28					
ダイオキシン類 (アルミニウム合金施設)				5 0.59				

大気データに含まれる会社: 神鋼ファブテック株式会社

水質データに含まれる会社: 神鋼ファブテック株式会社

大安工場

■所在地 〒511-0284 三重県いなべ市大安町梅戸1100
 TEL:0594-77-0330 / FAX:0594-77-2249
 ■主要製品:アルミ・マグネシウム鋳造品、アルミ・マグネシウム鍛造品



工場長 桂 俊弘

2010年度は、廃棄物の分別強化による有効利用、有価化、リサイクル率の維持向上に努めました。また、アルミサスペンション部品を世界の自動車メーカーに供給し、自動車軽量化によるCO2低減に貢献しています。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	ボイラ	110	83	COD	10	2		
	溶解炉	120	58		SS	10	ND	
	ガス機関	600	435			油分	1	ND
ばいじん	ボイラ	100	ND	ダイオキシン類			10	0.0023
	溶解炉	100	26					
	ガス機関	50	ND					
ダイオキシン類 (アルミニウム合金施設)				5 0.00017				

アルミ・銅事業部門

サン・アルミニウム工業株式会社 本社(工場)

■所在地 〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町260番地
 TEL:043-422-1231 / FAX:043-422-5452
 ■主要製品:アルミニウム箔、加工アルミニウム箔、日用品アルミニウム箔



常務取締役工場長 田中 昇

サン・アルミは企業理念の一つである「地球環境に配慮し、地域社会に積極的に貢献します。」を目指し、ISO14001をツールとして活動を行っています。

大気				水質			
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)	
NOx	ボイラ	150	36	COD	—	—	
ばいじん	ボイラ	100	0.3	SS	—	—	
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	—	—	
ダイオキシン類				該当なし			

神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社(工場)

■所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
 TEL:093-381-1331 / FAX:093-381-3833
 ■主要製品:復水管、銅合金管、複合材、熱加工品



業務部長 和田 克利

2010年度は生産量の大幅な受注減で改善もおよばず、CO2排出量の原単位が悪化しましたが、水使用量は雨水活用で達成しました。2011年度は前年比で固定電力の10%削減、廃棄物の50%削減およびエコ関連商品開発に取り組めます。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	加熱炉	150	0	COD	30	2.3		
	加熱炉	50	30		SS	100	7	
	加熱炉	150	29			油分	5	<1
ばいじん	加熱炉	50	0	ダイオキシン類			—	—
	加熱炉	50	0					
	加熱炉	100	0					
ダイオキシン類				該当なし				

水質データに含まれる会社: ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 線材工場

アルミ・銅事業部門

神鋼アルミ線材株式会社 本社(工場)

■所在地 〒593-8315 大阪府堺市西区蓋木2丁目2153番地の1
 TEL:072-271-1481 / FAX:072-271-1486
 ■主要製品:アルミ合金棒・線、アルミ線棒加工品



社長 棚山 照美

2010年度は、LNG化を行いCO2排出量の削減を実施しました。潤滑油のリユースを図り、廃油量の削減を行っています。今後の課題としてVOCの排出削減に取り組み、地域住民から信頼される事業者となるよう努力してまいります。

大気				水質				
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)		
NOx	加熱炉	180	109	COD	40	6.9		
	加熱炉	180	74		SS	25	9.6	
	加熱炉	180	73			油分	5	0.5
ばいじん	加熱炉	100	1	ダイオキシン類			—	—
	加熱炉	100	1					
	加熱炉	100	1					
ダイオキシン類				該当なし				

神鋼ノース株式会社 本社(工場)

■所在地 〒315-8523 茨城県かすみがうら市上稲吉1758-1
 TEL:0299-59-4111 / FAX:0299-59-4597
 ■主要製品:建設仮設材・自動車部材などアルミ加工品



社長 渡山 茂幸

環境活動の一つとして省エネルギーに挑戦し、昨年度は乾燥電気固定炉の電力半減を達成しました。この活動が評価され、関東地区電気使用合理化委員会より2011年2月に産業用Bクラス優秀賞を受賞しました。これからもさらなる改善・改革に取り組んでいきます。

大気				水質			
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)	
NOx	ボイラ	適用猶予	98	COD	15	4.5	
ばいじん	ボイラ	適用猶予	10	SS	20	3	
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	5	1	
ダイオキシン類				該当なし			

アルミ・銅事業部門

神鋼リードミック株式会社 本社(工場)

■所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
 TEL:093-381-1337 / FAX:093-381-3352
 ■主要製品:電子部品・半導体集積回路部品



社長 貝賀 史幸

地球環境の保全を配慮し、特に廃棄物発生量の抑制および放流水の再利用の活用を進め、法令遵守を徹底し、社会との共生・協調を図り、顧客および地域から信頼される会社を目指します。

大気				水質			
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)	
NOx	該当なし	—	—	BOD	600	14	
ばいじん	該当なし	—	—	SS	600	2	
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	—	—	
ダイオキシン類				該当なし			

水質データに含まれる会社: 神鋼ファブテック株式会社

ニコーアルミ工業株式会社 本社(工場)

■所在地 〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘16番地の1
 TEL:0285-83-2131 / FAX:0285-84-0458
 ■主要製品:アルミ板材塗装、スリット加工、アルミ板条打抜加工



社長 出田 隆

ISO14001に基づく環境管理の確実な実行と共に、2011年は電力問題をはじめ数々の課題に対処しながら活動推進する必要があります。この非常時にこそ全従業員のさらなる意識向上を図り、環境へ最大限配慮したものづくりを徹底させます。


大気				水質			
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)	
NOx	塗装ライン	230	30	BOD	25	4.8	
ばいじん	塗装ライン	200	1	SS	50	6.0	
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	5	0.5	
ダイオキシン類				該当なし			

アルミ・銅事業部門

株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

■所在地:〒257-0015 神奈川県秦野市平沢65番地
 TEL:0463-82-3111 / FAX:0463-83-1920
 ■主要製品:空調用、給水・給湯用銅管および銅合金管

東日本震災により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。当事業所では、廃液減容処理設備の安定操業をベースに、産業廃棄物の削減やリサイクルの推進を進めてまいりました。今後は省エネルギーによるCO₂排出量削減に重点を置き、地球環境に配慮した運営に努めてまいります。



工場長
原口 一彦

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	溶解炉	200	26	COD	15	10
ばいじん	溶解炉	200	8	SS	35	7.3
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	3	1
				ダイオキシン	—	—

機械事業部門

播磨工場(汎用圧縮機工場)

■所在地:〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島41
 TEL:079-436-2101 / FAX:079-436-2199
 ■主要製品:空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連商品

省エネルギー・CO₂削減を可能にする空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連商品の提供と共に、事業活動における廃棄物の削減・リサイクル化を徹底して、地球温暖化の防止、社会貢献を目指します。2011年4月から新たに業界最高性能を有するヒートポンプの生産も開始し、環境負荷を軽減する商品の拡充を図ります。



工場長
原口 文徳

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	100	8.9
ばいじん	該当なし	—	—	SS	90	52
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	25	0.2
				ダイオキシン	—	—

本社

コベルコ建機株式会社 大垣事業所

■所在地:〒503-0932 岐阜県大垣市本町1682番7号
 TEL:0584-89-3104 / FAX:0584-87-0014
 ■主要製品:建設機械

当事業所では、地域住民との相互信頼のもとに共生していくことを目指して、従業員全員参加で、法令の遵守、環境マネジメントシステムの継続的な維持改善を進めると共に、環境保護、汚染防止に努めてまいります。



事業所長
瀧川 誉


大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	—	—
ばいじん	該当なし	—	—	SS	600	51
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	5	2.6
				ダイオキシン	—	—

水質データは神鋼造機株式会社を含む

コベルコクレーン株式会社 大久保事業所

■所在地:〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740
 TEL:078-936-1331 / FAX:078-938-2015
 ■主要製品:土木建設機械、その他諸機械

当事業所では、機械の低燃費・低騒音・軽量化や風力発電用クレーンなどの開発による省エネルギーへの貢献、また、生産性向上による電力・燃料などの効率的な使用を基本とした生産活動、廃棄物発生量の削減などの活動を通じて、環境負荷低減に取り組んでいます。



事業所長
杉浦 正裕

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	—	—
ばいじん	該当なし	—	—	SS	600	51
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	5	2.6
				ダイオキシン	—	—

1) 鉱油類

機械事業部門

神鋼造機株式会社 本社(工場)

■所在地:〒503-8505 岐阜県大垣市本町1682番地の2
 TEL:0584-89-3121 / FAX:0584-87-0020
 ■主要製品:試験機、動力伝達装置、発電装置、環境関連装置

2010年度に省エネルギー法に基づき、特定事業者、本社工場として第二種エネルギー管理指定工場に指定され、省エネルギー活動に取り組んでいます。また、環境負荷低減・CO₂削減に寄与する製品・技術・サービスの提供といった「ものづくり」を通じて、「人と地球と環境との共生を目指したグローバル企業」として社会に貢献してまいります。



社長
米谷 剛人

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	30	2.8
ばいじん	溶解炉(高周波誘導炉)	200	180	SS	40	<1
	ボイラ	100	30	油分	5	<1
ダイオキシン類	該当なし	—	—	ダイオキシン	—	—


水質データに含まれる会社:コベルコ建機株式会社 大垣事業所

本社

神戸総合技術研究所

■所在地:〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台1丁目5-5
 TEL:078-992-5600 / FAX:078-992-5532
 ■主要製品:—

2008年に「エコアクション21」の認証を取得し、全員参加で電力・上水などの使用量、廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。また、省エネルギー、省資源に資する新製品・新技術の研究開発を通じて、社会に貢献していきます。



開発業務部長
佐伯 公三

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	ボイラ	150	36	BOD	2000	1.1
	ボイラ	150	30	SS	2000	≦1
ばいじん	ボイラ	100	<1	油分	5	≦1
	ボイラ	100	<1	ダイオキシン	—	—
ダイオキシン類	該当なし	—	—	ダイオキシン	—	—

本社

ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 線材工場

■所在地:〒600-0007 福岡県北九州市門司区小森江2-2-1
 TEL:093-391-2835 / FAX:093-391-2847
 ■主要製品:超電導線材

当工場生産した超電導線材は、抵抗ゼロという特徴を活かして、磁場応用装置の省エネルギー化に使用されています。線材の生産でも、環境負荷低減のため、電気・水・廃棄物の削減に工場全員で取り組んでいます。



工場長
宮武 孝之

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	—	—
ばいじん	該当なし	—	—	SS	—	—
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	—	—
				ダイオキシン	—	—

水質データは神鋼メタルプロダクツ株式会社を含む

株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所

■所在地:〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19番地
 TEL:079-436-2500 / FAX:079-436-2506
 ■主要製品:プロセス機器

各職場内の5S活動を積極的に取り入れ、毎月「粉じん清掃の日」を設け、職員全員が安全で働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。また、生産性向上による電力・燃料などの効率的な使用を基本に、省エネルギー活動を推進しています。



所長
平井 等


大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	焼成炉	180	65	COD	28	6.5
	焼成炉	180	47	SS	28	20
	焼成炉	150	51	油分	5	ND
ばいじん	焼成炉	25	2	ダイオキシン	—	—
	焼成炉	25	23			
	焼成炉	25	3			
ダイオキシン類	該当なし	—	—			

本社

株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部

■所在地:〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号
 (株)コベルコ科研 ターゲット事業本部
 TEL:079-445-9020 / FAX:079-445-9025
 ■主要製品:スリットリングターゲット材

当事業本部は、液晶パネルやブルーレイなど電子機器用材料を生産するにあたり、「環境に優しい『ものづくり』」をモットーに、省資源・省エネルギーを目指した製品提供と製造を行っています。



本部長
小宮 幸久


大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	—	—
	溶解炉	200	91	SS	—	—
ばいじん	溶解炉	200	94	油分	5 ¹⁾	9.7*
	溶解炉	200	18	ダイオキシン	—	—
ダイオキシン類	該当なし	—	—			

水質データは高砂製作所を含む

コベルコ建機株式会社 広島事業所

■所在地:〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号
 TEL:082-874-1111 / FAX:082-874-9150
 ■主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

改善活動による生産性の向上や部品物流の抜本的な見直しなどを通じて、製造上のCO₂削減、廃棄物削減などに積極的に取り組んでいます。また、製品では、業界No.1の燃費性能機、HYBRIDシヨベル、リサイクル分野の製品などの積極的な開発、提供を推進しています。



事業所長
平山 正史

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	COD	—	—
ばいじん	該当なし	—	—	SS	—	—
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	—	—
				ダイオキシン	—	—


1) 鉱油類

本社

株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

■所在地:〒651-2241 兵庫県神戸市西区室谷1丁目1番4号
 TEL:078-992-6500 / FAX:078-997-0550
 ■主要製品:—

技術研究所では、2010年度は電気使用量前年度比8.3%削減、廃棄物再資源化率前年度比1.6%向上を達成しました。また、排水基準遵守に対する全所員での緊急事態対応訓練などの取り組みも実施しております。環境関連企業として、地域の環境に配慮した運営に努めております。



所長
浄弘 明彦


大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—	BOD	2000	16
ばいじん	該当なし	—	—	SS	2000	7
ダイオキシン類	該当なし	—	—	油分	5 ¹⁾	2
				ダイオキシン	10	0.0058

1) 鉱油類

神鋼機器工業株式会社 本社(工場)

■所在地:〒682-0014 鳥取県倉吉市海田東町112番地
 TEL:0858-26-8111 / FAX:0858-48-1077
 ■主要製品:高圧ガス容器などのプレス加工品・製品

海、山に囲まれた倉吉の自然豊かな地域との共存を目指し、特に工場排水に注力すると共に、密接した地域の皆様に配慮した塗装時の臭気や騒音対策を進めております。また廃棄物を削減するよう、資源のリサイクル化にも積極的に取り組んでおります。



常務取締役
中井 芳秀

大気				水質		
項目	設備	規制値	実測値(最大)	項目	規制値	実測値(最大)
NOx	ボイラ	260	80	COD	160	1.2
	ボイラ	260	98	SS	200	4.4
	ボイラ	260	86	油分	5	0.5
ばいじん	ボイラ	300	14	ダイオキシン	—	—
	ボイラ	300	49			
	ボイラ	300	6			
ダイオキシン類	該当なし	—	—			

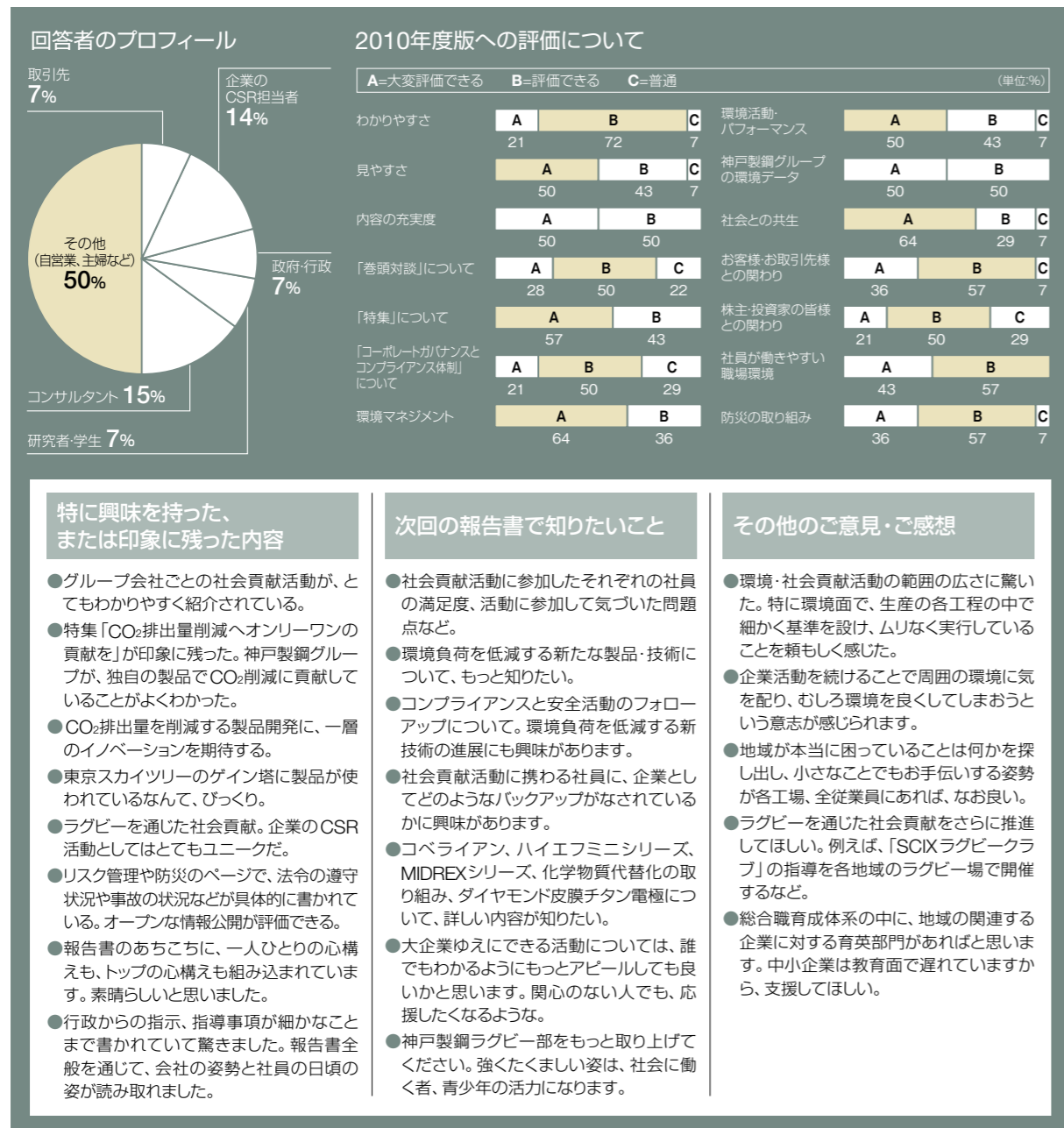
※2010年11月に規制値を超過しました。再発防止対策を実施し、以降規制値超過は発生していません。

皆様の一人ひとりの「声」を活かす、 双方向の環境・社会報告書づくりに取り組みます。

読者の皆様からの評価

神戸製鋼グループは、環境・社会報告書の発行にあたり、毎年、読者の皆様にアンケートを実施しています。2010年度版に関しては、幅広い皆様から以下のようなご意見・ご感想をいただきました。今後も、読者の皆様のさまざまな声を誌面に活かした、双方向の環境・社会報告書づくりを進めてまいります。

2010年度版へのアンケート結果



編集後記

『環境・社会報告書2011』の発刊にあたっては、CSRに対する考え方を明確にすること、文字を大きくし読み易さを向上させること、などに取り組みました。また、巻頭特集で当社グループが運営する科学館「灘浜サイエンススクエア」を取り上げると共に、環境報告面では「生物多様性への取り組み」、社会性

報告面では「チリ地震に伴う製鉄所の高炉復旧支援」などの特集ページを設け、ステークホルダーの皆様当社グループの姿勢が伝わり易くなるよう工夫を凝らしました。今後も読者の皆様から忌憚のないご意見を賜り、内容の充実に努めてまいります。

(株)神戸製鋼所 秘書広報部

COMMENT

第三者コメント



神戸製鋼グループ 「環境・社会報告書2011」を読んで

(株)日本政策投資銀行 環境・CSR部長 竹ヶ原 啓介

PROFILE

1989年、一橋大学法学部卒業。同年、日本開発銀行(現(株)日本政策投資銀行)入行。政策企画部・調査役(環境投融資の企画担当)、事業開発部・CSR推進室長などを経て、現職。東京大学大学院・非常勤講師、経済産業省「金融市場における『環境力』評価手法研究会」委員、環境省「環境ビジネス市場規模・雇用規模調査 対象業種・サービス検討委員会」委員などを歴任。2009年より、中央環境審議会・総合政策部会「環境と金融に関する専門委員会」委員を務める。

「環境・社会報告書2011」を通して強く感じたのは、これまでの環境・社会性の報告から、次の段階へと新たな一歩を踏み出そうとする胎動のようなものです。一言で表現するのは難しいですが、これまで以上に複眼的に課題が設定されており、神戸製鋼グループとしてのCSR経営像を提示しようという新たな方向性が感じられます。

こうした変化を象徴するものとして、「共生」という表現に注目してみたいと思います。報告書では、もっぱら後半の社会的な取り組みに関して強調されていますが、この言葉は、今回の報告を通底するキーワードであるといえましょう。

具体的には、まず、灘浜サイエンススクエアを特集で取り上げ、地域との共生がグループの基盤であることを強調している点に気がつくと思います。同時に、進出先の文化や習慣の多様性を尊重した様々な社会貢献活動が紹介されていることも、グローバル企業としての「共生」のあり方を端的に示すものといえましょう。また、チリのワチバト高炉復旧プロジェクトを巡る技術者の連帯、巻頭の佐藤社長による東日本大震災被災地への呼び掛けも、阪神大震災を経験した当グループならではのシンパシーに満ちたメッセージといえます。

これは報告書の読者との関係性についても当てはまります。2011報告書は、①各分野でのCO₂削減効果、②製品・サービス毎の環境負荷低減効果、③各事業所の責任者からのメッセージなど、昨年の報告書

の特長を維持しつつも、図表の簡略化、文字数の大幅な削減による「バリアフリー化」が進み、大変読みやすいものに進化しています。

「共生」をキーワードにグループの活動を多面的に紹介する今回の報告からは、神戸製鋼グループのCSR経営像の提示という次に控える大きなテーマが遠望出来ませんが、同時に、過渡期ゆえの課題も散見されます。その一つは、CSRの体系化です。報告書13頁では、企業倫理規範と企業行動基準、そして企業活動が、独立した構成要素として、しっかりと連動しながら機能している様子が描かれています。これはこれで説得的ですが、グループとしてのCSRビジョンが報告書の基盤として体系化されているとまではいえず、この後に続く環境報告、社会性報告との連続性がやや分かり難くなっており、今後の課題といえましょう。

また、ステークホルダーからの視点の強化も望まれるところです。昨年申し上げたように、CSR経営が対峙する社会のニーズを論じるうえで、ユーザーや調達先などの声を紹介することは重要と思われる。今回の特集テーマである生物多様性についても、サプライチェーンとの関わりで捉えることにより、事業との関連性をより明確に示せるのではないのでしょうか。

2011年報告書は、環境・社会報告書としては、一つの完成型に到達したと評価出来ます。次回に向けてこれがどのような形に進化していくのか、大いに期待したいと思います。